

2022 年度

講義要綱 (Syllabus)

〈口腔保健学科〉

神戸常盤大学

KOBE TOKIWA UNIVERSITY

口腔保健学科

目 次

1. 基盤教育分野科目 1
2. 1年次開設科目 137

— 索 引 —

【基盤教育分野】

まなぶる▶ときわびとⅠ	1 英語Aa(Communicative English Basic)	42 プログラミング入門	83 教育と人間	120
まなぶる▶ときわびとⅡ	5 英語Ab(Communicative English Intermediate)	48 日本国憲法	86 災害とまちづくり	123
大学道場miniゼミA	8 手話コミュニケーション	54 哲学と倫理	89 国際理解	125
大学道場miniゼミB	11 多文化コミュニケーション	57 生命と倫理	92 科学技術論	127
情報基礎	14 いのちと共生	60 芸術文化論	94 地域との協働A	130
情報メディア演習	17 人類と地球環境	63 文学	97 コミュニティデザイン	133
健康スポーツ科学Ⅰ	20 暮らしの中の数学	65 日本通史	100	
健康スポーツ科学Ⅱ	23 基礎統計学	67 国際社会論	103	
健康スポーツ科学Ⅲ	26 暮らしの中の物理学	70 現代社会学	106	
アカデミックライティング	29 人体のふしぎ	72 経済学	108	
コミュニケーション論	32 現代社会と生命科学	75 組織マネジメント論	111	
英語コミュニケーションⅠ	35 安全学	78 心理臨床学	114	
英語コミュニケーションⅡ	39 人類と農学	80 人間関係論	117	

【1年次】

全身の健康と口腔科学	137
人体の構造と機能	140
生化学・栄養学	146
微生物学・免疫学	149
口腔衛生学	152
歯科衛生士論Ⅰ	155
歯科診療補助論	158
歯科理工学	160
歯科理工学演習	163
歯科診療の補助演習	166
歯科予防処置論	168
歯科予防処置演習Ⅰ	172
口腔健康支援総論	175
口腔健康支援各論	178
学びの基礎	181
早期臨地実習	184

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
まなぶる▶ときわびと I (F11000)	演習	2	60	1	前期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 必修	こども教育学科 保育士必修	光成研一郎
科目担当者	光成研一郎、近藤みづき、大城亜水、京極重智、小崎遼介、溝越祐志、佐野太亮、島袋梢、中田康夫、尾崎優子、江口実希、原希代、紀ノ岡浩美、松岡真菜、坂井利衣、南利明、伊藤彰、桂千広、市川尚、北川薫、長谷川大輔、室崎友輔、浅枝麻夢可、伴仲謙欣、川野亜希、田中達也							

授業の概要	この授業では、そもそも「学ぶ」とはどういうことかを仲間と共に考え、実践し、また卒業後も学び続ける力を身につけてもらうことをねらいとしています。この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。その学習方法を Team Based Learning といいます。これからどのような活動をしていくにしても、またどのような職業に就くとしても、他者との関わりなくして生きていくことはありえません。仲間と共に考え、実践することは、どの社会においても必須の力となります。自分だけの世界に閉じこもることなく、心を開き、楽しく仲間と学び合える授業にしてください。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ (無)) () その他 ()
教員の実務経験	—	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方についてグループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる	【事前】シラバスの熟読 (15分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (45分)
第 2 回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方についてグループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる	【事前】シラバスの熟読 (15分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (45分)
第 3 回	チームの絆を深めよう① テーマ：第一印象	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第 4 回	チームの絆を深めよう① テーマ：第一印象	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第 5 回	チームの絆を深めよう② テーマ：私のコミュニケーション	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第 6 回	チームの絆を深めよう② テーマ：私のコミュニケーション	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第 7 回	チームの絆を深めよう③ テーマ：社会に出て求められる能力とは？ そのために自分がすべきことは？	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第 8 回	チームの絆を深めよう③ テーマ：社会に出て求められる能力とは？ そのために自分がすべきことは？	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第 9 回	ロジカルコミュニケーション①テーマ：リーディング ・話し合い学修 (Learning Through Discussion) の実践	【事前】LTD に備えて、テキストを読む (30分) 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述 (30分)
第 10 回	ロジカルコミュニケーション①テーマ：リーディング ・話し合い学修 (Learning Through Discussion) の実践	【事前】LTD に備えて、テキストを読む (30分) 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述 (30分)
第 11 回	ロジカルコミュニケーション② テーマ：ライティング I ・資料を正確に読み、自分の考えをまとめる	【事前】必要としない 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述 (60分)

第12回	ロジカルコミュニケーション② テーマ：ライティング I ・資料を正確に読み、自分の考えをまとめる	【事前】必要としない 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述 (60分)
第13回	ロジカルコミュニケーション③ テーマ：ライティング II ・レポートの書き方をまなぶ	【事前】必要としない 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述 (60分)
第14回	ロジカルコミュニケーション③ テーマ：ライティング II ・レポートの書き方をまなぶ	【事前】必要としない 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述 (60分)
第15回	ロジカルコミュニケーション④ テーマ：ロジカルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第16回	ロジカルコミュニケーション④ テーマ：ロジカルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第17回	ロジカルコミュニケーション⑤ テーマ：クリティカルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第18回	ロジカルコミュニケーション⑤ テーマ：クリティカルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第19回	ロジカルコミュニケーション⑥ テーマ：テキストシンキング	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第20回	ロジカルコミュニケーション⑥ テーマ：テキストシンキング	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第21回	ロジカルコミュニケーション⑦ テーマ：ビジュアルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第22回	ロジカルコミュニケーション⑦ テーマ：ビジュアルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第23回	ロジカルコミュニケーション⑧ テーマ：アカデミックディベート	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第24回	ロジカルコミュニケーション⑧ テーマ：アカデミックディベート	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第25回	ロジカルコミュニケーション⑨ テーマ：プレゼンテーション I ・プレゼンテーションの準備	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第26回	ロジカルコミュニケーション⑨ テーマ：プレゼンテーション I ・プレゼンテーションの準備	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述 (30分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第27回	ロジカルコミュニケーション⑩ テーマ：プレゼンテーション II ・プレゼンテーションの実践	【事前】プレゼンテーション準備 (60分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第28回	ロジカルコミュニケーション⑩ テーマ：プレゼンテーション II ・プレゼンテーションの実践	【事前】プレゼンテーション準備 (60分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (30分)
第29回	まとめテーマ：リフレクション ・凝縮ポートフォリオの作成 ・プレゼントカードの作成および交換	【事前】必要としない 【事後】自己評価シートの作成 (30分)
第30回	まとめテーマ：リフレクション ・凝縮ポートフォリオの作成 ・プレゼントカードの作成および交換	【事前】必要としない 【事後】自己評価シートの作成 (30分)

学修の到達目標	
到達目標 1	課題について、他者と協力して取り組むことができる。
到達目標 2	根拠に基づき、論理的に考えることができる。
到達目標 3	他者に対して自らの考えを伝えることができる。
到達目標 4	自らの学びに対して、適切に振り返ることができる。
到達目標 5	学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる。
	良	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる。
	可	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない。
到達目標 4	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる（学びを自らの成長と結びつけて振り返る）。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる（学びを総体的に振り返る）。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。
到達目標 5	秀	与えられた課題にとどまらず、それを超えて主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	優	与えられた課題に対して、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	良	与えられた課題に対して、学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができている。
	不可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	20	20	0	20	20	100
到達目標 1	0	0	0	0	0	20	20
到達目標 2	20	0	0	0	0	0	20
到達目標 3	0	0	20	0	0	0	20
到達目標 4	0	0	0	0	20	0	20
到達目標 5	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。(再試験は実施しない)
提出物	manaba 上で提出する。事前・事後課題について、指示通りに取り組み、期限内に提出されたかどうかを評価する。
成果発表 (口頭・実技)	成果発表、プレゼンテーションを評価する。
作品	
ポートフォリオ	授業で取り組むワークシートや振り返りシートが正しくファイリングされ、適切に振り返りができているかどうかを評価する。もちろん正当な理由なく、ワークシートや振り返りシートが欠落していることは減点の対象となる。最終的に凝縮ポートフォリオを作成した上で総合的に評価する。
その他	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。評価は、学生の相互評価と教員による評価で行う。

履修に必要な知識・技能など
<p>この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。まだ見知らぬ人と一緒に半期共に活動をしていくわけですが、特段不安に思うことなく気を楽しんで授業に臨んでほしいと思います。</p> <p>ただし、学ぶことには常に一生懸命であってほしいため、こちらが提示する課題についてはすべて真剣に取り組むようにしてください。</p>

教科書・ISBN
適宜、教材・資料等は配布する。

参考書
使用しない。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
まなぶる▶ときわびとⅡ (F11010)	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 必修	こども教育学科 保育士必修	光成研一郎
科目担当者	光成研一郎、近藤みづき、大城亜水、京極重智、川井綾、内橋一恵、小崎遼介、今西麻樹子、澤村暢、溝越祐志、佐野太亮、中田康夫、中村由果理、伊藤彰、桂千広、市川尚、北川薫、長谷川大輔、室崎友輔、浅枝麻夢可、伴仲謙欣、川野亜希、田中達也							

授業の概要	「まなぶる▶ときわびとⅠ」に引き続き、「まなぶる▶ときわびとⅡ」でも、一貫してグループで活動することを基本とし、Team Based Learning の形式で授業を実施します。「まなぶる▶ときわびとⅡ」では、「まなぶる▶ときわびとⅠ」での学びをさらに発展させて、計画的学修および教えあい、学びあいに取り組みます。 個人の力だけではなく、チームの力を伸ばすことを意識した課題に取り組みます。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業				(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他()			
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方についてグループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる。	【事前】シラバスの熟読 (15分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (45分)
第 2 回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方についてグループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる。	【事前】シラバスの熟読 (15分) 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (45分)
第 3 回	チームの絆を深めようテーマ：チームビルディング	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第 4 回	チームの絆を深めようテーマ：チームビルディング	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述 (60分)
第 5 回	計画的学修と教え合い① アセスメントテスト (プレ大テスト) 学修計画表の作成	【事前】必要としない 【事後】学修計画表の見直し (60分)
第 6 回	計画的学修と教え合い① アセスメントテスト (プレ大テスト) 学修計画表の作成	【事前】必要としない 【事後】学修計画表の見直し (60分)
第 7 回	計画的学修と教え合い② プレ小テストⅠ 協働学修 (学び合い) ポスト小テストⅠ	【事前】プレテスト準備 (30分) 【事後】単元の復習 (30分)
第 8 回	計画的学修と教え合い② プレ小テストⅠ 協働学修 (学び合い) ポスト小テストⅠ	【事前】プレテスト準備 (30分) 【事後】単元の復習 (30分)
第 9 回	計画的学修と教え合い③ プレ小テストⅡ 協働学修 (学び合い) ポスト小テストⅡ	【事前】プレテスト準備 (30分) 【事後】単元の復習 (30分)
第 10 回	計画的学修と教え合い③ プレ小テストⅡ 協働学修 (学び合い) ポスト小テストⅡ	【事前】プレテスト準備 (30分) 【事後】単元の復習 (30分)
第 11 回	計画的学修と教え合い④ プレ小テストⅢ 協働学修 (学び合い) ポスト小テストⅢ	【事前】プレテスト準備 (30分) 【事後】単元の復習 (30分)
第 12 回	計画的学修と教え合い④ プレ小テストⅢ 協働学修 (学び合い) ポスト小テストⅢ	【事前】プレテスト準備 (30分) 【事後】単元の復習 (30分)
第 13 回	計画的学修と教え合い⑤ プレ小テストⅣ 協働学修(学び合い)アセスメントテスト(ポスト大テスト)	【事前】最終テスト対策 (30分) 【事後】単元の復習 (30分)

第 14 回	計画的学修と教え合い⑤ プレ小テストIV 協働学修(学び合い)アセスメントテスト(ポスト大テスト)	【事前】最終テスト対策 (30分) 【事後】単元の復習 (30分)
第 15 回	振り返りシートの作成 (個人・グループ)	【事前】必要としない 【事後】定期試験の準備 (60分)

学修の到達目標	
到達目標 1	課題について、他者と協力して取り組むことができる。
到達目標 2	根拠に基づいて、論理的に考えることができる。
到達目標 3	学ぶこと・知ること、愉しさと喜びを見出すことができる。
到達目標 4	自らの学びに対して、適切に振り返ることができる。
到達目標 5	学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、愉しさと喜びを見出すことができない。
到達目標 4	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる (学びを自らの成長と結びつけて振り返る)。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる (学びを総体的に振り返る)。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。

到達目標 5	秀	与えられた課題にとどまらず、それを超えて主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	優	与えられた課題に対して、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	良	与えられた課題に対して、学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができている。
	不可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	20	10	0	15	25	100
到達目標 1	0	0	0	0	0	25	25
到達目標 2	30	0	0	0	0	0	30
到達目標 3	0	0	10	0	0	0	10
到達目標 4	0	0	0	0	15	0	15
到達目標 5	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。(再試験は実施しない)
提出物	学修計画表を作成するとともに、manaba 上で課題を提出する、事前・事後課題について、指示通りに取り組み、期限内に提出されたかどうかを評価する。
成果発表 (口頭・実技)	SPI の個人成績を反映する。
ポートフォリオ	チーム内での教え合いの工夫・戦略・成果、授業の振り返りなどの記述等を評価する。もちろん正当な理由なく、振り返りシート等が欠落していることは減点の材料となる。最終的に凝縮ポートフォリオを作成した上で総合的に評価する。
その他	ワークの中で積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。

履修に必要な知識・技能など
【準備物】 スマートフォン・ルーズリーフ (A4 サイズ)

教科書・ISBN
9784065265000 これが本当の SPI3 テストセンターだ! 【最新版】 SPI ノートの会

参考書
使用しない

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
大学道場 mini ゼミA (F11020)	演習	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	尾崎雅子
科目担当者	尾崎雅子、林伸英、新谷路子、大澤佳代、栃倉匡文、布引治、高久圭二、山崎麻由美、今井方丈、福田昌代、八木孝和、高橋由希子、庄司靖枝、魚崎須美、黒野利佐子、島内敦子、立垣祐子、中田尚美、橋本好市、中西利恵							

授業の概要	<p>「大学道場 mini ゼミ」は、大学の教員が日夜研鑽を積んでいる研究活動やその他の活動の一端を学生の皆さんと共有し、実際に体験してもらうことをねらいとしています。すなわち、皆さんと教員が同じ方向を向いての活動となります。</p> <p>この授業科目では、「科目担当者」(上記)の数だけ異なったテーマを用意しています。学生の皆さんは、その中から特に興味・関心をもつゼミの一つを選び、受講していただくことになります。各ゼミでは、基本的に5～10名程度の少人数制をとり、教員と学生とが互いに顔が見える近い関係の中で授業を行います。各担当教員のテーマを下に記載しますがゼミでどのようなことを行うか、どのように授業を進めるかということについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。なおゼミの受講は、履修登録とは別に事前の希望申請を必要とします。その手続きについても、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」に示しています。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	基盤教育・大学道場 mini ゼミイントロダクション (担当者：尾崎雅子)	【事前】 シラバスを熟読し、本授業の概要を理解する(120分) 【事後】 自分が参加するゼミの内容について調べてみる(120分)
第2回 ～ 第8回	第2～8回は事前に選択したゼミに参加し、学習を進める。 担当教員のゼミのテーマは以下の通り 八木孝和「あなたの人生100年を設計してみよう」 中田尚美「サブカルチャー・スタディーズ」 立垣祐子「思春期のメンタルヘルスとセルフケア」 山崎麻由美「翻訳のいろは」 高橋由希子「災害医療教育」 大澤佳代「常在細菌の基本(微生物学)」 橋本好市「「生きる」と「生活」の違いって何？じゃあ、生活を支えるって何？～福祉的視点から考えてみよう～」 福田昌代「口の機能と全身の健康との関係性」 中西利恵「〇〇とSDGsを考えよう ～SDGsの思想、原理等に焦点をおいて～」 今井方丈「パソコンで画像処理！」 高久圭二「放射線とどう付き合うか」 林伸英「医療職でのワンステップアップを目指す道筋を探ろう」 新谷路子「かたりから入る解剖学 –まず描いてみよう–」 黒野利佐子「戦争と紛争とグローバリゼーション・グローバルヘルス」 島内敦子「ピアサポートによる性教育」 庄司靖枝「子どもウォッチングー子どもの行動を探求するー」 魚崎須美「フロレンス・ナイチンゲールの生涯と看護思想」 布引治「世界の今を考える」 栃倉匡史「動物から人に感染する動物由来感染症について考える」	【事前】 各ゼミの教員と相談し、各自必要な事前学習をゼミの前に行うこと(各120分) 【事後】 各ゼミの教員と相談し、各自必要な事後学習をゼミの前に行うこと(各120分)

学修の到達目標	
到達目標 1	「学び」本来の喜びや愉しさを知ることができる。
到達目標 2	これまで気づくことのなかった新たな気づきや発見（≒教養）を得ることができる。
到達目標 3	集団の中で協調性をもちながら議論をする過程で、互いに考えを深めることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、実際に主体的に学びを進めており、その学びの質が特に優れている。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、実際に主体的に学びを進めている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せている。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられない。
到達目標 2	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。その結果得られた事項に対して、次なる課題を見出し自主的に探究することができる。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、一定程度自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、教員や他の学生に促されれば、ある程度自ら考え、突き詰めていくことができる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自ら考えることができない。
到達目標 3	秀	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を尊重し、十分に理解しようとする態度が見られる。また自らの考えを押し付けることなく、意見交換の場に積極的に参加することができる。
	優	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を尊重し、理解しようとする態度が見られる。また自らの考えを押し付けることなく、意見交換の場に参加することができる。
	良	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いて相手の意見を聴くことができる。また自らの考えも示すことができる。
	可	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場を意識することは少ない。また促されれば自らの意見を示すことができる。
	不可	ゼミでの取り組みにおいて、意見交換ができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	0	0	0	0	60	100
到達目標 1	20	0	0	0	0	20	40
到達目標 2	20	0	0	0	0	20	40
到達目標 3	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験（課題は担当教員によって異なる）
その他	ゼミによって異なる（「提出物」、「成果発表」、「作品」、「ポートフォリオ」を含む）

履修に必要な知識・技能など

“ゼミ”がいったいどういうものなのか、想像がつかない方が大半かと思いますが、事前に必要な知識・技能はありません。幅広く教養を得る機会になりますので、自分が所属する学科以外の先生方のゼミを選択してみましょう。安心してゼミに臨んでください。是非、一緒になったゼミの仲間と互いに協力・協調しながら学んでください。詳細は別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。テーマは変更になる場合があります。本科目では追再試験（レポート試験）を行いません。担当教員の指示どおり、期限までにレポートを提出してください。

教科書・ISBN

各ゼミ担当教員の指示による

参考書

各ゼミ担当教員の指示による

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
大学道場 mini ゼミ B (F11030)	演習	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	尾崎雅子
科目担当者	尾崎雅子、松元英里子、鈴木高史、畠榮、坊垣美也子、高久圭二、松田正文、山城圭介、上原弘美、吉田幸恵、岩越美恵、十九百君子、藤原桜、山口有美、伊東愛、笹井隆邦							

授業の概要	<p>「大学道場 mini ゼミ」は、大学の教員が日夜研鑽を積んでいる研究活動やその他の活動の一端を学生の皆さんと共有し、実際に体験してもらおうことをねらいとしています。すなわち、皆さんと教員が同じ方向を向いての活動となります。</p> <p>この授業科目では、「科目担当者」(上記)の数だけ異なったテーマを用意しています。学生の皆さんは、その中から特に興味・関心をもつゼミを一つ選び、受講していただくこととなります。各ゼミでは、基本的に4～20名程度の少人数制をとり、教員と学生とが互いに顔が見える近い関係の中で授業を行います。各担当教員のテーマを下に記載しますがゼミでどのようなことを行うか、どのように授業を進めるかということについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。なおゼミの受講は、履修登録とは別に事前の希望申請を必要とします。その手続きについても、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」に示しています。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	() ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他()
教員の実務経験	—	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	基盤教育・大学道場 mini ゼミイントロダクション (担当者：尾崎雅子)	【事前】 シラバスを熟読し、本授業の概要を理解する(120分) 【事後】 自分が参加するゼミの内容について調べてみる(120分)
第2回 ～ 第8回	第2回～8回は事前に選択したゼミに参加し、授業を進める。 担当教員とゼミのテーマは以下の通り 畠 榮「細胞診断学に関する論文を読み内容を理解する」 鈴木高史「「遺伝子組換え」について考える」 岩越恵美「共に生きる」 松田正文「汚れた血液をきれいに」 高久圭二「核アレルギーを根絶できるか」 坊垣美也子「細胞のしくみ・はたらきを学ぶ・識る、伝える」 笹井隆邦「自然の中で遊ぼう」 吉田幸恵「口に興味を持とう」 山城圭介「低栄養になるとどうなるの？」 伊東 愛「安全・安心・健やかに。住み慣れた地域での生活を考えてみよう ～高齢者に関わる社会的な問題・課題を題材に～」 松元英里子「今、話題のニュースを理解するために必要な生命科学を、皆で学び、人に伝える」 山口有美「少子高齢社会を経済学の視点で考えてみよう」 藤原 桜「ココロとカラダの調和を促すケア」 上原弘美「口腔と全身の関係」 十九百君子「触れること・触れられること ～人間の皮膚感覚とところとの関係～」	【事前】 各ゼミの教員と相談し、各自必要な事前学習をゼミの前に行うこと(各120分) 【事後】 各ゼミの教員と相談し、各自必要な事後学習をゼミの前に行うこと(各120分)

学修の到達目標	
到達目標 1	「学び」本来の喜びや愉しさを知ることができる。
到達目標 2	これまで気づくことのなかった新たな気づきや発見（≒教養）を得ることができる。
到達目標 3	集団の中で協調性をもちながら議論をする過程で、互いに考えを深めることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、実際に主体的に学びを進めており、その学びの質が特に優れている。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、実際に主体的に学びを進めている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せている。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられない。
到達目標 2	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。その結果得られた事項に対して、次なる課題を見出し自主的に探究することができる。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、一定程度自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、教員や他の学生に促されれば、ある程度自ら考え、突き詰めていくことができる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自ら考えることができない。
到達目標 3	秀	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を尊重し、十分に理解しようとする態度が見られる。また自らの考えを押し付けることなく、意見交換の場に積極的に参加することができる。
	優	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を尊重し、理解しようとする態度が見られる。また自らの考えを押し付けることなく、意見交換の場に参加することができる。
	良	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いて相手の意見を聴くことができる。また自らの考えも示すことができる。
	可	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場を意識することは少ない。また促されれば自らの意見を示すことができる。
	不可	ゼミでの取り組みにおいて、意見交換ができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	0	0	0	0	60	100
到達目標 1	20	0	0	0	0	20	40
到達目標 2	20	0	0	0	0	20	40
到達目標 3	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験（課題は担当教員によって異なる）
その他	ゼミによって異なる（「提出物」、「成果発表」、「作品」、「ポートフォリオ」を含む）

履修に必要な知識・技能など

“ゼミ”がいったいどういうものなのか、想像がつかない方が大半かと思いますが、事前に必要な知識・技能はありません。安心してゼミに臨んでください。是非、一緒になったゼミの仲間と互いに協力・協調しながら学んでください。詳細は別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。テーマは変更になる場合があります。本科目では追再試験（レポート試験）を行いません。担当教員の指示どおり、期限までにレポートを提出してください。

教科書・ISBN

各ゼミ担当教員の指示による

参考書

各ゼミ担当教員の指示による

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
情報基礎 (F12000)	演習	1	30	1	前期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	看護学科 養教免必修 こども教育学科 保育士選択必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	中田康夫
科目担当者	中田康夫、大森雅人、佐野太亮、市川尚、室崎友輔、大城亜水、伴仲謙欣							

授業の概要	<p>昨今、Society5.0等の喫緊のデータ・デジタル化社会や持続可能社会（SDGs等）に向け、文系・理系を問わず、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育が必要となっています。</p> <p>そこで本演習は、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術に関する基礎（入門）的な学修と、大学生活や就職活動において必要となるコンピューターやインターネットスキルの1つであるWindowsやMicrosoft Officeのアプリケーションの基本的な操作方法を学修します。</p>							
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援</p> <p>() ディスカッション、ディベート (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション</p> <p>() 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>(レ) 反転授業 () その他 ()</p>							
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	導入、学内でのICTの利活用①（ポータル、manaba、プリント等の使い方）	【事前】シラバスに目を通し、授業の流れ、学修の到達目標等を把握（30分） 【事後】本単元の学修内容の復習（30分）
第2回	学内でのICTの利活用②（gmail、googledrive、onedrive、office365、google アンケート、伝助 etc）	【事前】gmail、googledrive、onedrive、office365等について予習（30分） 【事後】本単元の復習（30分）
第3回	データ・AIを扱うときの留意事項	【事前】メールの活用術（manabaの使い方、ビジネスメールの書き方・送り方）について予習（30分） 【事後】本単元の復習と活用（30分）
第4回	データ保護の留意事項	【事前】デジタル社会におけるデータ保護に関して予習（30分） 【事後】本単元の復習（30分）
第5回	社会におけるデータ・AIの利活用①（事例紹介）	【事前】社会におけるデータ・AIの利活用について予習（30分） 【事後】本単元の復習（30分）
第6回	文書作成ソフトの操作①（チラシの作成）	【事前】キーボード入力への習熟（30分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30分）
第7回	文書作成ソフトの操作②（ポスターの作成）	【事前】前回課題の遂行とソフトへの習熟（30分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30分）
第8回	プレゼンテーションソフトの操作	【事前】プレゼンテーションソフトに関して予習（30分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30分）
第9回	社会におけるデータ・AIの利活用②（データ・AI活用領域の広がりや、技術概要の解説概要の解説）	【事前】データ・AI活用領域の広がりや技術概要について予習（30分） 【事後】本単元の復習（30分）

第 10 回	データドリブン（駆動）型社会について	【事前】データドリブン（駆動）型社会に関する予習（30分） 【事後】本単元の復習（30分）
第 11 回	データを読む	【事前】「表計算ソフト」に関して予習（30分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30分）
第 12 回	データを扱う際の留意事項	【事前】データを扱う際の留意事項に関する予習（30分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30分）
第 13 回	データを扱う	【事前】データの取り扱いに関して予習（30分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30分）
第 14 回	データを説明する	【事前】データの説明方法に関して予習（30分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30分）
第 15 回	まとめ・学修の到達目標の確認	【事前】第 1 回～第 14 回までの学修内容のリフレクション（30分） 【事後】今後の自己の課題の明確化（30分）

学修の到達目標	
到達目標 1	パソコン活用に関する基礎的なスキルを用いて、授業内で与えられた課題を達成することができる。
到達目標 2	データドリブン（駆動）型社会について基本事項を理解したうえで、データを収集・分析・説明するための基礎的な知識とスキルについて説明できる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	基礎的なスキルのみならず、能動的・主体的な学修によりスキルを向上させようとしている。
	優	基礎的なスキルを十分なレベルで修得している。
	良	基礎的なスキルを修得しているが、十分なレベルには達していない。
	可	必要最低限のスキルを修得している。
	不可	必要最低限のスキルを修得していない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に説明することができ、なおかつ、根拠の限界も認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に説明することができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に説明することができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に説明することができる。
	不可	根拠に基づき論理的に明することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	0	0	30	0	0	100
到達目標 1	0	0	0	30	0	0	30
到達目標 2	70	0	0	0	0	0	70

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15回の学修を踏まえ、レポート課題の提出を課す。
作品	学修課題の達成状況で評価する。

履修に必要な知識・技能など
<p>USBメモリを必ず持参すること（演習内で作成したファイルを保管するため）。</p> <p>基本的なキーボード操作ができることを前提とする。本授業では、そうした操作スキルを活用しての応用的な内容で授業を行う。各授業は、相互に関連した内容で構成されているので、欠席や遅刻があると学習成果が著しく低下するので注意してほしい。</p>

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
情報メディア演習 (F12010)	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 選択	看護学科 養教免必修 こども教育学科 保育士選択必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	大森雅人
科目担当者	大森雅人、中田康夫、伊藤彰、室崎友輔、大城亜水、伴仲謙欣							

授業の概要	<p>昨今、Society5.0等の喫緊のデータ・デジタル化社会や持続可能社会(SDGs等)に向け、文系・理系を問わず、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育が必要となっています。</p> <p>そこで本演習は、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術に関する応用的な学修と、大学生活や就職活動、社会人として必要となるプレゼンテーションに関する技法を学修します。</p>							
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () ディスカッション、ディベート (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 実習、フィールドワーク (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・無) () 反転授業 () その他 ()</p>							
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	導入、プレゼンのためハードに関するスキル・テクニック①(動画配信)	【事前】プレゼンのためハードに関するスキル・テクニック(動画配信)に関して予習(30分) 【事後】本単元の復習(30分)
第2回	プレゼンのためハードに関するスキル・テクニック②(遠隔会議)	【事前】プレゼンのためハードに関するスキル・テクニック(遠隔会議)に関して予習(30分) 【事後】本単元の復習(30分)
第3回	ICT・データサイエンスに役に立つソフトの活用	【事前】ICT・データサイエンスに役に立つソフトの活用に関して予習(30分) 【事後】本単元の復習(30分)
第4回	デジタル社会で起きている変化	【事前】デジタル社会で起きている変化に関して予習(30分) 【事後】本単元の復習(30分)
第5回	デジタル社会で活用されているデータ	【事前】デジタル社会で活用されているデータに関して予習(30分) 【事後】本単元の復習(30分)
第6回	第1回プレゼンテーションに向けた準備①(グループワーク:企画・立案/スライド作成)	【事前】「情報基礎」で学修したパワーポイントの操作方法の復習(30分) 【事後】課題の遂行(30分)
第7回	第1回プレゼンテーションに向けた準備②(グループワーク:スライド作成/予行演習)	【事前】課題の遂行(30分) 【事後】課題の遂行(30分)
第8回	第1回プレゼンテーション本番	【事前】課題の遂行(30分) 【事後】自分たちの発表に対する個人のリフレクション(30分)
第9回	データ・AI利活用のための技術	【事前】データ・AI利活用のための技術に関して予習(30分) 【事後】本単元の復習(30分)
第10回	データ・AI利活用の現場	【事前】データ・AI利活用の現場に関して予習(30分) 【事後】本単元の復習(30分)

第 11 回	データ・AI 利活用の最新動向	【事前】データ・AI 利活用の最新動向に関して予習 (30 分) 【事後】本単元の復習 (30 分)
第 12 回	データ・AI の活用領域 (さまざまな領域でデータ・AI が活用されていることを知る) 第 2 回プレゼンテーション準備① (グループワーク：企画・立案／スライド作成)	【事前】第 1 回プレゼンテーション後のリフレクション内容の確認 【事後】課題の遂行 (30 分)
第 13 回	第 2 回プレゼンテーションに向けた準備② (グループワーク：スライド作成／予行演習)	【事前】課題の遂行 (30 分) 【事後】課題の遂行 (30 分)
第 14 回	第 2 回プレゼンテーション本番	【事前】課題の遂行 (30 分) 【事後】自分たちの発表に対する個人のリフレクション (30 分)
第 15 回	まとめ・学修の到達目標の確認	【事前】第 1 回～第 14 回までの学修内容のリフレクション (30 分) 【事後】今後の自己の課題の明確化 (30 分)

学修の到達目標

到達目標 1	資料を分析・整理し、プレゼンテーションができる。
到達目標 2	データ・AI 利活用のために必要な知識や技術について説明できる。

ルーブリック

評価基準		
到達目標 1	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は実社会で通じるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果は解の導きに有効である。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に説明することができ、なおかつ、根拠の限界も認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に説明することができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に説明することができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に説明することができる。
	不可	根拠に基づき論理的に説明することができない。

評価方法と評価項目の関係

評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	40	0	0	0	100
到達目標 1	0	0	40	0	0	0	40
到達目標 2	40	20	0	0	0	0	60

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業後に、レポート課題を課す。
提出物	学修内容ごとに提出物を課す。学修内容に則した具体的な記述が必要となる。
成果発表 (口頭・実技)	PowerPoint を活用して発表する機会を 2 回設ける。その際には、効果的な発表になるように、必ず何らかの役割を果たすようにすること。

履修に必要な知識・技能など

PC 操作に関するスキルを、すでに修得していることを前提とする。本授業では、そうした操作スキルを活用しての応用的な内容で授業を行う。各授業は、相互に関連した内容で構成されているので、欠席や遅刻があると学習成果が著しく低下するので注意してほしい。

教科書・ISBN

使用しません。

参考書

適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
健康スポーツ科学 I (F12020)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 選択	看護学科 養教免必修 こども教育学科 保育士必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	近藤みづき
科目担当者	近藤みづき、岩越美恵、吉田幸恵、八木孝和、松本大祐							

授業の概要	この講義の目標は、健康について幅広い分野から考究するものです。普段当たり前にある健康を医学、生理学、保健学、口腔保健学、栄養学、体育学等の分野から解き明かしていきます。各自のライフスタイルを見直し、変革のきっかけになることを期待します。							
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業				(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援			
	() ディスカッション、ディベート				(レ) グループワーク () プレゼンテーション			
	() 実習、フィールドワーク				() 課題解決型学習(外部協定 有・無)			
	() 反転授業				() その他 ()			
教員の実務経験	歯科医師、大学での教育・臨床経験を20年以上を有している。専門は歯科矯正学(歯並び)・口腔生理学							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション (担当者：近藤)	【事前】シラバスを熟読する(100分) 【事後】ふりかえりシートの提出(125分)
第2回	睡眠のメカニズムについて (担当者：岩越)	【事前】自分の睡眠状況についてまとめておく(100分) 【事後】ふりかえりシートの提出(125分)
第3回	口の健康について (担当者：八木)	【事前】自身の口腔内に対する習慣や考え方、全身との関係性についての知識についてまとめておく(100分) 【事後】ふりかえりシートの提出(125分)
第4回	栄養について (担当者：吉田)	【事前】自身の栄養状態についてまとめておく(100分) 【事後】ふりかえりシートの提出(125分)
第5回	運動と体力について (担当者：近藤)	【事前】今までの体力テストの結果等を用いて、自身の体力についてまとめておく(100分) 【事後】ふりかえりシートの提出(125分)
第6回	運動と筋肉について (担当者：松本)	【事前】筋肉について調べておく(100分) 【事後】ふりかえりシートの提出(125分)
第7回	運動とストレスについて (担当者：松本)	【事前】自身がストレスを受けやすい状況をまとめておく(100分) 【事後】ふりかえりシートの提出(125分)
第8回	学修の到達目標の確認 (担当者：近藤)	【事前】第1回～第7回の学修内容をまとめておく(100分) 【事後】ふりかえりシートの提出(125分)

学修の到達目標	
到達目標1	授業で取り扱う健康や運動に関する基本的な知識が修得できる。
到達目標2	授業で取り扱う健康や運動に関する知識を、自分の生活に即して考え、生活改善の行動に移すことができる。
到達目標3	授業で学んだ健康や運動に関する知識について、自ら振り返り、その内容をまとめることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準を超えて、周囲の知識と併せて理解を深め、健康について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで超えて、周囲の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで修得しておらず、努力の過程も認められない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えた上で自身の健康の増進のために行動でき、他者にも良い影響を及ぼすことができる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えた上で自身の健康の増進のために行動できる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、行動に移す計画を立てることができる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができず、その努力の過程も認められない。
到達目標 3	秀	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができ、さらに自らの考えを反省的に述べることができる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができ、さらに自らの考えを反省的に述べるようとする努力が認められる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準を超えてまとめることができる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	30	0	0	0	0	50
到達目標 2	20	15	0	0	0	0	35
到達目標 3	0	15	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。
提出物	毎回のふりかえりシート

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業で進めるので、提出期限までに確実に提出すること。 ・専門職業人を目指す学生として、自身の健康に関して高い意欲と関心をもって受講して下さい。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書

担当教員より適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標	
到達目標 1	各種スポーツの実践を通して身体活動量や運動強度などの身体の変化を理解することができる。
到達目標 2	各種スポーツの実践と健康を自らの生活に結び付けて考えることができる。
到達目標 3	各種スポーツのルールやマナーを遵守し、仲間と協調・協働して動くことができる。
到達目標 4	健康の保持増進に向けて、ある程度自発的に心身や生活態度などの自己管理ができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで到達していて、他者に説明することができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで到達していて、他者に説明することができる。
	良	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標 2	秀	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、自身の健康の増進のために行動でき、他者にも良い影響を及ぼすことができる。
	優	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、自身の健康の増進のために行動できる。
	良	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、若干であるが自身の健康の増進のために行動できる。
	可	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができる。
	不可	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができない。
到達目標 3	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がり、結果としてチームを課題達成に導くことができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働できる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば協調・協働に作業することが認められる。
	不可	周囲と協調・協働する意志が認められない。
到達目標 4	秀	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。さらに、その自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	良	健康の保持増進に向けて、ある程度自発的に心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	可	健康の保持増進に向けて、他者の助言や指導のもと、心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	不可	健康の保持増進に向けて、心身や生活態度などの自己管理ができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	30	0	0	30	100
到達目標 1	0	30	15	0	0	0	45
到達目標 2	0	10	0	0	0	10	20
到達目標 3	0	00	10	0	0	10	20
到達目標 4	0	0	5	0	0	10	15
到達目標 5	0	0	0	0	0	0	0

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	学修のふりかえりシート・レポート課題
成果発表 (口頭・実技)	実技・試合結果
その他	授業への主体性、活動量

履修に必要な知識・技能など
運動に適した服装と靴（室内用・屋外用）の準備を準備すること。アクセサリ等の着用は認めない。 雨天の場合は、授業場所、内容を変更することがある。 この科目は履修制限があり、希望者が多い場合は抽選する。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
必要に応じて、随時配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
健康スポーツ科学Ⅲ (F12040)	実技	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	こども教育学科 保育士必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	近藤みづき
科目担当者	近藤みづき、柳本太三							

授業の概要	健康の保持増進に運動が不可欠であるにもかかわらず、利便性の進んだ現代社会において、私たちは慢性的な運動不足に陥りがちである。 授業では、実際に身体を動かすことで運動、スポーツの楽しさや爽快感を体感する。また、運動・スポーツの実践を通し、コミュニケーション能力を高めるとともに、基本的な技能や知識を修得し、ルール・マナーを遵守する態度を育成する。また、新しい動きかたを修得する過程を通じて、生涯にわたって主体的に運動・スポーツに取り組むことの重要性を理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () ディスカッション、ディベート () グループワーク () プレゼンテーション () 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () 反転授業 () その他 ()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーションとグループ分け (担当者: 近藤・柳本)	【事前】シラバスを熟読し授業概要を理解しておく (30分) 【事後】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分)
第2回	第1グループ: テニス①ラケットティング (担当者: 近藤) 第2グループ: バスケットボール①ボール慣れ、基本技能 (シュート・ドリブル・パス)(担当者: 柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分) 【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第3回	第1グループ: テニス②基本のストローク (担当者: 近藤) 第2グループ: バスケットボール②ゲームを中心とした攻防 (オフェンスの基本の動き) (担当者: 柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分) 【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第4回	第1グループ: テニス③クロスラリー (担当者: 近藤) 第2グループ: バスケットボール③ゲームを中心とした攻防 (ディフェンスの基本の動き)(担当者: 柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分) 【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第5回	第1グループ: テニス④サービスレシーブ (担当者: 近藤) 第2グループ: バスケットボール④作戦を工夫したゲーム (担当者: 柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分) 【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第6回	第1グループ: テニス⑤ダブルスゲームの進め方 (担当者: 近藤) 第2グループ: バレーボール①ボール慣れ、基本技能 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) (担当者: 柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分) 【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第7回	第1グループ: テニス⑥ダブルスゲーム (担当者: 近藤) 第2グループ: バレーボール②基本技能 (サーブ・レシーブ) とミニゲーム (担当者: 柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分) 【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第8回	第1グループ: テニス⑦戦術を含んだダブルスゲーム (担当者: 近藤) 第2グループ: バレーボール③ゲーム (担当者: 柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分) 【事後】レポート課題を提出する (30分)
第9回	第1グループ: バスケットボール①ボール慣れ、基本技能 (シュート、ドリブル、パス)(担当者: 柳本) 第2グループ: テニス①ラケットティング (担当者: 近藤)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分) 【事後】ふりかえりシート提出 (30分)

第10回	第1グループ：バスケットボール②ゲームを中心とした攻防 (オフェンスの基本の動き) (担当者：柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分)
	第2グループ：テニス②基本のストローク (担当者：近藤)	【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第11回	第1グループ：バスケットボール③ゲームを中心とした攻防 (ディフェンスの基本の動き) (担当者：柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分)
	第2グループ：テニス③クロスラリー (担当者：近藤)	【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第12回	第1グループ：バスケットボール④作戦を工夫したゲーム (担当者：柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分)
	第2グループ：テニス④サーブレース (担当者：近藤)	【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第13回	第1グループ：バレーボール①ボール慣れと基本技能 (オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) (担当者：柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分)
	第2グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方 (担当者：近藤)	【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第14回	第1グループ：バレーボール②基本技能 (サーブ・レース) とミニゲーム (担当者：柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分)
	第2グループ：テニス⑥ダブルスゲーム (担当者：近藤)	【事後】ふりかえりシート提出 (30分)
第15回	第1グループ：バレーボール③ゲーム (担当者：柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30分)
	第2グループ：テニス⑦戦術を含んだダブルスゲーム (担当者：近藤)	【事後】レポート課題を提出する (30分)

学修の到達目標	
到達目標 1	各種運動やスポーツの基本的な技能の修得を通じて運動やスポーツを楽しむことができる。
到達目標 2	各種運動やスポーツの基本的な知識 (特性、ルール、マナー等) の修得を通じて運動やスポーツを楽しむことができる。
到達目標 3	各種の運動やスポーツを通じて他者とコミュニケーションをとり、協力して課題を達成することができる。
到達目標 4	健康の保持増進に対して自己の心身や生活態度などを管理することができる。
到達目標 5	運動やスポーツに主体的に取り組むことができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、何ら心身の束縛も障害もなく、状況に応じて自分の身体を自在に動かすことができる。
	優	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、状況に応じて自分の身体を動かすことができる。
	良	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで到達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標 2	秀	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していて、行動に移すことができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していて、さらに行動に移すことができる。
	良	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達しておらず、その努力の過程も認められない。

到達目標 3	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がり、結果としてチームを課題達成に導くことができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働できる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば協調・協働に作業することが認められる。
	不可	周囲と協調・協働する意志が認められない。
到達目標 4	秀	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。さらに、その自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	良	健康の保持増進に向けて、ある程度自発的に心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	可	健康の保持増進に向けて、他者の助言や指導のもと、心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	不可	健康の保持増進に向けて、心身や生活態度などの自己管理ができていない。
到達目標 5	秀	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与え、良い結果をもたらすことができる。
	優	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与えている。
	良	運動への関心や自ら運動する意欲が認められ、ある程度積極的に授業への参加が認められる。
	可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。
	不可	他者の助言や指導があっても授業へ積極的な参加が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	35	35	0	0	30	100
到達目標 1	0	10	25	0	0	0	35
到達目標 2	0	15	0	0	0	0	15
到達目標 3	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 4	0	0	0	0	0	10	10
到達目標 5	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	レポート課題やふりかえりシート
成果発表 (口頭・実技)	実技・試合結果
その他	主体性、活動量

履修に必要な知識・技能など
<p>学校指定のポロシャツ着用すること。</p> <p>運動に適した服装と靴（室内用・屋外用）の準備をし、長い髪は結び、アクセサリー等の着用は認めない。</p> <p>雨天の場合は、授業場所、内容を変更することがある。</p> <p>本科目は履修制限があり、希望者が多い場合は抽選する。但し必修や資格必修になっている学科は抽選の対象外とする。</p>

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
アカデミックライティング (F12050)	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	山下敦子
科目担当者	山下敦子、牛頭哲宏、神田大輔							

授業の概要	<p>この授業では、大学における学修や研究に必要な論理的な思考力、論理的な表現力の基礎、基本を習得することを目標とする。ときわコンピテンシーでは「知性」の分野に相当する。知識を関連させ、多面的・多角的に吟味し、表現する力は、医療、教育の専門的職業人には必須の力である。</p> <p>第1段階では、「言語技術」の基礎を学び、表現の「論理」について学ぶ。 第2段階では、「パラグラフライティング」の基礎を学び、論理的に書くことを習得する。 第3段階では、「縮約文」の基礎を学び、読解力と文章表現力の総合的な力を鍛える。</p> <p>毎回、課題が出題される。各回の授業、各段階の内容は、それぞれ次の授業や段階の内容と関連している。復習や課題に取り組むことによって、「言葉の力」が積み上がり、定着していくので、主体的に学修することを期待している。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () ディスカッション、ディベート () グループワーク () プレゼンテーション () 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () 反転授業 () その他 ()</p>
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	・オリエンテーション「アカデミックに表現するとは」 (担当者：神田、山下、牛頭) ・言語技術(1) 接続表現、転換、補足	【事前】シラバス内容の熟読 (30分) 【事後】学びの確認 (30分)
第2回	言語技術(2) 論証—演繹と推測— (担当者：神田)	【事前】既習事項の確認 (30分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30分)
第3回	言語技術(3) 隠れた前提 (担当者：神田)	【事前】既習事項の確認 (30分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出 (30分)
第4回	言語技術(4) 代替仮説 (担当者：神田)	【事前】既習事項の確認 (30分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30分)
第5回	言語技術(5) 論証の批判 (担当者：神田)	【事前】既習事項の確認 (30分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30分)
第6回	パラグラフライティング(1) パラグラフのルール (担当者：山下、神田)	【事前】既習事項の確認 (30分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30分)
第7回	パラグラフライティング(2) トピックセンテンスの書き方 (担当者：山下、神田)	【事前】既習事項の確認 (30分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30分)
第8回	パラグラフライティング(3) コンクルーディングセンテンスの書き方 (担当者：山下、神田)	【事前】既習事項の確認 (30分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30分)

第 9 回	パラグラフライティング(4) 分析、説明を書く (担当者：山下、神田)	【事前】既習事項の確認 (30 分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30 分)
第 10 回	パラグラフライティング(5) 論理的に書く (担当者：山下、神田)	【事前】既習事項の確認 (30 分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30 分)
第 11 回	縮約文(1) 基礎 (担当者：牛頭、神田)	【事前】既習事項の確認 (30 分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30 分)
第 12 回	縮約文(2) 応用 (担当者：牛頭、神田)	【事前】既習事項の確認 (30 分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30 分)
第 13 回	縮約文(3) フィードバック (担当者：牛頭、神田)	【事前】既習事項の確認 (30 分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30 分)
第 14 回	縮約文(4) 実践 (担当者：牛頭、神田)	【事前】既習事項の確認 (30 分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30 分)
第 15 回	縮約文(5) 実践のフィードバック まとめ、学びの振り返り (ポートフォリオ) (担当者：牛頭、山下、神田)	【事前】既習事項の確認 (30 分) 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する (30 分)

学修の到達目標

到達目標 1	言語技術における「論理」について理解し、表現に活かすことができる。
到達目標 2	パラグラフライティングについて理解し、論理的に書くことができる。
到達目標 3	縮約文について理解し、言語技術やパラグラフのルールを意識して、読解、表現することができる。

ルーブリック

		評価基準
到達目標 1	秀	論理についての確に理解し、目的や場に応じて適切に表現することができている。
	優	論理について理解し、目的や場に応じて適切に表現することができている。
	良	論理について理解し、表現に活用することができている。
	可	論理について知識としての理解はあるが、表現に活用することが不十分である。
	不可	論理について理解しておらず、表現に活用することができない。
到達目標 2	秀	パラグラフライティングについての確に理解し、目的意識や相手意識をもって、論理的に表現することが十分にできている。
	優	パラグラフライティングについての確に理解し、目的意識や相手意識をもって、論理的に表現することができている。
	良	パラグラフライティングについての確に理解し、論理的に表現することができている。
	可	パラグラフライティングについての確に理解しているが、表現に活用することが不十分である。
	不可	パラグラフライティングについて理解しておらず、表現に活用することができない。
到達目標 3	秀	縮約文についての確に理解し、論理的に読解したり文章表現したりすることが十分にできている。
	優	縮約文についての確に理解し、論理的に読解したり文章表現したりすることができている。
	良	縮約文について理解し、読解や文章表現に活かすことができている。
	可	縮約文について理解しているが、読解や文章表現に活用することが不十分である。
	不可	縮約文について理解しておらず、読解や文章表現に活用することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	30	0	0	10	0	100
到達目標 1	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 2	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 3	20	10	0	0	10	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業を通して学んだ言語技術、表現方法等の知識・技能について筆記試験を行う。
提出物	毎回、課題を出題する。manabaで提出をすること。
ポートフォリオ	授業で記述したものについて自己評価や添削されたものについて振り返り、自己の思考力、表現力について到達度や今後の課題を知り、日常的な実践に生かしていく。

履修に必要な知識・技能など
全 15 回の授業はそれぞれ内容が積み上がっていくものであるから、復習や課題の提出を主体的に行うこと。また、習得した知識・技能を日常のレポート等に積極的に活用することを期待している。継続することによって言葉の力は高まっていくため、日常的に言葉に敏感になり、文章やニュースに触れることを意識的に取り組んでほしい。

教科書・ISBN
必要に応じて資料を配布する。

参考書
適時、紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
コミュニケーション論 (F12055)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	谷口英明
科目担当者	谷口英明							

授業の概要	<p>コロナ禍で人と接することが制限されるなか、Facebook, Twitter, LINE, など SNS (Social Networking Service) が発達した現代では簡単に多数の人たちとコミュニケーションを取ることができ、最近では生活に欠かせないものになっています。しかし、便利な反面、情報の正確性や真実性が担保されない。悪意のない発信でも思わぬ誤解や被害を招くことがあるなどのデメリットもあります。本科目ではコミュニケーションの原点となる対人コミュニケーションをテーマとします。特に聴く力、傾聴力に重点を置き、話し方、表現力の向上を目指すための授業を行います。誰でも人前に出たら緊張します。あがり症も訓練しだいで克服できます。今よりも高いコミュニケーション能力を身につけて、しっかりと自分の思いを他者に伝えることができるようになることが目標です。高い倫理観と人の心に寄り添い行動できる豊かな人間性を身につけましょう。</p>							
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () 反転授業 () その他 ()</p>							
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	科目オリエンテーション 意義・概要	【事前】シラバスを熟読しておく (120分) 【事後】授業内容の復習 (120分)
第 2 回	自己紹介 (各自 1分) 改めて仲間のことを知ろう・傾聴力を養おう	【事前】1分程度の自己紹介を考える (120分) 【事後】授業内容の復習 (120分)
第 3 回	自己表現の方法 信頼される話し方・あがり症を修正・自己 PR の方法	【事前】これまでの授業内容の復習 (120分) 【事後】リフレクションをマナバ上に提出 (120分)
第 4 回	自己 PR (各自 1分) 前回の話し方講義・自己 PR の方法を意識して発表	【事前】1分間の自己 PR を考える (120分) 【事後】授業内容の復習 (120分)
第 5 回	傾聴力アップの方法 聴く力は質問力を活用することで向上	【事前】これまでの授業内容の復習 (120分) 【事後】リフレクションをマナバ上に提出 (120分)
第 6 回	課題テーマスピーチ (各自 1分)	【事前】与えられたテーマに対するスピーチを考える (120分) 【事後】授業内容の復習 (120分)
第 7 回	課題テーマディスカッション・グループディスカッション	【事前】与えられたテーマに対して考察しておく (120分) 【事後】授業内容の復習 (120分)
第 8 回	映像鑑賞・阪神淡路大震災について考えるグループディスカッション 授業のまとめ	【事前】与えられたテーマに対して考察しておく (120分) 【事後】これまですべての授業内容の復習 (120分)

学修の到達目標	
到達目標 1	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解でき、高い倫理観と人に寄り添える豊かな人間性を身につける。
到達目標 2	より良い人間関係構築の大きな助けになる優れた傾聴力を身につけることができる。
到達目標 3	相手に自分の考えを的確に伝える表現力を身につけることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解でき、高い倫理観と人に寄り添える豊かな人間性を身につけ、あらゆる人や場面に対して秀逸なレベルで接することができる。
	優	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解でき、高い倫理観と人に寄り添える豊かな人間性を身につけ、十分なレベルで接することができる。
	良	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解でき、高い倫理観と人に寄り添える人間性を身につけ、一定のレベルで接することができる。
	可	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解できる。
	不可	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解できていない。
到達目標 2	秀	より良い人間関係構築の大きな助けになる優れた傾聴力を身につけ、内容を十分理解したうえで相手の立場に身を置いて、共感的に話を聴くことができる。
	優	より良い人間関係構築の大きな助けになる優れた傾聴力を身につけ、共感的に話を聴くことができる。
	良	より良い人間関係構築の大きな助けになる傾聴力を身につけている。
	可	より良い人間関係構築の助けになる最低限の傾聴力を身につけている。
	不可	人間関係構築の助けになる傾聴力を身につけることができない。
到達目標 3	秀	相手に自分の考えを的確に伝える表現力を身につけている。しかも言語的、非言語的表現どちらも十分な能力を持っていて、あらゆる人にとって理解しやすい。
	優	相手に自分の考えを的確に伝える表現力を身につけている。しかも言語的、非言語的表現どちらも十分な能力を持っている。
	良	相手に自分の考えを的確に伝える表現力を身につけている。
	可	相手に自分の考えを伝える最低限の表現力を身につけている。
	不可	相手に自分の考えを伝える表現力を身につけることができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	20	20	0	0	0	100
到達目標 1	30	0	0	0	0	0	30
到達目標 2	20	10	10	0	0	0	40
到達目標 3	10	10	10	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。与えられた様々なテーマについて学修の総括を期限までに提出する。
提出物	第3回、第5回授業後のレポートを提出。学修の成果を評価する。
成果発表 (口頭・実技)	第2回、4回、6回、7回での表現力や傾聴力を評価する。

履修に必要な知識・技能など
コロナ禍で通常の大学生活が制限されるなか、今後の学生生活を有意義に過ごすため対人コミュニケーションについて学び、理解してほしい。この科目では授業での取り組み方が大切です。無断欠席など、コミュニケーションの基本を守れない学生は単位を修得できません。堅苦しい授業ではありません、気軽に楽しく臨んでください。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書

適宜、示唆。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
英語コミュニケーション I (F12060)	演習	1	30	1	前期	口腔保健学科 必修	—	山崎麻由美
科目担当者	山崎麻由美							

授業の概要	世界各国の文化や習慣をテーマに4技能（読む、聞く、書く、話す）の基礎を定着させることを目的として、様々な演習を行う。また多様な文化を理解しグローバルな視点を身につける。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 ()
教員の実務経験		

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション Unit 1 India	【事前】 シラバスを読んでくる。 p.1 Warm-up Exercise を行う。 p.2 Vocabulary Exercise を行う。(20分) p.2 Reading を読んでくる(40分) 【事後】 p.2 Reading の復習(20分) manaba の小テスト課題の提出(10分)
第 2 回	Unit 2 Philippines	【事前】 p.7 Warm-up Exercise、p.8 Vocabulary Exercise、p.9 Getting to Know the Philippines を行う。(20分) p.8 Reading を読んでくる(40分) 【事後】 p.8 Reading の復習(20分) manaba の小テスト課題の提出(10分)
第 3 回	Unit 3 Thailand	【事前】 p.13 Warm-up Exercise、p.14 Vocabulary Exercise、p.15 Getting to Know Thailand を行う。(20分) p.14 Reading を読んでくる(40分) 【事後】 p.14 Reading の復習(20分) manaba の小テスト課題の提出(10分)
第 4 回	Unit 4 Vietnam	【事前】 p.19 Warm-up Exercise、p.20 Vocabulary Exercise、p.21 Getting to Know Vietnam を行う。(20分) p.20 Reading を読んでくる(40分) 【事後】 p.20 Reading の復習(20分) manaba の小テスト課題の提出(10分)
第 5 回	Unit 5 Korea	【事前】 p.25 Warm-up Exercise、p.26 Vocabulary Exercise、p.27 Getting to Know Korea を行う。(20分) p.26 Reading を読んでくる(40分) 【事後】 p.26 Reading の復習(20分) manaba の小テスト課題の提出(10分)
第 6 回	Unit 6 France	【事前】 p.31 Warm-up Exercise、p.32 Vocabulary Exercise、p.33 Getting to Know France を行う。(20分) p.32 Reading を読んでくる(40分) 【事後】 p.32 Reading の復習(20分) manaba の小テスト課題の提出(10分)

第 7 回	Unit 7 Italy	<p>【事前】 p.37 Warm-up Exercise、 p.38 Vocabulary Exercise、 p.39 Getting to Know Italy を行う。(20分) p.38 Reading を読んでくる (40分)</p> <p>【事後】 p.38 Reading の復習 (20分) manaba の小テスト課題の提出 (10分)</p>
第 8 回	Unit 8 Denmark	<p>【事前】 p.43 Warm-up Exercise、 p.44 Vocabulary Exercise、 p.45 Getting to Know Denmark を行う。(20分) p.44 Reading を読んでくる (40分)</p> <p>【事後】 p.44 Reading の復習 (20分) manaba の小テスト課題の提出 (10分)</p>
第 9 回	Unit 9 Portugal	<p>【事前】 p.49 Warm-up Exercise、 p.50 Vocabulary Exercise、 p.51 Getting to Know Portugal を行う。(20分) p.50 Reading を読んでくる (40分)</p> <p>【事後】 p.50 Reading の復習 (20分) manaba の小テスト課題の提出 (10分)</p>
第 10 回	Unit 10 Turkey	<p>【事前】 p.55 Warm-up Exercise、 p.56 Vocabulary Exercise、 p.57 Getting to Know Turkey を行う。(20分) p.56 Reading を読んでくる (40分)</p> <p>【事後】 p.56 Reading の復習 (20分) manaba の小テスト課題の提出 (10分)</p>
第 11 回	Unit 11 Egypt	<p>【事前】 p.61 Warm-up Exercise、 p.62 Vocabulary Exercise、 p.63 Getting to Know Egypt を行う。(20分) p.62 Reading を読んでくる (40分)</p> <p>【事後】 p.62 Reading の復習 (20分) manaba の小テスト課題の提出 (10分)</p>
第 12 回	Unit 12 South Africa	<p>【事前】 p.67 Warm-up Exercise、 p.68 Vocabulary Exercise、 p.69 Getting to Know South Africa を行う。(20分) p.68 Reading を読んでくる (40分)</p> <p>【事後】 p.68 Reading の復習 (20分) manaba の小テスト課題の提出 (10分)</p>
第 13 回	Unit 13 Brazil	<p>【事前】 p.73 Warm-up Exercise、 p.74 Vocabulary Exercise、 p.75 Getting to Know the Philippines を行う。(20分) p.74 Reading を読んでくる (40分)</p> <p>【事後】 p.74 Reading の復習 (20分) manaba の小テスト課題の提出 (10分)</p>
第 14 回	Unit 14 グループプレゼンテーション準備	<p>【事前】 プレゼンテーションの対象として選んだ国について調べてくる (120分)</p> <p>【事後】 原稿作成とパワーポイント等の資料準備 (60分)</p>
第 15 回	Unit 15 グループプレゼンテーション発表と授業のふりかえり	<p>【事前】 プレゼンテーションの準備、練習 (120分)</p> <p>【事後】 プレゼンテーションの振り返り (20分) manaba 小テストからの課題提出 (30分)</p>

学修の到達目標	
到達目標 1	リスニングの力をつける。
到達目標 2	ペアでの会話練習やプレゼンテーションを通してスピーキングの力をつける。
到達目標 3	テキストの本文を読んだり、時事的な文章を読む力をつける。
到達目標 4	ライティングの基礎を身につける。
到達目標 5	自国以外の文化を理解し、グローバルな視点を身につける。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	Can understand correctly
	優	Makes some mistakes in understanding but needs no help from others
	良	Makes some mistakes in understanding and sometimes needs help from others
	可	Makes some mistakes in understanding and often needs help from others
	不可	Cannot understand at all
到達目標 2	秀	Always communicates with correct grammar vocabulary and pronunciation
	優	Always communicates with appropriate grammar vocabulary and pronunciation
	良	Often communicates with appropriate grammar vocabulary and pronunciation
	可	Sometimes communicates with appropriate grammar vocabulary and pronunciation
	不可	Rarely attempts to speak during classroom activities
到達目標 3	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
到達目標 4	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure and does not have grammatical competence
到達目標 5	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	65	15	6	0	0	14	100
到達目標 1	0	0	0	0	0	7	7
到達目標 2	0	0	2	0	0	0	2
到達目標 3	30	5	0	0	0	4	39
到達目標 4	20	5	2	0	0	3	30
到達目標 5	15	5	2	0	0	0	22

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	授業中に作成し提出するレポート 読書レポート（graded readers を2冊読んでレポートを書く）
成果発表 （口頭・実技）	グループプレゼンテーション
その他	manaba 小テストからの課題提出

履修に必要な知識・技能など
定められた予習、復習は必ず行うこと。課題は仕上げてくること。提出物は期日に送れないこと。

教科書・ISBN
9784764741331 World Adventures Scott Berlin（著）, 小林 めぐみ（著） 金星堂

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
英語コミュニケーションII (F12070)	演習	1	30	1	後期	口腔保健学科 必修	—	山崎麻由美
科目担当者	山崎麻由美							

授業の概要	この授業では特に「読む」ことと「書く」ことに重点を置く。正確に読むことと自分の伝えたいことを正確に英文にすることを目的とし、様々な演習を通じてそれらスキルの定着を図る。また科学に関するテキストを読みながら、世界の状況に目を向け、グローバルな視点を身につけることを目的とする。								
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援		() ディスカッション、ディベート			(レ) グループワーク	() プレゼンテーション
教員の実務経験	() 実習、フィールドワーク		() 課題解決型学習(外部協定 有・無)		() 反転授業			() その他(その他)	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション Lesson 1 The Pig or the Pork?	【事前】シラバスを読む Lesson 1 の本文 p.1-2 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第2回	Lesson 2 Do you like garlic?	【事前】Lesson 2 の本文 p.6-7 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第3回	Lesson 3 Sweet as Sugar	【事前】Lesson 3 の本文 p.11-12 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第4回	Lesson 4 Our Daily Bread	【事前】Lesson 4 の本文 p.16-17 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第5回	Lesson 5 Do You Like Caviar?	【事前】Lesson 5 の本文 p.21-22 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第6回	Lesson 6 Apples	【事前】Lesson 6 の本文 p.26-27 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第7回	Lesson 7 The White Gold Salt	【事前】Lesson 7 の本文 p.31-32 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第8回	Lesson 8 Say Cheese	【事前】Lesson 8 の本文 p.41-42 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第9回	Lesson 9 Beans	【事前】Lesson 9 の本文 p.41-42 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)
第10回	Lesson 10 Foie Gras	【事前】Lesson 10 の本文 p.46-47 を読んでくる (60分) 【事後】本文の復習プリント (30分) manaba 小テスト課題 (40分)

第 11 回	Lesson 11 Rice: An Important Cereal	【事前】 Lesson 11 の本文 p.51-52 を読んでくる (60 分) 【事後】 本文の復習プリント (30 分) manaba 小テスト課題 (40 分)
第 12 回	Lesson 12 Pasta	【事前】 lesson 12 の本文 p.57-58 を読んでくる (60 分) 【事後】 本文の復習プリント (30 分) manaba 小テスト課題 (40 分)
第 13 回	Lesson 13 Chocolate	【事前】 Lesson 13 の本文を p.62-63 読んでくる (60 分) 【事後】 本文の復習プリント (30 分) manaba 小テスト課題 (40 分)
第 14 回	Lesson 14 A Taste of Honey	【事前】 Lesson 14 の本文を p.67-68 読んでくる (60 分) 【事後】 本文の復習プリント (30 分) manaba 小テスト課題 (40 分)
第 15 回	Lesson 15 Tea Etiquette	【事前】 Lesson 15 の本文を p.72-73 読んでくる (60 分) 【事後】 本文の復習プリント (30 分) manaba 小テスト課題 (40 分)

学修の到達目標

到達目標 1	テキストを正確に読めるようになる
到達目標 2	正確に書くことができるようになる
到達目標 3	グローバルな視点を身につける

ルーブリック

評価基準		
到達目標 1	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
到達目標 2	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure and does not have grammatical competence
到達目標 3	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	65	10	10	0	0	15	100
到達目標 1	30	2	5	0	0	5	42
到達目標 2	20	6	5	0	0	5	36
到達目標 3	15	2	0	0	0	5	22
到達目標 4	0	0	0	0	0	0	0
到達目標 5	0	0	0	0	0	0	0

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	各レッスンに関する練習問題プリント
成果発表 (口頭・実技)	授業内で行う口頭発表
その他	manaba 小テストからの課題提出

履修に必要な知識・技能など
予習復習は欠かさないこと。課題は必ず仕上げる。提出期限に遅れないこと。

教科書・ISBN
9784269410220 Food In History 英語で学ぶ食の歴史 Elena Taralunga Tamura (著) 英宝社

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
英語Aa(Communicative English Basic) (F12080)	演習	1	30	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	小西千鶴
科目担当者	小西千鶴							

授業の概要	英国社会の日常を反映する短いエッセイを読み、そこから頻出語彙、フレーズ、言い回し、文法を学習し、日常会話に必要な英語表現を身に付ける演習を行う。また、英語圏における異文化への理解を深め、グローバル化に必要な対話上のマナーを学ぶ。英語の基礎をしっかりと固め、基本的な英語を確実にマスターする。							
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業		() ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()					
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション Unit 1 The Royal Family 英国王室	【事前】Unit 1 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「時制 現在形」を把握する (30分)
第2回	Unit 2 The Beatles ビートルズ	【事前】Unit 2 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「時制 過去形」を把握する (30分)
第3回	Unit 3 Very Cold 極寒	【事前】Unit 3 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「進行形 be 動詞 + ing (現在分詞)」を把握する (30分)
第4回	Unit 4 Euro Money ユーロ通貨	【事前】Unit 4 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「助動詞」を把握する (30分)
第5回	Unit 5 To Your Health 健康体	【事前】Unit 5 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「現在完了形・過去完了形・未来完了形」を把握する (30分)
第6回	Unit 6 Recycling リサイクル	【事前】Unit 6 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「冠詞：定冠詞・不定冠詞」と「代名詞：人称代名詞・指示代名詞」を把握する (30分)
第7回	Unit 7 The UK 英国	【事前】Unit 7 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「名詞：可算名詞・不可算名詞」を把握する (30分)
第8回	Unit 8 A Quiet Life 静かな生活	【事前】Unit 8 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「品詞：形容詞・副詞」を把握する (30分)
第9回	Unit 9 My Company 私の会社	【事前】Unit 9 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「比較：同等比較・比較級・最上級」を把握する (30分)
第10回	Unit 10 Advertising 広告	【事前】Unit 10 語彙の予習をする (30分) 【事後】テキストの読解と文法「不定詞」と「動名詞」を把握する (30分)

第 11 回	Unit 11 Business Trips 出張	【事前】 Unit 11 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 テキストの読解と文法「前置詞」と「接続詞」を把握する (30 分)
第 12 回	Unit 12 Get It Cleaned ホテルでの一日	【事前】 Unit 12 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 テキストの読解と文法「使役動詞」と「知覚動詞」を把握する (30 分)
第 13 回	Unit 13 A Storm 冬の嵐	【事前】 Unit 13 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 テキストの読解と文法「受動態」を把握する (30 分)
第 14 回	Unit 14 The Media メディア	【事前】 Unit 14 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 テキストの読解と文法「関係詞:関係代名詞・関係副詞」を把握する (30 分)
第 15 回	Unit 15 Sightseeing イギリス観光スポット	【事前】 unit 15 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 テキストの読解と文法「仮定法」を把握する (30 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	自分の意見を簡潔に英語で伝えられる。
到達目標 2	自分の意見を正確に書くことができる。
到達目標 3	英語でのコミュニケーションを楽しむ。
到達目標 4	英国の文化・歴史・習慣の違いを理解する。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
到達目標 2	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
到達目標 3	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
到達目標 4	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	20	0	0	0	100
到達目標 1	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 2	30	10	0	0	0	0	40
到達目標 3	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 4	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験（リスニング含む）を行う。定期試験では、授業及びテキストから学んだ語句を用いて、状況に応じた自然な英会話の流れを意識した表現が求められる。
提出物	毎回の授業で筆記もしくは口頭による単語の小テストを行う。小テストでは、単語の意味のほか、つづり、発音、品詞、成句や用例など、実践的な情報を把握しているか、辞書の有益な使い方が求められる。
成果発表 (口頭・実技)	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。対話では、テキストに基づく表現を応用し、自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的な発言が求められる。

履修に必要な知識・技能など
各ユニットの重要表現など反復練習には積極的に取り組むこと。

教科書・ISBN
9784523178538 C082 English Indicator I Essential (総合英語インディケータ― 初級) Terry O'Brien、三原京 他著 南雲堂

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
英語Aa(Communicative English Basic) (F12080)	演習	1	30	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	CAROLK. DALLOS
科目担当者	CAROLK.DALLOS							

授業の概要	The purpose of this course is to provide students with basic English communication skills. This course is also focused on acquiring four skills through integrated methods and understanding diverse culture and nations in order to participate actively in international communities.
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> その他 ()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Syllabus and class rules explanation/Short presentation explained/Pronunciation exercise	【事前】 Review syllabus 15 minutes. Think about your personal introduction 15 minutes. 【事後】 Prepare personal introduction 20 minutes. Review pronunciation 10 minutes.
第 2 回	Unit 1A Hi There! Unit 1B Where do you work?	【事前】 Preview 1A and 1B 15 minutes. Work on personal introduction 15 minutes. 【事後】 Do homework for 1A and 1B 25 minutes. Preview 2A and 2B 5 minutes.
第 3 回	Unit 2A I never get up late. Unit 2B I do karaoke on Wednesday.	【事前】 Review 1A and 1B 15 minutes. Preview 2A and 2B 15 minutes. 【事後】 Do homework for 2A and 2B 25 minutes. Preview 3A and 3B 5 minutes.
第 4 回	Unit 3A Can you use a computer? Unit 3B I can play basketball.	【事前】 Review 2A and 2B 15 minutes. Preview 3A and 3B 15 minutes. 【事後】 Do homework for 3A and 3B 25 minutes. Preview Review 1and 4A 5 minutes.
第 5 回	Review 1. Unit 4A I like Italian food.	【事前】 Review 3A and 3B 15 minutes. Preview Review 1 and 4A 15 minutes. 【事後】 Do Review 1 and 4A homework 25 minutes. Preview 4B 5 minutes.
第 6 回	Unit 4B My perfect date likes music.	【事前】 Review Review 1 and 4A 15 minutes. Preview 4B 15 minutes. 【事後】 Do homework for 4B 25 minutes. Preview 5A 5 minutes.
第 7 回	Unit 5A Can I call you back later?	【事前】 Review 4B 15 minutes. Preview 5A 15 minutes. 【事後】 Do 5A homework 25 minutes. Preview 5B 5 minutes.
第 8 回	Unit 5B It's snowing.	【事前】 Review 5A 15 minutes. Preview 5B 15 minutes. 【事後】 Do homework for 5B 25 minutes. Preview 6A 5 minutes.

第 9 回	Unit 6A How do I get to the bank?	【事前】 Review 5B 15 minutes. Preview 6A 15 minutes. 【事後】 Do homework for 6A 25 minutes. Preview 6B 5 minutes.
第 10 回	Unit 6B Where can I buy a ticket?	【事前】 Review 6A 15 minutes. Preview 6B 15 minutes. 【事後】 Do homework for 6B 25 minutes. Preview Review 2 5 minutes.
第 11 回	Review 2, Picture Puzzle listening exercises and Quiz 1A- 6B explained	【事前】 Review 6B 15 minutes. Preview Review 2 15 minutes. 【事後】 Do homework for Review 2 25 minutes. Study for 1A - 6B Quiz 30 minutes.
第 12 回	Units 1A - 6B Quiz. Unit 7A Would you like to go to the movies?	【事前】 Review Review 2 5 minutes. Study for 1A - 6B Quiz 20 minutes. Preview 7A 5 minutes. 【事後】 Do homework for 7A 25 minutes. Preview 7B 5 minutes.
第 13 回	Unit 7B I'm babysitting on Thursday.	【事前】 Review 7A 15 minutes. Preview 7B 15 minutes. 【事後】 Do homework for 7B 25 minutes. Begin reviewing 1A-7B for final exam 15 minutes.
第 14 回	Music listening exercises	【事前】 Review 1A-7B for final exam 30 minutes. 【事後】 Review 1A-7B and song vocabulary for final exam 30 minutes.
第 15 回	Review for final exam. Look at and discuss teacher's photos.	【事前】 Review 1A-7B and song vocabulary for final exam 30 minutes. 【事後】 Review 1A-7B and song vocabulary for final exam 30 minutes.

学修の到達目標

到達目標 1	1. Students will speak fluently.
到達目標 2	2. Students will listen and respond accurately.
到達目標 3	3. Students will interact with each other in English.
到達目標 4	4. Students will write simple sentence structures.
到達目標 5	5. Students will understand cultural diversities.

ルーブリック

評価基準		
到達目標 1	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
到達目標 2	秀	Could listen and understand correctly and provided appropriate responses
	優	Made only a few mistakes in listening and understanding and could follow with no help from others and provided somewhat correct responses
	良	Made some mistakes in listening and understanding, but could follow with help from others and provided somewhat unclear responses
	可	Made significant mistakes in listening and understanding and could barely follow with help from others and only provided unclear responses
	不可	Could not listen and understand and provided no answers at all

到達目標 3	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
到達目標 4	秀	Can write simple sentence structures with no mistakes
	優	Can write simple sentence structures with a few mistakes
	良	Can write simple sentence structures, but with some mistakes
	可	Tries to write simple sentence structures, but has many mistakes
	不可	Cannot write simple sentence structures
到達目標 5	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple world views
	優	Demonstrates a deep understanding of multiple world views
	良	Demonstrates a deep understanding of multiple world views
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	10	0	0	20	100
到達目標 1	0	5	10	0	0	0	15
到達目標 2	20	5	0	0	0	10	35
到達目標 3	0	5	0	0	0	0	5
到達目標 4	20	10	0	0	0	5	35
到達目標 5	0	5	0	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	Writing and listening
提出物	Completion of homework
成果発表 (口頭・実技)	Oral introduction
その他	Quiz

履修に必要な知識・技能など
1. Class participation. 2. Preparation and review. 3. Completion of assignments.

教科書・ISBN
9780230447080 Get Real!

参考書
Additional material may be suggested if necessary.

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
英語Ab(Communicative English Intermediate) (F12090)	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	小西千鶴
科目担当者	小西千鶴							

授業の概要	This course continues the development of students' English language and communication skills begun in English Aa. Students will practice speaking effectively in class and listen various topics related to campus life and daily life. Upon completion of this course, students will be able to understand others' ideas better and confident in using English in everyday situations.							
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業		() ICT (manaba) 活用の自主学習支援		(レ) ディスカッション、ディベート		(レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション	
教員の実務経験	() 実習、フィールドワーク		() 課題解決型学習(外部協定 有・無)		() 反転授業		() その他 ()	
	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	Chapter 1 Self-introduction / Chapter 2 Family	【事前】 Chapter 1, 2 語彙の予習をする (30分) 【事後】 自己紹介を英語で練習する (30分)
第2回	Chapter 3 Campus Life / Chapter 4 Hobbies	【事前】 Chapter 3,4 語彙の予習をする (30分) 【事後】 余暇の過ごし方を英語で話す練習をする (30分)
第3回	Chapter 5 Subjects at University Chapter 6 Club Activities	【事前】 Chapter 5,6 語彙の予習をする (30分) 【事後】 学生生活について英語で話す練習をする (30分)
第4回	Chapter 7 Pets / Chapter 8 Traveling	【事前】 Chapter 7,8 語彙の予習をする (30分) 【事後】 旅行計画を立て、英語で話す練習をする (30分)
第5回	Chapter 9 Music / Chapter 10 Sports	【事前】 Chapter 9,10 語彙の予習をする (30分) 【事後】 好きな音楽とスポーツについて英語で話す練習をする (30分)
第6回	Chapter 11 Part-time Job / Chapter 12 Watching TV	【事前】 Chapter 11,12 語彙の予習をする (30分) 【事後】 アルバイトについて英語で話す練習をする (30分)
第7回	Chapter 13 Cooking / Chapter 14 Flowers	【事前】 Chapter 13,14 語彙の予習をする (30分) 【事後】 得意な料理について英語で話す練習をする (30分)
第8回	Chapter 15 Movies / Chapter 16 Eating Out	【事前】 Chapter 15,16 語彙の予習をする (30分) 【事後】 好きな映画作品について英語で話す練習をする (30分)
第9回	Chapter 17 Shopping	【事前】 Chapter 17 語彙の予習をする (30分) 【事後】 お気に入りのお店を英語で宣伝する練習をする (30分)
第10回	Chapter 18 Language	【事前】 Chapter 18 語彙の予習をする (30分) 【事後】 英語言語を習得する最適な方法を英語で発表する練習をする (30分)

第 11 回	Chapter 19 Fashion and Clothes	【事前】 Chapter 19 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 最新のファッションとその傾向について英語で発表する練習をする (30 分)
第 12 回	Chapter 20 Art	【事前】 Chapter 20 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 海外あるいは国内の有名な芸術作品について英語で発表する練習をする (30 分)
第 13 回	Chapter 21 Job Hunting	【事前】 Chapter 21 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 将来に就きたい職業について英語で発表する練習をする (30 分)
第 14 回	Chapter 22 Culture	【事前】 Chapter 22 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 グローバリゼーションについての個人的な見解を英語で発表する練習をする (30 分)
第 15 回	Chapter 23 A Person to Respect	【事前】 Chapter 23 語彙の予習をする (30 分) 【事後】 尊敬する人物について英語で発表する練習をする (30 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	Students will improve speaking skills.
到達目標 2	Students will improve writing skills.
到達目標 3	Students will enjoy communicating in English.
到達目標 4	Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
到達目標 2	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can't use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
到達目標 3	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
到達目標 4	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	20	0	0	0	100
到達目標 1	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 2	30	10	0	0	0	0	40
到達目標 3	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 4	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験（リスニング含む）を行う。定期試験では、授業及びテキストから学んだ語句を用いて、状況に応じた自然な英会話の流れを意識した表現が求められる。
提出物	毎回の授業で筆記もしくは口頭による単語の小テストを行う。小テストでは、単語の意味のほか、つづり、発音、品詞、成句や用例など、実践的な情報を把握しているか、辞書の有益な使い方が求められる。
成果発表 (口頭・実技)	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。対話では、テキストに基づく表現を応用し、自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的な発言が求められる。

履修に必要な知識・技能など
各ユニットの重要表現など反復練習には積極的に取り組むこと。

教科書・ISBN
9784384334074 C1082 CD付 リッスン・アンド・スピーク 身近な話題で発信しよう（宇野誠一著）三修社

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
英語Ab(Communicative English Intermediate) (F12090)	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	CAROLK. DALLOS
科目担当者	CAROLK.DALLOS							

授業の概要	This course will provide students with a variety of activities to help them acquire practical skills in communication. Learning communication manners in multiple cultures is also focused.	
アクティブ・ ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク (レ) プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Syllabus and Class Rules Explanation/Personal Introductions/ Pronunciation Exercise	【事前】 Review syllabus 5 minutes. Think about your personal introduction 25 minutes. 【事後】 Reflect on your personal introduction 15 minutes. Review pronunciation 15 minutes.
第 2 回	Following Directions	【事前】 Review place pronouns 15 minutes. Practice pronunciation 15 minutes. 【事後】 Review new direction vocabulary 30 minutes.
第 3 回	More work on Following Directions	【事前】 Review direction vocabulary 30 minutes. 【事後】 Prepare for following directions quiz by reviewing all class work 30 minutes.
第 4 回	Following Directions Quiz and Introduction to Numbers	【事前】 Review directions vocabulary for quiz 30 minutes. 【事後】 Review introduction to numbers 30 minutes.
第 5 回	Numbers	【事前】 Review numbers vocabulary 30 minutes. 【事後】 Do numbers homework 25 minutes. Review new numbers vocabulary 5 minutes.
第 6 回	More Work on Numbers	【事前】 Review numbers vocabulary 30 minutes. 【事後】 Review new numbers vocabulary 30 minutes.
第 7 回	Additional Work on Numbers	【事前】 Review numbers vocabulary 30 minutes. 【事後】 Review new numbers vocabulary 15 minutes. Review all numbers vocabulary for quiz 15 minutes.
第 8 回	Numbers Quiz and Introduction to Family	【事前】 Prepare for numbers quiz 30 minutes. 【事後】 Reflect on numbers quiz 5 minutes. Reflect on family introduction 25 minutes.
第 9 回	Family	【事前】 Review family introduction 30 minutes. 【事後】 Do family homework and review new vocabulary 30 minutes.
第 10 回	More Work on Family	【事前】 Review family vocabulary 30 minutes. 【事後】 Do family homework and review new vocabulary 30 minutes.

第 11 回	Additional Work on Family and Short Presentation Explanation	【事前】 Review family vocabulary 30 minutes. 【事後】 Do family homework 10 minutes. Review all family vocabulary for quiz 15 minutes. Start working on short presentation 5 minutes.
第 12 回	Family Quiz. Picture puzzle exercise.	【事前】 Review family vocabulary for quiz 30 minutes. 【事後】 Reflect on both family quiz and picture puzzle exercise 5 minutes. Finish preparing short presentation 25 minutes.
第 13 回	Short Presentations	【事前】 Final preparation for short presentation 30 minutes. 【事後】 Reflect on your and your classmates' presentations 30 minutes.
第 14 回	Look and Discuss Teacher's Photos or Teacher's Show and Tell	【事前】 Review directions, numbers and family vocabulary 30 minutes. 【事後】 Reflect on teacher's presentation 5 minutes. Continue to review class vocabulary 25 minutes.
第 15 回	Review for Final Exam	【事前】 Review class vocabulary 30 minutes. 【事後】 Prepare for final exam 30 minutes.

学修の到達目標

到達目標 1	Students will speak fluently.
到達目標 2	Students will listen and understand accurately.
到達目標 3	Students will interact with each other in English.
到達目標 4	Students will understand cultural diversities.

ルーブリック

評価基準		
到達目標 1	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
到達目標 2	秀	Could listen and understand correctly and provided appropriate responses
	優	Made only a few mistakes in listening and understanding and could follow with no help from others and provided somewhat correct responses
	良	Made some mistakes in listening and understanding, but could follow with help from others and provided somewhat unclear responses
	可	Made significant mistakes in listening and understanding and could barely follow with help from others and only provided unclear responses
	不可	Could not listen and understand and provided no answers at all
到達目標 3	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate

到達目標 4	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	10	0	0	20	100
到達目標 1	0	0	10	0	0	0	10
到達目標 2	30	20	0	0	0	15	65
到達目標 3	0	10	0	0	0	0	10
到達目標 4	10	0	0	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	Writing and listening
提出物	Homework
成果発表 (口頭・実技)	Short presentation
その他	Quizzes

履修に必要な知識・技能など
1. Class participation 2. Preparation and review 3. Completion of assignments

教科書・ISBN
Materials will be provided by the instructor.

参考書
Additional material may be suggested if necessary.

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
手話コミュニケーション (F12130)	演習	1	30	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	浅野京子
科目担当者	浅野京子							

授業の概要	聴覚の障害は、健聴者（耳の聞こえる人）には理解しにくい障害です。手話を学ぶとともに聴覚障害者への援助や配慮を学習していきます。手話は、毎回、演習します。（定員 30 名まで）。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク (レ) プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他 (グループで手話をしたり、お互いに発表したりします。)
教員の実務経験	—	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	聴覚の障害とは	【事前】シラバスを読んで内容を理解する (30 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 2 回	様々な聴覚障害について	【事前】聴覚障害について調べる (30 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 3 回	聴覚障害者のコミュニケーション手段	【事前】該当なし 【事後】本日の講義と手話の実技 (40 分)
第 4 回	「手話」について	【事前】該当なし 【事後】本日の講義と手話の実技 (40 分)
第 5 回	聴覚障害者についてのグループ討議	【事前】グループ討議に向けて自分の意見をまとめておく (60 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 6 回	聴覚障害者と社会①聴覚障害者の昔	【事前】聴覚障害者の今と昔の違いを調べる (30 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 7 回	聴覚障害者と社会②聴覚障害者と学校教育	【事前】聴覚障害者の学校教育について調べる (30 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 8 回	聴覚障害者と社会③ろう教育について	【事前】ろう教育について調べる (30 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 9 回	聴覚障害者と社会④手話の発展と広がり	【事前】該当なし 【事後】本日の講義と手話の実技 (40 分)
第 10 回	聴覚障害者の社会生活についてグループ討議	【事前】グループ討議の準備 (60 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 11 回	聴覚障害者と情報保障について	【事前】該当なし 【事後】本日の講義と手話の実技 (40 分)
第 12 回	生活場面での配慮 (病院など)	【事前】聴覚障害者への配慮について考える (30 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 13 回	手話と手話通訳	【事前】次回の発表の準備 (60 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 14 回	手話による発表 (個々による)	【事前】発表の準備 (30 分) 【事後】本日の講義と手話の実技 (30 分)
第 15 回	まとめ	【事前】該当なし 【事後】15 回の講義と実技の振り返り (80 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	聴覚障害者に対する理解ができる。
到達目標 2	手話を中心とする聴覚障害者の人たちのコミュニケーション方法を習得する。
到達目標 3	職業人・市民として聴覚障がいの人たちへの配慮ができるようになる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	聴覚障害に関して授業で習った以上に自ら学習して理解を深めている。
	優	聴覚障害に関して授業で学んだことはすべて理解している。
	良	聴覚障害に関してかなり理解している。
	可	聴覚障害に関して必要最低限理解している。
	不可	聴覚障害に関して全く理解していない
到達目標 2	秀	手話を用いてコミュニケーションがスムーズにできる。
	優	手話を用いてコミュニケーションがかなりできる。
	良	手話を用いてコミュニケーションがまずまずできる。
	可	手話を用いてコミュニケーションが少ししかできない。
	不可	手話を用いてコミュニケーションが全くできない。
到達目標 3	秀	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活性を高め、内容も優秀であった。
	優	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活性を高めていた。
	良	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活動ができた。
	可	クラス・グループ討論に協調・協働することは少なく、グループのモチベーションを下げている。
	不可	クラス・グループ討論に協調・協働せず、グループが全体として機能しなかった。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	0	50	0	0	10	100
到達目標 1	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 2	0	0	50	0	0	0	50
到達目標 3	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学期末筆記試験（手話や聴覚障害者に関すること）
成果発表 (口頭・実技)	手話による個別発表
その他	授業・グループ討論での発言内容等

履修に必要な知識・技能など
手話は聴覚障害者、特に「ろうあ者」としての「第1言語（母語）」です。生活していく上でなくてはならない大切なことばです。真摯な気持ちで学んでください。覚えた手話を忘れないように、しっかりと復習して授業に臨んでください。

教科書・ISBN
特定の教科書はありません。随時プリントを配布します。

参考書

随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

第 12 回	やさしい日本語：やさしい日本語概要と考え方	【事前】配布資料に目を通しておく（30分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30分）
第 13 回	やさしい日本語：やさしい日本語実践	【事前】配布資料に目を通しておく（30分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30分）
第 14 回	これまでの言語のまとめ	【事前】配布資料に目を通しておく（30分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30分）
第 15 回	多文化共生とこれからの日本社会	【事前】配布資料に目を通しておく（30分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30分）

学修の到達目標	
到達目標 1	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりについての基本的な知識を理解する
到達目標 2	多文化や多様性を身近なものとして理解し、想像力を養う

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりについての基本的な知識を十分修得し、深く理解している。
	優	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりについての基本的な知識を十分修得している。
	良	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりについての基本的な知識を修得している。
	可	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりについての基本的な知識をある程度修得している。
	不可	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりについての基本的な知識を修得していない。
到達目標 2	秀	多文化や多様性を身近なものとして十分深く理解しており、それに基づいた想像力を現実世界にいかすことができる。
	優	多文化や多様性を身近なものとして十分理解しており、それに基づいた想像力を現実世界にいかすことができる。
	良	多文化や多様性を身近なものとして理解しており、それに基づいた想像力がある。
	可	多文化や多様性を身近なものとしてある程度理解しており、それに基づいた想像力もある程度ある。
	不可	多文化や多様性を身近なものとして理解することができず、それに基づいた想像力もない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	0	60	0	0	0	0	60
到達目標 2	40	0	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回目の授業の後にレポート試験を課す。授業で学んだ知識をもとに、自らの意見がどのくらい論理的に提示できるかが試される。
提出物	授業内容の理解を深めるため、毎回 manaba にその日の学びや質問等の記入を課す。

履修に必要な知識・技能など
授業で学んだ基本知識をもとに、多文化教育や多文化共生社会を自分の身近に迫った問題としてとらえられるように、日常生活においても情報収集を行うこと。

教科書・ISBN

使用しません

参考書

随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
いのちと共生 (F12140)	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	長尾厚子
科目担当者	長尾厚子、濱田道夫、塩谷英之、中田康夫、溝越祐志、江上芳子、千石真理							

授業の概要	保健科学部と教育学部を持つ本学のキャリア教育の共通テーマである「いのち」について、あらゆる方面からとらえ、さらにヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるためには、自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について考える必要がある。それぞれの専門分野からとらえる「いのち」についての講義に学び、その学びをとおしていのちと共生（ヒトの健康）について考える。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () ディスカッション、ディベート () グループワーク () プレゼンテーション () 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () 反転授業 () その他()							
教員の実務経験	医療専門職としての実務経験を有した教員による授業となるため、それぞれの専門分野を生かした実践的教育となる。							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	いのちの共生と持続可能な社会 (担当者：濱田)	【事前】シラバス内容の熟読 (30分) 【事後】授業内容の振り返り (110分)
第2回	人と熊と森と—いのちと共生のために知るべきこと (担当者：千石)	【事前】授業のテーマについて調べる (120分) 【事後】授業内容の振り返り (120分)
第3回	細胞と個体による自他の識別 (担当者：溝越)	【事前】授業のテーマについて調べる (120分) 【事後】授業内容の振り返り (120分)
第4回	人の健康と生活習慣 (担当者：塩谷)	【事前】授業のテーマについて調べる (120分) 【事後】授業内容の振り返り (120分)
第5回	母子の独立性と共生 (担当者：江上)	【事前】授業のテーマについて調べる (120分) 【事後】授業内容の振り返り (120分)
第6回	共生社会の意味とその実現に向けて (担当：中田)	【事前】授業のテーマについて調べる (120分) 【事後】授業内容の振り返り (120分)
第7回	トータルヒューマンケアにおける心と体といのち (担当者：長尾)	【事前】授業のテーマについて調べる (120分) 【事後】授業内容の振り返り (120分)
第8回	命の共生（ヒトの健康）について考える (担当者：長尾)	【事前】授業のテーマについて調べる (120分) 【事後】授業内容の振り返り (210分)

学修の到達目標	
到達目標1	それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識を修得することができる。
到達目標2	「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各専門職の自覚に繋げて考えることができる。
到達目標3	「いのち」に関する様々な見解からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」と共生について探究することができる。
到達目標4	自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生についての情報から「いのち」について理解を深めることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識の習得について、満足できる水準を超えて、周辺の知識と合わせて理解を深め、自分の考えを述べることができる。
	優	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識の習得について、満足できる水準を超えて、周辺の知識と合わせて理解を深めることができる。
	良	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで修得できていることが認められる。
	可	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで到達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで到達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えを深め、自分の意見として述べるができる。
	優	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えることができる。
	可	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められない。
到達目標 3	秀	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深め、自己の見解を述べるができる。
	優	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えることができる。
	可	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えようとする努力の過程が認められない。
到達目標 4	秀	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について理解を深めることにより自己の見解を述べるができる。
	優	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について理解を深めることができる。
	良	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について考えることができる。
	可	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえることもなく、「いのち」について考えようとする努力の過程が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 2	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 3	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 4	20	5	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート
提出物	毎回の授業後に学びや感想を提出する。毎回の授業の内容から得た知識や、さらに自ら調べた内容も加味し「いのちと共生」に関する自分の見解を述べるのが評価の対象となる。

履修に必要な知識・技能など
毎回担当者が変わり、担当者の専門とする内容から「いのちと共生」に関するテーマが展開されるため、履修者は全回出席が前提となる。さらに、テーマに関する内容を自分なりに予習しておくことが学修を深めることに繋がる。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	優	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	生物相互の関係についての知見のみにとどまっている。
	不可	生物相互の関係についての知見が不十分である。
到達目標 2	秀	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	優	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	様々な環境問題についての知見のみにとどまっている。
	不可	様々な環境問題についての知見が不十分である。
到達目標 3	秀	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続し行動している。
	優	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続している。
	良	環境問題を改善するために、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	環境問題を改善するための知見のみにとどまっている。
	不可	環境問題を改善するための知見が不十分である。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	70	0	0	0	0	100
到達目標 1	10	35	0	0	0	0	45
到達目標 2	10	35	0	0	0	0	45
到達目標 3	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。
提出物	基礎知識の復習を目的とした manaba 小テスト

履修に必要な知識・技能など
“自然”に興味を持つ

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
暮らしの中の数学 (F12160)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	高松邦彦
科目担当者	高松邦彦							

授業の概要	<p>数学は、科学的な思考全般の基本であり、近年、理系・文系を問わず、数理・データサイエンスを学ぶことが求められている。この授業は、以下の2つのコースを提供している。どちらかというとな数学が苦手だった学生のための「ベーシックコース (Basic Course, BC)」と、どちらかというとな数学が好きだった学生のための「アドバンスコース (Advanced Course, AC)」である。試験については、両コース同一の問題となる。</p> <p>「ベーシックコース」では、数学的な可視化法や思考法を理解することを目的とする。対象は、高校で数Ⅰしか受講していない学生を想定している。数Ⅱ以上を受講していない学生は、統計学などでは、シグマ記号 (Σ) を使うことがあるので、この授業を受講してほしい。</p> <p>「アドバンスコース」では、様々な学問を十分理解するために、その背景にある、理系学部の初年次で学ぶ「数学」の概略を理解することを目的とする。内容が難しいので、覚悟を持って受講すること。BC と AC を両方受講してもよい (ただし、単位は1科目分しか出ません)。この授業は、理研・文系問わず受講することができる。</p>							
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) ディスカッション、ディベート () グループワーク (レ) プレゼンテーション () 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無) (レ) 反転授業 () その他 ()</p>							
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	【BC】導入【AC】導入	【事前】教科書の予習 (120分) 【事後】一枚まとめと宿題 (120分)
第2回	【BC】暗算【AC】微分積分学とはなにか	【事前】教科書の予習 (120分) 【事後】一枚まとめと宿題 (120分)
第3回	【BC】自然数とシグマ (Σ) 記号【AC】解析学とは	【事前】教科書の予習 (120分) 【事後】一枚まとめと宿題 (120分)
第4回	【BC】位相幾何学【AC】線形代数とは	【事前】教科書の予習 (120分) 【事後】一枚まとめと宿題 (120分)
第5回	【BC】非ユークリッド幾何【AC】幾何学とは	【事前】教科書の予習 (120分) 【事後】一枚まとめと宿題 (120分)
第6回	【BC】グラフ理論【AC】濃度とは	【事前】教科書の予習 (120分) 【事後】一枚まとめと宿題 (120分)
第7回	【BC】可視化とは【AC】数理統計学とは	【事前】教科書の予習 (120分) 【事後】一枚まとめと宿題 (120分)
第8回	【BC】まとめ【AC】まとめ	【事前】教科書の予習 (120分) 【事後】一枚まとめと宿題 (120分)

学修の到達目標	
到達目標1	数理データサイエンスの入門的なことを理解できる
到達目標2	数学について理解できる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	数理データサイエンスの入門的なことを理解できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	数理データサイエンスの入門的なことを理解できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	数理データサイエンスの入門的なことを理解できるのみならず、他者へ説明することができる。
	可	数理データサイエンスの入門的なことを理解できる。
	不可	数理データサイエンスの入門的なことを理解できない。
到達目標 2	秀	数学について理解できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	数学について理解できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	数学について理解できるのみならず、他者へ説明することができる。
	可	数学について理解できる。
	不可	数学について理解できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	30	0	0	0	0	50
到達目標 2	20	30	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を最終に行う。
提出物	授業毎に、A4 用紙 1 枚に授業のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。授業の最後に、15 回分のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
予習と復習を欠かさないこと。

教科書・ISBN
暮らしの中の数学（ベーシックコース編）暮らしの中の数学（アドバンスコース編）川純一監修 神戸常盤大学数理データサイエンス教育研究会編

参考書
適時紹介していきます。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
基礎統計学 (F12170)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	中田康夫
科目担当者	中田康夫、高松邦彦							

授業の概要	近代統計学は、ライフサイエンス分野をはじめ、経済分野など様々な数理・データサイエンスで利用されている。最近の、エビデンスベースの研究においては、得られた実験データを、適切な方法で統計処理しなければならない。そのために、高校までに習得した確率・統計をもとに、数理・データサイエンスにおける基本的な部分である統計学の基本的な概念を理解する。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援		(レ) ディスカッション、ディベート		(レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション	
教員の実務経験	(レ) 実習、フィールドワーク		() 課題解決型学習(外部協定 有・無)		(レ) 反転授業		() その他()	
	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	導入 (担当者：中田、高松)	【事前】教科書の P.10～P.30 を読み理解する (120 分) 【事後】授業中に説明した P.10～P.30 について、一枚まとめを行う (120 分)
第 2 回	Σ を使った表現方 (担当者：中田、高松)	【事前】教科書 P.31～P.60 を読み理解する (120 分) 【事後】授業中に説明した P.31～P.60 について、一枚まとめを行う (120 分)
第 3 回	度数分布とヒストグラム (担当者：中田、高松)	【事前】教科書 P.61～P.90 を読み理解する (120 分) 【事後】授業中に説明した P.61～P.90 について、一枚まとめを行う (120 分)
第 4 回	様々な統計量 その 1 (平均・分散・標準偏差) (担当者：中田、高松)	【事前】教科書の P.91～P.120 を読み理解する (120 分) 【事後】授業中に説明した P.91～P.120 について、一枚まとめをおこなう (120 分)
第 5 回	様々な統計量その 2 (CV・相関係数) (担当者：中田、高松)	【事前】教科書 P.121～P.150 を読み理解する (120 分) 【事後】授業中に説明した P.121～P.150 について、一枚まとめをおこなう (120 分)
第 6 回	離散的と連続的の違いとは (担当者：中田、高松)	【事前】教科書 P.151～180 を読み理解する (120 分) 【事後】授業中に説明した P.151～P.180 について、一枚まとめを行う (120 分)
第 7 回	確率と確率密度関数 (担当者：中田、高松)	【事前】教科書 P.181～210 を読み理解する (120 分) 【事後】授業中に説明した P.181～210 について、一枚まとめを行う (120 分)
第 8 回	まとめ (担当者：中田、高松)	【事前】これまでのまとめを読み理解する (120 分) 【事後】授業中に説明したすべての内容のまとめを行う (120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	統計量とは何かを理解し、いくつかの統計量について求めることができる。
到達目標 2	離散的な統計と、連続量の統計の違いを理解する。
到達目標 3	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解すること。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	統計量について理解できているのみならず、授業で習う統計量を自分で求めることができ、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	統計量について理解できているのみならず、授業で習う統計量を自分で求めることができ、かつ、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	統計量について理解できているのみならず、授業で習う統計量を求められ、他者へ説明することができる。
	可	統計量を理解できる。
	不可	統計量を理解できない。
到達目標 2	秀	離散的と連続的な統計の違いについて理解でき、他者へ説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる、加えて他者から評価されている。
	優	離散的と連続的な統計の違いについて理解でき、他者へ説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	離散的と連続的な統計の違いについて理解でき、他者へ説明することができる。
	可	離散的と連続的な統計の違いについて理解できる。
	不可	離散的と連続的な統計の違いについて理解できない。
到達目標 3	秀	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解でき、他者へ説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる、加えて他者から評価されている。
	優	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解でき、他者へ説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解でき、他者へ説明することができる。
	可	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解できる。
	不可	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	30	0	0	0	0	50
到達目標 2	10	15	0	0	0	0	25
到達目標 3	10	15	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を、最終に行う。
提出物	授業毎に、A4 用紙 1 枚に授業のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。授業の最後に、8 回分のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
統計量とは何かを理解し、平均や標準偏差など授業で習った統計量を算出できるようになること。離散的な統計と、連続量の統計の違いを理解すること。確率の定義及び、確率密度関数がどのようなものかを理解すること。予習と復習を欠かさないこと。

教科書・ISBN

統計学 ～記述統計学篇～ 川純一監修 神戸常盤大学数理データサイエンス教育研究会編

参考書

適時お示しします

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
暮らしの中の物理学 (F12180)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 自由 口腔保健学科 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	高久圭二
科目担当者	高久圭二							

授業の概要	日常生活は、物理現象の連続である。かつてペストの流行で大学が閉鎖された時に、ニュートンはリンゴが木から落ちたのを見て、万有引力に気づいたように、疑問を持つ能力によって、物理法則は発見されてきた。不思議な物理現象を体験すれば、疑問を持ち、それを物理法則で説明できれば、暮らしの中の物理も理解できる。この授業では、力学、電磁気、熱と気体、音、光、放射線について体験してもらいながら説明し、日常生活に潜む物理現象を見つけ出すとともに、その不思議について考えてもらう。							
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> (レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> その他()							
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	大きさ、時間、重さの単位、次元:原子核から宇宙の謎まで、現代物理学を知ろう。	【事前】単位、次元に関する内容の読解(120分相当) 【事後】学習内容の振り返り(120分相当)
第2回	放射線:霧箱を作って、放射線を観察してみよう。エアカウンターを用いて、自然環境放射線を調べよう。	【事前】放射線に関する内容の読解(120分相当) 【事後】学習内容の振り返り(120分相当)
第3回	光:分光器を作って、光を分離してみよう。マイケルソン干渉計で光の性質を調べよう。	【事前】光に関する内容の読解(120分相当) 【事後】学習内容の振り返り(120分相当)
第4回	電磁気:ハミルトンの回転子を作って、なぜ回るかを考えてみよう。マイスナー効果を観察してみよう。	【事前】電磁気に関する内容の読解(120分相当) 【事後】学習内容の振り返り(120分相当)
第5回	音:ドップラー効果や共鳴現象を体験して、なぜそうなるかを考えてみよう。	【事前】音に関する内容の読解(120分相当) 【事後】学習内容の振り返り(120分相当)
第6回	熱と気体:気体の状態方程式を体験して、現象を理解してみよう。	【事前】熱と気体に関する内容の読解(120分相当) 【事後】学習内容の振り返り(120分相当)
第7回	力学:フーコーの振り子で、地球の自転を実感し、重力加速度を測定しよう。	【事前】力学に関する内容の読解(120分相当) 【事後】学習内容の振り返り(120分相当)
第8回	各自一番興味を持ったテーマを選んで、工夫をして再実験をし、学んだことをまとめてみよう。核と環境について検討しよう。	【事前】総括に関する内容の読解(120分相当) 【事後】学習内容の振り返り(120分相当)

学修の到達目標	
到達目標1	暮らしの中に現れる物理現象を理解し、それを利用できる。学んだことをまとめることができる。現代社会や日常生活に関わる物理学に関する知識を身につけている
到達目標2	根拠に基づき、論理的に考えることができる
到達目標3	学んだことを理解しやすい形にまとめることができる

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	学んだ知識を満足できる水準を超えて理解し、身につけている。
	優	学んだ知識を十分満足できる水準まで理解し、身につけている。
	良	学んだ知識を理解し、身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、最小限の知識は理解し、身につけている。
	不可	知識を全く身につけていない。得ようとする姿勢も見られない。
到達目標 2	秀	学んだ知識に基づき、論理的に思考でき、満足できる水準を超えている。
	優	学んだ知識に基づき、論理的に思考でき、満足できる水準に達している。
	良	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができる。
	可	学んだ知識に基づき、論理的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができない。
到達目標 3	秀	学んだこと十分にまとめることができ、他者が参考にできるレベルにある。
	優	学んだことを十分にまとめることができる。
	良	学んだことをまとめることができる。
	可	学んだことを不十分ではあるが、まとめることができる。
	不可	学んだことをまとめることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	20	0	0	0	0	40
到達目標 2	20	20	0	0	0	0	40
到達目標 3	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	レポート

履修に必要な知識・技能など
暮らしの中に現れる物理現象に興味・関心を持つ。自律的に授業に参加する態度。

教科書・ISBN
適宜、教材・資料等は配布する

参考書
使用しない

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
人体のふしぎ (F12200)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	岩越美恵
科目担当者	岩越美恵、塩谷英之、新谷路子、杉山育代、田村周二、山城圭介							

授業の概要	人体の構造と機能に関する解剖学や生理学といった学問への体系導入前に、人体のしくみとはたらきの合目的な「からだの不思議」を知る。授業は、コンピューターグラフィック（CG）を利用した視覚教材等を用いて、生命活動を営む神秘に触れる。また、不思議を自ら探り、情報収集して見識を広げ、グループでもまとめて知識を共有する。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) (レ) その他(自分で興味を持って情報収集)					
教員の実務経験								

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション“脳”ひらめきと記憶の正体 (担当者：岩越)	【事前】 シラバスを読んでおく。人のからだや健康に関する新しい知見についてインターネット以外に新聞や科学誌や興味の湧く本などを見つけておく。(100分) 【事後】 授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出(125分)
第2回	驚きのパワー!“脂肪と筋肉”が命を守る (担当者：塩谷)	【事前】 テーマに関して興味のある記事を探して事前学習(100分) 【事後】 授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出(125分)
第3回	尿からわかる体のあれこれ (担当者：新谷)	【事前】 manabaに公開した資料を熟読して、テーマに関する事前学修(125分) 【事後】 授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出(125分)
第4回	万病から守る!『免疫力』を司る腸 (担当者：杉山)	【事前】 manabaに公開した資料を熟読して、テーマに関する事前学修(125分) 【事後】 授業の振り返りながら、課題作成と提出(100分)
第5回	体のしなやかなポンプとホース～心臓・血管～ (担当者：田村)	【事前】 manabaに公開した資料を熟読して、テーマに関する事前学修(100分) 【事後】 授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出(125分)
第6回	口腔のふしぎ (担当者：山城)	【事前】 manabaに公開した資料を熟読して、テーマに関する事前学修(100分) 【事後】 授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出(125分)
第7回	骨が出す!最高の若返り物質 8回目の授業の説明 (担当者：安藤) (担当者：岩越)	【事前】 テーマに関して興味のある記事を探して事前学習(100分) 【事後】 授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出(125分)

第 8 回	7つのテーマ別グループ発表 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 事前に出された課題に関するグループワーク (180分) 【事後】 全班の発表を聴いて、興味を持ったことを調べる。(65分)
-------	-----------------------------	---

学修の到達目標	
到達目標 1	学ぶことが、楽しいことであることを知り、自ら興味を持って積極的に学修することができる。
到達目標 2	情報を収集しそれらを情報を整理・分析し、他者に伝えるためにまとめることができる。
到達目標 3	仲間と共に、学んだことを出し合い、それらをまとめることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができない。
到達目標 2	秀	情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
到達目標 3	秀	かなり自発的に仲間に貢献できる。それにより仲間のモチベーションを高めることもできる。また自分の公権力を社会に還元することもできる。
	優	かなり自発的に仲間に貢献できる。それにより仲間のモチベーションを高めることもできる。
	良	ある程度自発的に仲間に貢献できる。
	可	他者から指示されれば、仲間に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	15	70	15	0	0	0	100
到達目標 1	0	35	5	0	0	0	40
到達目標 2	15	0	5	0	0	0	20
到達目標 3	0	35	5	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学期末に筆記定期テストを施行する。
提出物	毎回の授業のテーマについて、各自が興味を持ったことに関して情報収集し整理してまとめる。授業の内容についての小テスト。(グループで学びを確認できる)
成果発表 (口頭・実技)	最後の授業で、与えられたテーマについて、各グループメンバーが集めた興味ある情報を他の班の人に伝えるために班でまとめて発表する。

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none">・真理探究、人間探究への好奇心・個性ある学びを仲間のために活かしよう社会性

教科書・ISBN
使用しません

参考書
NHK スペシャル 人体 神秘の巨大ネットワーク DVD

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
現代社会と生命科学 (F12210)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	松元英理子
科目担当者	松元英理子							

授業の概要	21世紀は生命科学の時代と言われ、生命現象の謎が次々と解明され、新しい技術が開発されています。そしてそれらの技術は科学者だけのものではなく、社会と深く関わりを持ち、私たちの生活にも大きな影響を与えています。私たちは、生命科学の技術を楽しむかどうか、一人一人が判断を迫られる時代に生きているのです。この科目では、現在話題となっている生命科学のニュースを取り上げ、まずそれらを理解するための生命科学の基礎知識を学び、次に正しい知識を基に自分自身に関わりのある問題として考え、議論することを目的とします。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	ガイダンス、生命科学のニュース 生命科学の基礎の基礎：ヒト～細胞～遺伝子	【事前】シラバスを読む(15分) 【事後】manaba 小テスト(生命科学の基礎)(100分)
第2回	テーマ① 消費者直結型遺伝子検査 ～ネットで気軽に遺伝子検査？ 遺伝子と疾患のかかわり、遺伝子でわかること	【事前】インターネット上の消費者直結型遺伝子検査のサイトを閲覧する(100分) 【事後】manaba 小テスト(遺伝子と疾患、遺伝子検査)(100分)
第3回	テーマ② 新型出生前遺伝子診断 ～お母さんの血液で出生前診断？ 遺伝子と染色体、染色体異常	【事前】新型出生前遺伝子診断(NIPT)に関するニュースを調べる(100分) 【事後】manaba 小テスト(染色体異常、出生前診断)(100分)
第4回	テーマ③ 遺伝子組換え食品・ゲノム編集食品 ～あなたは食べる？ 遺伝子を書き換える技術	【事前】遺伝子組換え食品・ゲノム編集食品に関するニュースを調べる(100分) 【事後】manaba 小テスト(遺伝子組換え・ゲノム編集)(100分)
第5回	テーマ④ 新型コロナウイルスの検査 免疫のしくみ、色々な検査法	【事前】新型コロナウイルスの検査に関するニュースを調べる(100分) 【事後】manaba 小テスト(ウイルスの検査)(100分)
第6回	グループワーク① (manaba プロジェクト機能)：manaba チームスレッドにグループ討議に必要な情報を収集し、討議の準備を行う。	【事前】与えられたテーマについて、グループでの討議に必要な情報を収集してmanabaに投稿する(150分) 【事後】チームメンバーが投稿した情報を読み、質問する。(50分)
第7回	グループワーク② (manaba プロジェクト機能)：チーム内でテーマに対する各々の考えを共有する	【事前】テーマに対する自身の考えを簡潔にまとめ、manabaに投稿する(150分) 【事後】チームメンバーが投稿した意見に対してコメントを投稿する(50分)
第8回	グループワーク③ (manaba プロジェクト機能)：チームスレッド上での討議を通して自己と他者の意見を対比させ、自己の考えを更に深める。	【事前】プロジェクトのチームスレッドにコメントする(100分) 【事後】定期試験に向けた学修(385分)

学修の到達目標	
到達目標 1	1) 現在、話題となっている生命科学のニュースおよびその問題点について ①ニュースを理解するための基礎的な生命科学の知識を理解し身につける。
到達目標 2	②論理的・批判的に考察できる。
到達目標 3	③グループワークを通して自己と他者の考えを対比させ・まとめ・表現できる。
到達目標 4	2) グループワークに貢献できる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	必要な知識を満足できる水準を超えて理解し身につけている。さらに自主的な学修で知識を広げることができる。
	優	必要な知識を充分満足できる水準にまで理解し身につけている。
	良	必要な知識を理解し身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、必要最低限の知識は理解し身につけてはいる。
	不可	必要な知識を理解し身につけることができていない。
到達目標 2	秀	学んだ知識に基づき、独自の視点をもって論理的かつ批判的に思考することができる。
	優	学んだ知識に基づき、論理的かつ批判的に思考することができ、満足できる水準に達している。
	良	学んだ知識に基づき、論理的又は批判的に思考することができる。
	可	学んだ知識に基づき、論理的又批判的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	学んだ知識に基づき、論理的・批判的に思考することができない。
到達目標 3	秀	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・独自の視点をもってわかりやすく表現できる。
	優	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・表現でき、満足できる水準に達している。
	良	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・表現できる。
	可	自己と他者の意見を対比させることはできるが、それをまとめ・表現することは努力を要する。
	不可	自己と他者の意見を対比させて思考することができない。
到達目標 4	秀	自発的にグループワークに貢献し、グループワークを円滑に進め、リーダーシップを発揮できる。
	優	自発的にグループワークに貢献し、グループワークを円滑に進めることができる。
	良	自発的にグループワークに貢献できる。
	可	他者から指示されれば、グループワークに貢献することができる。
	不可	グループワークに貢献することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	0	0	10	100
到達目標 1	20	30	0	0	0	0	50
到達目標 2	20	10	0	0	0	3	33
到達目標 3	10	0	0	0	0	2	12
到達目標 4	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施します。
提出物	基礎知識の復習を主な目的とした manaba 小テスト。講義資料やノートなどを見ながら答えてください。
その他	manaba 上のグループワーク（討議への積極的な参加、事前の情報収集、投稿コメントなど）

履修に必要な知識・技能など
1) 生命科学の基礎は、高等学校の「生物基礎」の復習レベルから始めますが、高等学校で生物学を十分に学んでこなかった方は、新しい知識を取り込む意欲をもって臨んでください。 2) メディアに取り上げられる生命科学のニュースに興味を持ってください。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
安全学 (F12220)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	伴仲謙欣
科目担当者	伴仲謙欣、馬場栄二、金千秋、西岡伸紀、柴山慶太、本田英理、菊地隆之							

授業の概要	現代社会に生きる私たちは、「いつでも」「どこでも」災害や事故等により、「安全」を脅かされる可能性を有しています。そのため、天災（地震、パンデミック、台風、大雨、洪水、津波、火山爆発・・・）ばかりでなく、人災（事件、事故等）にも備えることが求められます。将来、「いのち」を支える専門職を目指すためには、幅広い視点から「安全」について学び、その実践的な教養を身に付けておくことが大切でしょう。本講義は、地域の講師陣によるオムニバス形式で展開し、様々な分野、立場から多角的に「安全」を考えます。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	この講義の進め方／「安全」についての基礎理解 (担当者：伴仲)	【事前】シラバスの熟読と災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧(120分) 【事後】本時のまとめ ※要提出(120分)
第 2 回	1.17 から考えるいのちと安全：阪神・淡路大震災は、大きな課題と教訓を残した。コミュニティでのいのちと安全を専門家から学びます。 (担当者：金)	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧(120分) 【事後】本時のまとめ ※要提出(120分)
第 3 回	人間から考える安全：学校における安全教育を通し、環境整備（教材、養成、研修、体制等）について、教育の専門家より学びます。 (担当者：西岡)	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧(120分) 【事後】本時のまとめ ※要提出(120分)
第 4 回	地域・歴史から考える安全：私達は、いつでも、どこでも、誰でも災害に遭う可能性がある。災害からの安全を、専門家より学びます。 (担当者：馬場)	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧(120分) 【事後】本時のまとめ ※要提出(120分)
第 5 回	企業の視点から考える安全：企業の組織やシステム（マネジメント・保守管理・安全活動）上の安全を学びます。 (担当者：菊地)	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧(120分) 【事後】本時のまとめ ※要提出(120分)
第 6 回	社会制度（法律）から考える安全：私達が、社会制度（保険・裁判・刑法・試験）により守られている安全を、専門家より学びます。 (担当者：柴山)	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧(120分) 【事後】本時のまとめ ※要提出(120分)
第 7 回	社会から考える安全：社会には無数の危険がある。生きる上で必要な情報についての危機管理と安全について、専門家より学びます。 (担当者：本田)	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧(120分) 【事後】本時のまとめ ※要提出(120分)
第 8 回	まとめと発展：これまで学んできた内容の振り返り (担当者：伴仲)	【事前】 【事後】定期試験の準備(120分)

学修の到達目標	
到達目標 1	幅広い視点から「安全」を捉えて“自分事”に結びつけた上で、主体的に行動するための判断基準や筋道を論理的に導き出すことができる。
到達目標 2	「安全」に関する幅広い学びを自ら深めることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	幅広い視点から「安全」を捉えて“自分事”に結びつけた上で、主体的に行動するための判断基準や筋道を論理的に導き出すことができ、その内容がとりわけ秀でている。
	優	幅広い視点から「安全」を捉えて“自分事”に結びつけた上で、主体的に行動するための判断基準や筋道を論理的に導き出すことができ、その内容が秀でている。
	良	幅広い視点から「安全」を捉えて“自分事”に結びつけた上で、主体的に行動するための判断基準や筋道を論理的に導き出すことができる。
	可	幅広い視点から「安全」を捉えて“自分事”に結びつけることができる。
	不可	幅広い視点から「安全」を捉えて“自分事”に結びつけることができない。
到達目標 2	秀	「安全」に関する幅広い学びを自ら深めることができ、その内容がとりわけ秀でている。
	優	「安全」に関する幅広い学びを自ら深めることができ、その内容が秀でている。
	良	「安全」に関する幅広い学びを自ら深めることができる。
	可	「安全」に関する学びを自ら深めることができる。
	不可	「安全」に関する学びを自ら深めることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	0	0	10	100
到達目標 1	50	0	0	0	0	0	50
到達目標 2	0	40	0	0	0	10	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験としてレポート試験を実施する。
提出物	時間外学修（事後学修）として、毎時、講義のまとめの提出を求める。
その他	アクティブラーナー（主体的学修者）としての姿勢を評価する。

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生としての自覚と学問に対する興味・関心を持って、地域の講師陣に対して積極的かつ真摯に学ぶ姿勢で臨んでください。 ・毎回、授業外の課題として講義のまとめの提出を求めますが、成績評価上、この記載内容を重視しますのでしっかりと取り組んでください。 ・（特に）授業テーマに関連する新聞記事を読む習慣を身につけてください。

教科書・ISBN

参考書
必要が生じた場合、適宜紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
人類と農学 (F12230)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	大菅誠司
科目担当者	大菅誠司							

授業の概要	私たち人類は外部から栄養をとらなければなりません。そのためには植物（作物、野菜、草花、バイオなど）のことを知っておく必要があります。それらを利用・応用しているのが農業です。私たちの身の周りの植物について、一緒に楽しく見ていきましょう。							
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援		() ディスカッション、ディベート		(レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション	
教員の実務経験	() 実習、フィールドワーク		() 課題解決型学習(外部協定 有・無)		() 反転授業		() その他 ()	
	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション。農学とはどのような領域の学問か、全体像を理解する。	【事前】シラバスの熟読。他大学の農学部ホームページを見て、どういう研究が行われているか調べる。(120分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。自分の考えも述べる。(120分)
第 2 回	農業はいつから始まったか、人類と農業とのかかわり、現在の日本の農業について概観する。植物について分類・組織構造等基本的な説明。	【事前】農業の歴史、現在の農業について予習。植物の基本構造を調べる。(120分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。自分が考えたことも述べる。(120分)
第 3 回	作物について、どのような作物があるか、その栽培や利用についての説明。	【事前】作物の種類・利用について予習。(120分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。印象に残った作物についての感想、調べたことの記述。(120分)
第 4 回	花卉について。花の種類・栽培、繁殖方法について。	【事前】花の園芸的分類について調べる。増殖方法、栽培法について予習。(120分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。今までに栽培したことのある花をあげ、作ったときの感想を述べる。(120分)
第 5 回	野菜について。野菜の種類・栽培について。珍しい野菜の食べ方について。	【事前】野菜の種類(分類)について予習。よく食べる野菜について原産地を調べる。(120分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。今までに目にした珍しい野菜(食べ方も含め)があれば記述してください。(120分)
第 6 回	植物バイオについて。植物組織培養とは。ラン類等への利用について。品種登録について。	【事前】農業における植物バイオについて予習。どのように利用されているかなど。(120分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。バイオでどのようなことができれば良いと思いますか。(120分)
第 7 回	今までの補足。これまでの講義内容について自分なりに考えたことの学生による発表。	【事前】PowerPointによる発表の準備。(120分) 【事後】自分以外の発表についての感想・意見をまとめる。(120分)

第 8 回	これまでの講義内容について自分なりに考えたことの学生による発表。 まとめ。	【事前】 PowerPoint による発表の準備。(120 分) 【事後】 自分以外の発表についての感想・意見をまとめる。 講義全体を振り返り、感想などを記述する。 (120 分)
-------	--	---

学修の到達目標	
到達目標 1	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解し、それらを説明することができる。
到達目標 2	植物の分類、構造、成長特性を理解し、それらを説明することができる。
到達目標 3	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解し、それらを説明することができる。
到達目標 4	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解し、そして、植物バイオについてその方法や利用を理解し、それらを説明することができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。加えて他者から評価されている。
	優	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解でき、それらを他者に説明することができる。
	可	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解できる。
	不可	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解できない。
到達目標 2	秀	植物の分類、構造、成長特性を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。加えて他者から評価されている。
	優	植物の分類、構造、成長特性を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	植物の分類、構造、成長特性を理解でき、それらを他者に説明することができる。
	可	植物の分類、構造、成長特性を理解できる。
	不可	植物の分類、構造、成長特性を理解できない。
到達目標 3	秀	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。加えて他者から評価されている。
	優	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解でき、それらを他者に説明することができる。
	可	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解できる。
	不可	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解できない。
到達目標 4	秀	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解でき、かつ、植物バイオについてその方法や利用を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。加えて他者から評価されている。
	優	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解でき、かつ、植物バイオについてその方法や利用を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解でき、かつ、植物バイオについてその方法や利用を理解でき、それらを他者に説明することができる。
	可	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解でき、かつ、植物バイオについてその方法や利用を理解できる。
	不可	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解できない。植物バイオについてその方法や利用を理解できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	20	20	0	0	0	100
到達目標 1	15	5	5	0	0	0	25
到達目標 2	15	5	5	0	0	0	25
到達目標 3	15	5	5	0	0	0	25
到達目標 4	15	5	5	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験では、授業で学んだことがよく理解できているかを見る。試験では、単に覚えたではなく、自分たちの問題としてとらえられているか判断する。
提出物	毎回授業で植物に関する小テストを行い、理解度を評価する。 最後の授業で、予習、復習、授業内容などのレポートを提出し、理解度を評価する。(従って、毎回まとめておくことが必要)
成果発表 (口頭・実技)	最後の授業で、農業・植物・環境について自分なりのまとめをパワーポイントで発表する。全員による質疑応答の時間も設ける。(履修者人数により発表時間・日程を変更することがある) 発表内容により、講義の理解度を評価する。

履修に必要な知識・技能など
植物、農業、食品、環境などに興味を持っていれば理解が深まる。予習・復習は必ずやること。不必要な私語は慎むこと。

教科書・ISBN
必要性が出てきたときに随時紹介する。

参考書
必要性が出てきたときに随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
プログラミング入門 (F12240)	演習	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	関雅幸
科目担当者	関雅幸							

授業の概要	「プログラミング」技術の基礎を習得する。 プログラミングとはプログラミング言語を使って、コンピュータに行わせたい仕事の手順を記述することである。今後、人工知能が著しく進化して、仕事のやり方が変わることが予測される社会において、コンピュータに何をやらせるかを考えることができる思考を持つことが重要となる。この授業では、Scratch というプログラミングツールを用いてプログラムを作成してもらう。前半は基本的な事柄の説明を聞き、演習を行ってもらう。後半はグループに分かれてオリジナルプログラムを作成してもらう。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Scratch を使う準備、Scratch の基本	【事前】シラバスの内容の熟読 (20分) 【事後】疑問点を確認し、再考する (150分)
第 2 回	プログラムの流れを知る	【事前】メッセージの送受信の方法等を教科書で確認する (60分) 【事後】第2回の中でうまくできないところを再考する (140分)
第 3 回	変数・配列について	【事前】変数や配列の使い方を教科書で確認する (60分) 【事後】第3回の中でうまくできないところを再考する (140分)
第 4 回	構造化プログラミングについて	【事前】処理の構造等を教科書で確認する (60分) 【事後】第4回の中でうまくできないところを再考する (140分)
第 5 回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅰ：概要を決め、コードを書く	【事前】どんなものを作るか考える (150分) 【事後】終わらない部分を作る (140分)
第 6 回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅱ：問題点の抽出、改善	【事前】問題点を考える (110分) 【事後】不十分な点がないか考える、終わらない部分を作る (140分)
第 7 回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅲ：テストそして改善	【事前】テストする項目を考える (110分) 【事後】さらなる工夫ができないか考える (140分)
第 8 回	プログラムのチェック・まとめ	【事前】確認すべき事柄を考える (110分) 【事後】プログラムの説明・使い方の文章を考える (140分)

学修の到達目標	
到達目標 1	コンピュータに行わせたいことを論理的に考えることができるようになる。
到達目標 2	様々な考えや知識を総合して課題の解決策をデザインすることができるようになる。
到達目標 3	誰かの役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができるようになる。
到達目標 4	授業で学び、感じたことをまとめることができるようになる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えることができ、満足できる水準を超えている。
	優	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えることができ、満足できる水準に達している。
	良	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えることができる。
	可	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えようとする努力が認められる。
	不可	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えることができない。
到達目標 2	秀	様々な知識や考えを統合して課題解決策をデザインすることができ、満足できるレベルを超えている。
	優	様々な知識や考えを統合して課題解決策をデザインすることができ、十分満足できるレベルである。
	良	ある程度様々な知識や考えを統合して課題解決策をデザインすることができる。
	可	様々な知識や考えを統合して課題解決策をデザインしようとする努力が認められる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
到達目標 3	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。
	優	十分に自発的に周囲に貢献できる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	周囲に何らかの貢献をしようとする努力が認められる。
	不可	貢献への積極性がない。
到達目標 4	秀	学んだこと・感じたことを十分にまとめることができ、他者が参考にできるレベルにある。
	優	学んだこと・感じたことを十分にまとめることができる。
	良	学んだこと・感じたことをまとめることができる。
	可	学んだこと・感じたことを不十分ではあるが、まとめることができる。
	不可	学んだこと・感じたことをまとめることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	30	0	40	0	0	100
到達目標 1	0	0	0	40	0	0	40
到達目標 2	15	0	0	0	0	0	15
到達目標 3	15	0	0	0	0	0	15
到達目標 4	0	30	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	1枚まとめ
作品	プログラム

履修に必要な知識・技能など

コンピュータに関する基本的な知識があり、コンピュータに行わせたい課題に対して興味・関心がある。

教科書・ISBN

9784822286170 『Scratch で学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本 改訂第2版』 中植正剛他 著 日経BP社

参考書

『楽しく学ぶ アルゴリズムとプログラミングの図鑑』 森巧尚、まつむらまきお（イラスト）著 マイナビ出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
日本国憲法 (F12250)	講義	2	30	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	看護学科 養教免必修 こども教育学科 保育士選択必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	柴山慶太
科目担当者	柴山慶太							

授業の概要	憲法の役割を考察した上で、日本国憲法の人権規定の部分を中心に概説する。 公共の福祉の意義、精神的自由と経済的自由の違い、違憲審査基準を学習した後、判例を分析しながら各人権規定を確認していく。統治、平和主義、憲法改正などについても触れる予定である。 基本は講義形式となる。とはいえ、講義の中ではできるだけ皆で考える機会を作り、対話形式の授業にしたいと考えている。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	【オリエンテーション、憲法とは何か】提示された判例を元に、共通点を考える。社会契約論についても触れる。	【事前】シラバスの通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第2回	【公共の福祉】 人権制約の必要性とその根拠について、具体例を元に考える。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第3回	【憲法の構造】個人の尊厳を中心とする人権規定と、これを支える統治機構について概観する。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第4回	【精神的自由概要】精神的自由と呼ばれる人権にはどのようなものがあるか、概観する。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第5回	【経済的自由概要】経済的自由と呼ばれる人権にはどのようなものがあるか、概観する。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第6回	【二重の基準】精神的自由と経済的自由で、なぜ違憲審査基準を異にすべきであるのかを考える。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第7回	【精神的自由各論】 19条、21条について、判例を元に検討する。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第8回	【経済的自由各論】 22条、29条について、判例を元に検討する。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第9回	【平等権】 14条の平等の意味、違憲審査基準を考える。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第10回	【その他の人権】 生存権など、その他の人権について概観する。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第11回	【これまでの復習】(小テストも予定)	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第12回	【司法権の役割、憲法訴訟のルール】司法権の役割を知り、なぜ合憲限定解釈などのルールがあるのかを考える。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第13回	【統治(立法権、行政権)】国会、内閣の役割と権力分立構造を見る。なぜ代表民主制が必要か検討する。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)
第14回	【平和主義】 平和主義について、政府見解・判例分析などを通じて検討する。	【事前】指定範囲の教科書通読 (120分) 【事後】指定範囲の教科書通読 (120分)

第 15 回	【憲法改正、まとめ】政府の憲法改正案について、これまでの知識を使って、その是非を議論する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120分）
--------	---	--

学修の到達目標	
到達目標 1	憲法の役割について理解する。 憲法が保障する権利、自由がどのようなものであるかを理解する。
到達目標 2	憲法の各規定を、実際の生活でどう活用できるかを考えることができるようになる。 憲法の各規程を適用して、違憲か合憲かの判断を自分なりにできるようになる。
到達目標 3	憲法改正について、その内容の是非を判断できるようになる。

ルーブリック	
評価基準	
到達目標 1	秀 憲法の役割について十分に理解し、説明することができる。 憲法が保障する権利、自由がどのようなものであるか、十分に理解し、説明することができる。
	優 憲法の役割について十分に理解している。 憲法が保障する権利、自由がどのようなものであるか、十分に理解している。
	良 憲法の役割について理解している。 憲法が保障する権利、自由がどのようなものであるか、理解している。
	可 憲法がどのようなものかということについて凡そ理解している。 憲法が保障する権利、自由がどのようなものであるか、凡そ理解している。
	不可 憲法の役割を理解できていない。 憲法が保障する権利、自由がどのようなものであるか、理解できていない。
到達目標 2	秀 理解した知識を利用して、憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、自分で考えることができる。 その上で、違憲か合憲かの判断を論理的にできるようになる。
	優 憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、自分で考えることができる。 その上で、違憲か合憲かの判断をできるようになる。
	良 憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、ヒントを与えられれば自分で考えることができる。 その上で、違憲か合憲かの判断を誘導されればできるようになる。
	可 憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、誘導されれば考えることができる。 その上で、違憲か合憲かの判断を誘導されながら考えることができる。
	不可 憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、考えることができない。 違憲か合憲かの判断を全くできない。
到達目標 3	秀 これまで理解した知識を利用して、憲法改正について、その内容の是非を、自分なりの考えをもって論理的に判断できるようになる。
	優 憲法改正について、その内容の是非を、自分なりの考えをもって論理的に判断できるようになる。
	良 憲法改正について、その内容の是非を、自分なりの考えをもって判断できるようになる。
	可 憲法改正について、その内容の是非を考えることができるようになる。
	不可 憲法改正について、その内容の是非を、考えられない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	95	5	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	5	0	0	0	0	45
到達目標 2	50	0	0	0	0	0	50
到達目標 3	5	0	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う。授業で学んだ基本的知識、教科書等から得た知識などを活用し、設問に論理的に回答できているか、反対意見に対する配慮がされているか、最終的に自分の考えを説得的に述べられているかを確認する。
提出物	節目で小テストを行う。ここでは基本的な知識が修得できているか、回答は論理的になされているか、を確認する。

履修に必要な知識・技能など
前知識なしで理解できるように平易に解説をするつもりであるが、論理は基礎から積みあがっていくものであるため、復習（授業で終わった部分について教科書を読む）を中心に学習していただきたい。 教科書などについては、1回目の授業で説明するので事前準備は不要。

教科書・ISBN
—

参考書
『憲法』 芦部信義 岩波書店 (授業で使います。現在、第7版ですが、第3版以降なら旧版でも構いません。(7版→ISBN-13:978-4000613224)) また、憲法の条文を用意(インターネットのe-Govサイトや図書館の六法など)して、授業に持ってきてください。 『プレップ憲法』 戸松秀典 弘文堂(憲法についての興味を深める役に立ちますが、授業では使いません。)

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
哲学と倫理 (F12260)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	中野康次郎
科目担当者	中野康次郎							

授業の概要	「人は哲学を学ぶことはできない……ただ哲学することを学ぶうだけである。」(カント) 哲学すること、それは先人たちが考えてきたこと (=知識) を頭のなかに詰め込む作業ではない。倫理もまた同様である (倫理学=実践哲学)。授業で取り扱う予定の様々な問題の検討を通じて、自分の頭で考えること、すなわち哲学することを、受講者の皆さんと共に学んでいきたい。							
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業				<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()			
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「哲学」とは	【事前】 シラバス内容の熟読 (10 分) 【事後】 授業中に配布した資料の熟読 (120 分)
第 2 回	「愛」に理由はあるか	【事前】 第 2 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】 授業中に配布した資料の熟読 (120 分)
第 3 回	「美」は事実か趣味か	【事前】 第 3 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】 授業中に配布した資料の熟読 (120 分)
第 4 回	万引きが「悪い」行為なのはなぜか	【事前】 第 4 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】 授業中に配布した資料の熟読 (120 分)
第 5 回	嘘をつくことはいつも悪いことか	【事前】 第 5 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】 授業中に配布した資料の熟読 (120 分)
第 6 回	動機と結果のどちらを重視すべきか	【事前】 第 6 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】 授業中に配布した資料の熟読 (120 分)
第 7 回	どんな考え方でも尊重しなければいけないのか	【事前】 第 7 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】 授業中に配布した資料の熟読 (120 分)
第 8 回	まとめ	【事前】 第 8 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】 授業中に配布した資料の熟読 (120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	様々なテーマについて、問題点を論理的に考察する事が出来る。
到達目標 2	自分とは異なる立場の考え方を理解し、自分の考え方を批判的に反省することが出来る。
到達目標 3	自分の考えを、立場が異なる相手に対しても、説得力のある仕方で論理的に表現できる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	与えられた資料を十分論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、問題点を整理して考察することができる。
	優	与えられた資料を論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、問題点を考察することができる。
	良	与えられた資料をある程度は論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、何が問題になっているのかを理解することができる。
	可	与えられた資料をある程度は論理的に読解することができる。
	不可	論理的に考えることができない。
到達目標 2	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
到達目標 3	秀	自分の考えを論理的に表現することができ、また他者を納得させるようその表現方法の工夫が十分に認められる。
	優	自分の考えを論理的に表現することができ、また他者を納得させるようその表現方法の工夫が認められる。
	良	自分の考えを論理的に表現することができる。
	可	自分の考えを論理的に表現しようとする努力が認められる。
	不可	自分の考えを論理的に表現しようとする努力が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	15	10	0	0	0	0	25
到達目標 2	30	20	0	0	0	0	50
到達目標 3	15	10	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験は筆記試験を実施します。授業で学んだ様々な考え方を活用しながら、期末試験のテーマ(未定)についての資料を読み込み、問題点を整理し、説得力のある仕方での自分の考えを書くことが求められます。
提出物	毎回の授業で、与えられたテーマについて自分の考えを書いて提出してもらいます。これは期末試験へ向けてのトレーニングでもあります。この課題(毎回自分の考えを書くこと)の目的は、問題点を整理し、自分とは異なる考え方も十分理解した上で、論理的に自分の考えを文章にまとめる力をつけていくことです。このことを踏まえた上で、毎回の授業に真剣に参加しているかどうかの評価のポイントとなります。

履修に必要な知識・技能など
<p>この講義は、これまで考えたことが無いであろう様々な問題を受講者に考えてもらうことを目的としています。それゆえ特別な予備知識は要求しませんが、「考える」ことは要求します。</p> <p>考えたり文章を書いたりする事が苦手な方にとっては、この講義はかなりの「苦行」になると思われれます。そのことを踏まえた上で受講して下さい。</p>

教科書・ISBN

資料を授業中に配布します。

参考書

必要に応じ、適宜授業中に紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
生命と倫理 (F12270)	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 選択必修	—	塩谷英之
科目担当者	塩谷英之							

授業の概要	近年の生命科学と医療技術の目覚ましい発展により、「いのちのサポーター」である医療従事者や教育者に倫理的決断を求められる状況が現実のものとなってきた。生殖補助医療や新薬治験などの先進医療から障害者、高齢者支援さらには社会保障など日常的な社会活動にまで深く関わる生命倫理的配慮の重要性について学ぶ。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () ディスカッション、ディベート () グループワーク () プレゼンテーション () 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () 反転授業 () その他 ()							
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	医学と倫理…いのちの尊厳、死生観、科学と宗教	【事前】 テーマについて調べる (100分) 【事後】 講義資料のまとめ (120分)
第2回	生命倫理学入門…定義、研究対象、方法	【事前】 テーマについて調べる (100分) 【事後】 講義資料のまとめ (120分)
第3回	性と倫理…性的少数者 (LGBTQ) の現状と課題、生殖補助医療	【事前】 テーマについて調べる (100分) 【事後】 講義資料のまとめ (120分)
第4回	障害者と高齢者	【事前】 テーマについて調べる (100分) 【事後】 講義資料のまとめ (120分)
第5回	東洋医学 (代替医療) と西洋医学 東洋医学：漢方薬 (薬物療法)、鍼灸、薬膳、按摩、気功	【事前】 テーマについて調べる (100分) 【事後】 講義資料のまとめ (120分)
第6回	健康保険・医療制度とその倫理	【事前】 テーマについて調べる (100分) 【事後】 講義資料のまとめ (120分)
第7回	薬害と新薬治験…サリドマイド禍、エイズ禍、臨床試験 (治験)	【事前】 テーマについて調べる (100分) 【事後】 講義資料のまとめ (120分)
第8回	公害と災害…企業と行政の責任、環境破壊、石綿禍、天災、人災、労働災害	【事前】 前 (々) 日の新聞を通覧 (100分) 【事後】 講義資料のまとめ (160分)

学修の到達目標	
到達目標 1	倫理的に問題のある種々の事態を速やかに感知し、自分のとるべき適切な対応を決定できるようになること。
到達目標 2	複雑な物事の倫理判断ができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	高い倫理観の下に何らかの是正策を構想・提言する。
	優	問題の内容や原因を調べて自分の考えを確立する。
	良	問題に対する自分の立ち位置を決めることができる。
	可	問題の存在には気付くが、何をすべきか自分の考えがまとまらない。
	不可	問題の存在に気付かない。
到達目標 2	秀	日常的な社会活動の中に多くの倫理的課題の存在を感じる。
	優	複雑な物事の倫理判断ができる。
	良	単純な物事の倫理判断ができる。
	可	物事の適否は大体分かるが、倫理的配慮ができない。
	不可	物事の状況判断が全くできない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	30	0	0	0	0	50
到達目標 2	20	30	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	総合レポート
提出物	各回課題に対するレポート

履修に必要な知識・技能など
毎回の授業後にレポート課題を課す。毎回の授業の内容から得た知識や、さらに自ら調べた内容や、グループワークから得られた他人の意見を参考に自分の見解を述べるのが評価の対象となる。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
『医療倫理学の方法：原則・手順・ナラティブ』宮坂道夫著 医学書院

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
芸術文化論 (F12280)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	谷口英明
科目担当者	谷口英明							

授業の概要	最近、グローバル化 (globalization) という言葉をよく耳にします。これは、さまざまなものが国家間を超えて行き来することを意味しています。これに象徴されるように、世界は急速に身近なものになりつつあります。コロナ禍以前では、日本への外国人観光客が増え、また在留外国人も増加傾向でした。コロナ終息後、私たちは外国の方々と触れ合う機会がますます増えていくことが予想されます。そのような中で私たち日本人に求められるのは、改めて「日本とはどういう国か?」と問い直されることです。あなたは一体この国のことをどのくらい外国の方に話すことができますか? 「日本の伝統文化とは何か?」「古来日本人を感じる美とは何か?」こういった問いに答えることができはじめて「教養がある」と言えるのでしょうか。このような教養は、特に海外の人たちの中で話す際には重要です。そこで神戸常盤大学は、普段聴くことのできないその分野の第一線で活躍されている方をお招きし、オムニバス形式で皆さんへ「スペシャルプレゼントセミナー」として提供することになりました。素晴らしい方々のお話を聞いたり、実際に自分で体験したりすることで、教養を身につけてほしいと思います。なお、8回の授業のうちいくつかについては公開講座の形をとりますので、学外の方も受講することがあります。その点、ご了解ください。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	「坐禅」～禅の文化を感じる～ ※坐禅体験料 500 円が必要です。担当者：富士荘貴【明泉寺住職】	【事前】 シラバスを読んでおくこと。坐禅について考察しておくこと。(120分) *大学の実習や演習において受講料等が発生する場合があります。 第1回の坐禅については体験料 500 円が必要です、ご承知おきください 【事後】 リフレクションをマナバ上に提出 (120分)
第2回 第7回	神戸常盤大学の教員たちが、大学生の時に聞いたかった人生についてのヒントを惜しみなく伝授していただく講座です。やりたいことをやっているとき、人は幸せです。本当に好きなことをやれば、それが仕事になり、必要な人間関係も自然と引き寄せて、幸せに、そして楽しく生きていくことができます。「やりたいこと。仕事。人生。」とはなんだろう? 大学生時代に誰もが考えることだと思いますが、学生生活を送る中で答えにたどり着ける人は、本当にわずかな割合なのかもしれません。君たちらしい、君たちだけの人生の創り方を聴きに来ませんか (担当者：未定)	【事前】 講師について下調べをしておくこと(120分) 【事後】 リフレクションをマナバ上に提出 (120分)
第8回	まとめ (担当者：谷口)	【事前】 これまでの授業内容の振り返り (120分) 【事後】 リフレクションをマナバ上に提出 (120分)

学修の到達目標	
到達目標 1	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得できる。
到達目標 2	日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができる。
到達目標 3	日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得しているだけでなく、自ら探究する中で日本の芸術文化について理解を深め、その内容が秀逸である。
	優	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得しているだけでなく、自ら探究する中で日本の芸術文化について理解を深めようとしている。
	良	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得している。
	可	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を修得しようと努力している。
	不可	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を得ようという努力が見られない。
到達目標 2	秀	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができ また授業で学んだことを超えて幅広く日本の芸術文化に対して認識を持ち、その認識が秀逸である。
	優	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができ、また授業で学んだことを超えて幅広く日本の芸術文化に対して認識を持つようになっている。
	良	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができている。
	可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えようとする姿勢が見て取れる。
	不可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えようとする姿勢が見られない。
到達目標 3	秀	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができおり、さらに今後の自らの可能な関わりについて深く考えることができている。
	優	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができおり、さらに今後の自らの可能な関わりについて若干ながら考えることができている。
	良	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができている。
	可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直す努力の過程が見て取れる。
	不可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直す努力の過程が見られない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	15	0	0	0	0	35
到達目標 2	20	15	0	0	0	0	35
到達目標 3	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	8回の授業の後にレポート試験を課します。8回の授業を通して学んだ事を踏まえ、自らの考えを述べてもらいます。
提出物	毎回の授業後、リフレクションをmanaバ上に提出してもらいます。

履修に必要な知識・技能など
各界における秀逸な方をゲストスピーカーとしてお招きします。真摯な態度で受講することはもちろん、先入観や固定観念を持たずに、真っ白で素直な心(気持ち)で講師の一手一投足に注目する姿勢を求めます。

教科書・ISBN
なし

参考書
なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
文学 (F12290)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	藪葉子
科目担当者	藪葉子							

授業の概要	日本の古典文学作品を通して、人間の生や死に対する考え方・感じ方に触れる。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	『土佐日記』の死に関する場面に注目する。親のわが子の死に対する感情に触れる。	【事前】 『土佐日記』の該当場面についての基礎知識を持つ。(120分) 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述。(120分)
第2回	『紫式部日記』の子どもの誕生に関する場面に注目する。一条天皇の皇子誕生の場面に触れる。	【事前】 『紫式部日記』の該当場面についての基礎知識を持つ。(120分) 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述。(120分)
第3回	『源氏物語』の生死に関する場面に注目する①。登場人物の死の場面に触れる。	【事前】 『源氏物語』の該当場面についての基礎知識を持つ。(120分) 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述。(120分)
第4回	『源氏物語』の生死に関する場面に注目する②。登場人物の誕生の場面に触れる。	【事前】 『源氏物語』の該当場面についての基礎知識を持つ。(120分) 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述。(120分)
第5回	『讃岐典侍日記』の死に関する場面に注目する①。病身の堀河天皇の看護の場面に触れる。	【事前】 『讃岐典侍日記』についての基礎知識を持つ。(120分) 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述。(120分)
第6回	『讃岐典侍日記』の死に関する場面に注目する②。堀河天皇の崩御の場面に触れる。	【事前】 『讃岐典侍日記』についての基礎知識を持つ。(120分) 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述。(120分)
第7回	『徒然草』の死に関する章段に注目する。作者の死に対する考え方に触れる。	【事前】 『徒然草』の該当場面についての基礎知識を持つ。(120分) 【事後】 ポートフォリオに本日の学びを記述。(120分)
第8回	人の生死に関してのディスカッションと意見の提出。	【事前】 人の生死についての考えを深めておく。(120分) 【事後】 意見の提出。(120分)

学修の到達目標	
到達目標 1	文学作品に関する知識を修得する。
到達目標 2	文学作品を自らの生活に引き付けて考え、思考をまとめることができるようになる。
到達目標 3	文学作品の内容について他者と議論し、共に理解を深めることができるようになる。
到達目標 4	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を深く理解できるようになる。
到達目標 5	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現し、自分の考えを深めることができるようになる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	文学作品に関する知識について、自身でも積極的に調べ高い知識を修得できている。
	優	文学作品に関する知識について、自身でも積極的に調べ標準的な知識を修得できている。
	良	文学作品に関する知識について、自身でも調べ基礎的な知識を修得できている。
	可	文学作品に関する知識について、授業内容を理解している。
	不可	文学作品に関する知識について、授業内容を理解していない。
到達目標 2	秀	文学作品を自らの生活に引き付けて積極的に考え、論理的に思考をまとめることができている。
	優	文学作品を自らの生活に引き付けて積極的に考え、思考をまとめることができている。
	良	文学作品を自らの生活に引き付けて考え、自分の意見を持つことができている。
	可	文学作品を自らの生活に引き付けて考えている。
	不可	文学作品を自らの生活に引き付けて考えられていない。
到達目標 3	秀	文学作品の内容について他者と積極的に議論し、共に理解を深めることができている。
	優	文学作品の内容について他者と積極的に議論し、自分の理解を深めることができている。
	良	文学作品の内容について他者と論理的な議論ができている。
	可	文学作品の内容について他者と議論ができている。
	不可	文学作品の内容について他者と議論ができている。
到達目標 4	秀	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を深く理解できている。
	優	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を理解できている。
	良	文学作品を注意深く読んでいる。
	可	文学作品の内容を理解できている。
	不可	文学作品の内容を理解できていない。
到達目標 5	秀	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現し、自分の考えを深めることができている。
	優	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現することができている。
	良	文学作品の内容について、他者に対して表現することができている。
	可	文学作品の内容について、自分の意見を持つことができている。
	不可	文学作品の内容について、自分の意見を持つことができている。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	25	0	0	25	0	100
到達目標 1	10	5	0	0	5	0	20
到達目標 2	10	5	0	0	5	0	20
到達目標 3	10	5	0	0	5	0	20
到達目標 4	10	5	0	0	5	0	20
到達目標 5	10	5	0	0	5	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。授業内容の理解とともに、自身の考えを持ち、それを文章で表現することが求められる。
提出物	課題を何度か設ける。
ポートフォリオ	各自が取り組みを自ら振り返り評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。

履修に必要な知識・技能など

積極的に文学作品に関わり、そこから学ぶ意識を持つことが求められる。

教科書・ISBN

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
日本通史 (F12300)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	片山正彦
科目担当者	片山正彦							

授業の概要	<p>皆さんが歴史を身近に感じることができる機会は、城郭や寺社・史跡を訪れたり、歴史博物館を訪れて古文書や刀・甲冑などをみたりする際ではないだろうか。当たり前と思われている歴史のできごと、人が知らないようなおもしろいエピソードも、その根拠は古文書(「史料」)に基づいている。表面的な歴史にとらわれず、古文書(「史料」)に立ち帰って研究(勉強)すれば、歴史を学ぶ面白さもわかってくるだろう。</p> <p>中世(鎌倉・室町時代)から近世(安土桃山・江戸時代)に至るまでの社会・経済・文化の中心は、畿内近国(おおむね現在の近畿地方)である。本講義では、畿内近国の中近世の日本史を古文書(「史料」)に基づいて学ぶことによって、現在の日本の社会・経済・文化とどのようなつながりがあるのか、それを踏まえて今後どのように反映させていくのか、受講者自身が主体的に考えられるような授業を目指す。また、大学の所在する兵庫県や京阪神の歴史など、地域に関連した授業内容にしたい。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	・オリエンテーション	【事前】シラバスの内容の熟読(90分) 【事後】授業内容に関わるアンケート記入(90分)
第2回	・秀吉の出自に関する諸説について	【事前】配布レジユメの熟読(120分) 【事後】講義内容についてのレポート提出(120分)
第3回	・おんな城主井伊直虎とその周囲	【事前】配布レジユメの熟読(120分) 【事後】講義内容についてのレポート提出(120分)
第4回	・筒井順慶と洞ヶ峠の「日和見」伝承	【事前】配布レジユメの熟読(120分) 【事後】講義内容についてのレポート提出(120分)
第5回	・『撰津名所図会』にみる須磨寺	【事前】配布レジユメの熟読(120分) 【事後】講義内容についてのレポート提出(120分)
第6回	・フィールドワーク—須磨寺の歴史を学ぶ— *感染症の状況・訪問先の都合などにより、フィールドワークの中止もしくは日程の変更をする場合があります。これにあわせて、授業計画・授業内容を変更する場合があります。	【事前】フィールドワーク先の事前学習(90分) 【事後】フィールドワークについてのレポート提出(90分)
第7回	・丹波篠山の基礎をつくった篠山藩主松平康重	【事前】配布レジユメの熟読(120分) 【事後】講義内容についてのレポート提出(120分)
第8回	・西国街道郡山宿と京街道枚方宿～地域の特徴を踏まえた「観光資源」の活用法～	【事前】配布レジユメの熟読(120分) 【事後】講義内容についてのレポート提出(120分)

学修の到達目標	
到達目標 1	畿内近国の中近世の日本史に関する基本的知識を修得する。
到達目標 2	畿内近国の中近世の日本史に関する専門的知識を修得する。
到達目標 3	畿内近国の中近世の日本史に関して、根拠に基づき論理的に考えることができるようになる。
到達目標 4	畿内近国の中近世の日本史に関して、その通説に対し批判的に思考することができるようになる。
到達目標 5	畿内近国の中近世の日本史に関して、自身の想いや考えを表現し、説得力のある見解を他者に伝えることができるようになる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	授業内で提示した基本的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深め、さらに歴史のあるべき姿について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示した基本的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示した基本的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示した基本的知識の修得が満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示した基本的知識の修得が満足できる水準まで修得しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標 2	秀	授業内で提示した専門的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深め、さらに歴史のあるべき姿について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示した専門的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示した専門的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示した専門的知識の修得が満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示した専門的知識の修得が満足できる水準まで修得しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標 3	秀	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められ、さらに読解で得た知識や考えを他者と共有し、そこで自らの考えを述べることができる。
	優	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められ、さらに読解で得た知識や考えを他者と共有することができる。
	良	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められる。
	可	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準まで根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められる。
	不可	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準まで根拠に基づき論理的に考えることができたことと認められない。
到達目標 4	秀	歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたことと認められ、さらにその考えを他者と共有し、そこで自らの考えを述べることができる。
	優	歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたことと認められ、さらにその考えを他者と共有することができる。
	良	歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたことと認められる。
	可	歴史の通説に対し、満足できる水準まで批判的に思考することができたことと認められる。
	不可	歴史の通説に対し、満足できる水準まで批判的に思考することができたことと認められない。
到達目標 5	秀	満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現し、説得力のある見解を他者に伝えることができたことと認められる。
	優	満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができたことと認められる。
	良	満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現することができたことと認められる。
	可	満足できる水準まで歴史に関する自身の想いや考えを表現することができたことと認められる。
	不可	満足できる水準まで歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができたことと認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	50	0	0	0	0	100
到達目標 1	10	10	0	0	0	0	20
到達目標 2	10	10	0	0	0	0	20
到達目標 3	10	10	0	0	0	0	20
到達目標 4	10	10	0	0	0	0	20
到達目標 5	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	期末に定期試験を実施し、各評価項目に基づいて、その習熟度をはかる。
提出物	講義内容についてのレポート提出を課す。ここでは、授業で学んだ基本的知識、テキストから得た知識や考え方などを活用しながら、独自性のある考え・主張を展開することが求められる。

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none"> ・畿内近国の中近世の日本史に関する基本的・専門的知識の習得、歴史を論理的に捉え、かつ批判的で独創的な思考を持って、それを他者に伝える技能。 ・現在の日本の社会・経済・文化・自身の住んでいる地域とどのようなつながりがあるのか、それを踏まえて今後どのように反映させていくのか、受講者自身が主体的に考えられるようになる技能。 <p>* 毎回配布するレジュメに基づいて講義を進めていくので、その読解の作業を継続して行うことのできる真摯な態度を持つことが求められる。</p>

教科書・ISBN
特定の教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。

参考書
『真実の戦国時代』渡邊大門編 柏書房、2015年 『井伊一族のすべて』歴史と文化の研究所編 洋泉社、2017年 『豊臣政権の東国政策と徳川氏』片山正彦 思文閣出版、2017年 『近世地域史文化史の研究』渡邊忠司監修 名著出版、2018年 『考証 明智光秀』渡邊大門編 東京堂出版、2020年 *ただし、必ずしも購入する必要はありません。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
国際社会論 (F12310)	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	濱田道夫
科目担当者	濱田道夫、内橋一恵							

授業の概要	東西冷戦の終結とともに、1990年代からグローバル化が急速に進展した。授業ではグローバル化が国際社会や地域社会にもたらした変化を概観するとともに、身近になった多文化社会をどう生きるかについて考える。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業		() ICT (manaba) 活用の自主学習支援		() ディスカッション、ディベート		() グループワーク () プレゼンテーション	
教員の実務経験	() 実習、フィールドワーク		() 課題解決型学習(外部協定 有・無)		() 反転授業		() その他 ()	
	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	グローバル化と国際社会 (担当者：濱田)	【事前】シラバスを読み授業の方向を把握する。あらかじめテキストに目を通す(120分相当) 【事後】授業内容を復習し、グローバル化の歴史と現在について理解を深める(120分相当)
第2回	グローバル化と人口移動 (担当者：濱田)	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする(120分相当) 【事後】授業内容を復習し、移民や人口移動の政治的・経済的背景について理解を深める(120分相当)
第3回	格差社会とは何か (担当者：濱田)	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする(120分相当) 【事後】授業内容を復習し、国際的に広がる格差社会の実態、中間層の縮小化とポピュリズムの台頭について理解を深める(120分相当)
第4回	国際 NGO の役割 (担当者：濱田)	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする(120分相当) 【事後】授業内容を復習し、格差問題や人道支援などで近年ますます重要性を帯びてきた国際 NGO の活動について理解を深める(120分相当)
第5回	グローバル化と地域社会 (担当者：内橋)	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする(120分相当) 【事後】グローバル化と地域社会のつながりを理解(120分相当)
第6回	多文化共生の歴史 (担当者：内橋)	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする(120分相当) 【事後】社会が多文化共生を目指すまでの流れを理解(120分相当)
第7回	文化と言語 (担当者：内橋)	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする(120分相当) 【事後】文化と言語の変遷を理解する(120分相当)

第 8 回	アイデンティティと教育 (担当者：内橋)	【事前】 配布プリントを読み不明な点をチェックする (120分相当) 【事後】 グローバル化する世界、地域、個人の関わり について理解する (120分相当)
-------	-------------------------	---

学修の到達目標	
到達目標 1	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を修得することができる。
到達目標 2	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識をもとに、論理的に考えることができる。
到達目標 3	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を十分修得し、系統的に深く理解している。
	優	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を十分修得している。
	良	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を修得している。
	可	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識をある程度修得している。
	不可	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を修得していない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、十分論理的に考えることができる。さらに新たな視点を示すなど豊かな構想力をもつ。
	優	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができ、さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者にある程度説得的に伝えることができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	100	0	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 2	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 3	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポートの提出を課す。授業で学んだ基礎知識や基本的概念をもとに、自らの意見をどれくらい論理的にまた系統的に提示できるかが試される。

履修に必要な知識・技能など

国際社会や多文化社会を理解するための入門的な授業です。授業で学ぶ基本的知識をもとに、現在進行中のグローバル化を身近な問題としてとらえたい。

教科書・ISBN

使用しない。講義内容に沿ったプリント・資料をあらかじめ配布する。

参考書

講義の際に適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
現代社会学 (F12320)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	伴仲謙欣
科目担当者	伴仲謙欣							

授業の概要	<p>普段の何気ない日常を、クリティカル(批評的)に覗いてみると全く違った景色が見える・・・という“気づき”を経験しましょう。この科目は、「現代・社会学」であると同時に「現代社会・学」です。本講義では、時事問題を取り上げ、社会学的(クリティカル)な視点から社会の出来事を自分の頭で読み解く姿勢を身につけます。そのための教材として新聞を推奨します。新聞は社会を知るためにとても有効なメディアです。講義を通して新聞を読む習慣も身につけてほしいと思います。</p> <p>授業の内容は、各自計2回の発表を行います。同じテーマを選んだ者同士でグループを作り、メンバー同士で協力して準備を進めますが、発表は個人単位とします。発表の方法は、音声データと資料ファイルの提出により manaba を介して行います(※詳細は授業計画表を参照)。</p>	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他()
教員の実務経験	—	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション(授業概要など)	【事前】・シラバスの熟読 ・関心のある新聞記事を読む(計120分) 【事後】関心のある新聞記事を読む(120分)
第2回	【第1クール】① 発表テーマ選定・チームづくり・発表準備	【事前】関心のある新聞記事を読む(120分) 【事後】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備(計120分)
第3回	【第1クール】② 発表準備	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備(計120分) 【事後】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備(計120分)
第4回	【第1クール】③ 発表	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備(計120分) 【事後】・発表のまとめと振り返り(120分)
第5回	【第2クール】① 発表テーマ選定・チームづくり・発表準備	【事前】関心のある新聞記事を読む(120分) 【事後】・関心のある新聞記事を読む(120分) ・発表準備
第6回	【第2クール】② 発表準備	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備(計120分) 【事後】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備(計120分)
第7回	【第2クール】③ 発表	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備(計120分) 【事後】・発表のまとめと振り返り(120分)
第8回	まとめ(総括と振り返り)	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・定期試験の準備(計90分) 【事後】定期試験の準備(90分)

学修の到達目標	
到達目標 1	現代社会における時事的話題について理解し、批評的、あるいは批判的な視点をもった独自の考えを論理的に説明することができる。
到達目標 2	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	現代社会における時事的話題について理解し、批評的、あるいは批判的な視点をもった独自の考えを論理的に説明ことができ、その内容が秀でている。
	優	現代社会における時事的話題について理解し、批評的、あるいは批判的な視点をもった独自の考えを論理的に説明することができる。
	良	現代社会における時事的話題について理解し、説明することができる。
	可	現代社会における時事的話題について理解しようとしている。
	不可	現代社会における時事的話題について理解することができない。
到達目標 2	秀	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができ、その成果が特に秀でている。
	優	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができ、その成果が秀でている。
	良	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができる。
	可	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めようとしている。
	不可	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	50	0	0	0	0	100
到達目標 1	50	0	0	0	0	0	50
到達目標 2	0	50	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験としてレポート試験を実施する。
提出物	成果物（発表用データや、発表を視聴したまとめ）を評価する。

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義はグループワークを行いますので、他の履修者の迷惑にならないように講義への主体的な参加姿勢や、能動的なグループ活動が求められます。 ・履修の最低条件として、日常的に新聞を読んでください（新聞名、内容は特に指定しない）。 ・受け売りの知識のひけらかしではなく、自らの頭で“考える”態度が必要です。 <p>※授業形態や内容の順序性等は、履修人数等の諸条件により変更する場合があります。</p>

教科書・ISBN

参考書
新聞。その他、必要が生じた際には適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
経済学 (F12330)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	濱田道夫
科目担当者	濱田道夫							

授業の概要	1990年代以降に急速化する経済のグローバル化は私たちの生活のさまざまな場面に影響を与えている。授業ではこのグローバル化がもたらした格差問題、気候危機などをとりあげ、資料にもとづいてわかりやすく解説するとともに、経済成長の歴史とそのあり方について考える。経済学の入門的な授業であり、履修者の身近な生活体験・実感からの意見なども授業に反映できればと思う。 あらかじめ配布するテキスト（プリント・資料）に沿って講義する。
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () ディスカッション、ディベート () グループワーク () プレゼンテーション () 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () 反転授業 () その他 ()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	資本主義経済とは何か	【事前】 シラバスの内容を把握し、講義の流れや学習のポイントを確認する。またテキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120分相当） 【事後】 授業内容を復習し、商品、市場など資本主義の基礎概念について理解を深める（120分相当）
第2回	経済のグローバル化(1)：1990年代以降	【事前】 テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120分相当） 【事後】 授業内容を復習し、グローバル化の歴史と現在について理解を深める（120分相当）
第3回	経済のグローバル化(2)：格差と貧困	【事前】 テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120分相当） 【事後】 授業内容を復習し、グローバル化がもたらす格差について理解を深める（120分相当）
第4回	経済成長とその限界	【事前】 テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120分相当） 【事後】 授業内容を復習し、経済成長とは何か、その歴史と限界について理解を深める（120分相当）
第5回	経済成長と環境問題	【事前】 テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120分相当） 【事後】 授業内容を復習し、経済成長と地球温暖化との関係について理解を深める（120分相当）
第6回	人口と経済：人口減少社会	【事前】 テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120分相当） 【事後】 授業内容を復習し、少子高齢化が経済におよぼす影響について理解を深める（120分相当）

第7回	持続可能な経済社会とは	<p>【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120分相当）</p> <p>【事後】授業内容の復習。国連の提唱するSDGs（持続可能な開発目標）などを参考に、いままぜ経済成長至上主義への反省が必要なのかについて理解を深める（120分相当）</p>
第8回	講義のまとめ：豊かさとは何か	<p>【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120分相当）</p> <p>【事後】授業内容を復習し、グローバル化のもとの経済成長のあり方と「豊かさ」の意味について理解を深める（120分相当）</p>

学修の到達目標	
到達目標1	経済学の基本的知識・概念にもとづいて、グローバル化の歴史と現在を系統的に把握できる。
到達目標2	経済成長が社会にもたらしたさまざまな問題について理解することができる。
到達目標3	論理的に叙述し、説明することができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標1	秀	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念を十分修得し、さらに系統的に深く理解している。
	優	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念を十分修得している。
	良	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念を修得している。
	可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念をある程度修得している。
	不可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念を修得していない。
到達目標2	秀	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長について十分論理的に考えることができる。さらに新たな視点を示すなど豊かな構想力をもつ。
	優	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長について十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長について論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長についてある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長について論理的に考えることができない。
到達目標3	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者にある程度説得的に伝えることができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	100	0	0	0	0	0	100
到達目標1	40	0	0	0	0	0	40
到達目標2	40	0	0	0	0	0	40
到達目標3	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポートの提出を課す。授業で学んだ基礎知識や基本的概念をもとに、自らの意見がどれくらい論理的にまた系統的に提示できるのかが試される。
提出物	授業内容の理解を深めるため、毎回の講義終了後に受講票（質問・コメント）の提出を求める。

履修に必要な知識・技能など
経済学の入門的な授業です。授業で学ぶ基本的知識をもとに、経済成長、格差、気候危機、人口減少、持続可能性など社会のあり方や変化について考える機会となればよいと思う。

教科書・ISBN
講義内容に沿ったテキスト「経済学入門」（自家製プリント）をあらかじめ配布する。

参考書
比較的平易な参考書を適宜紹介する。たとえば、橘木俊詔『新しい幸福論』、暉峻淑子『豊かさとは何か』（ともに岩波新書）など

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
組織マネジメント論 (F12233)	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	山下紗矢佳
科目担当者	山下紗矢佳							

授業の概要	<p>企業経営や組織の運営において「マネジメント」の概念は重要である。</p> <p>この授業では「マネジメント」を2つの側面からアプローチをしていく。一つは学術的アプローチである。アカデミックな理論に基づきマネジメントを理解することにつとめる。もう一つは実践的アプローチである。現実の企業経営・組織運営の場では、様々な柔軟な対応をせまられる場が多い。学術的な理解では説明のできない行動をとることがある。以上のように、理論と実践の融合から「マネジメント」について考察していくこととする。</p> <p>また組織を構成する「ヒト」に着目し、ヒトづくりの重要性とともに、ヒトづくりが組織に与える影響等について考察をする。</p> <p>なお、授業では多くの事例を検証するとともに、地域に密接に結びつく事例を多く取り上げていく。地域の経済・雇用といった側面についても理解を深められるように授業をおこなっていく。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業</p> <p>(レ) ディスカッション、ディベート</p> <p>() 実習、フィールドワーク</p> <p>() 反転授業</p> <p>(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援</p> <p>() グループワーク () プレゼンテーション</p> <p>() 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>() その他 ()</p>
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	ガイダンス	<p>【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく (120分)</p> <p>【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する (120分)</p>
第2回	戦略、組織設計	<p>【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく (120分)</p> <p>【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する (120分)</p>
第3回	組織構造の基本	<p>【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく (120分)</p> <p>【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する (120分)</p>
第4回	外部環境と内部環境	<p>【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく (120分)</p> <p>【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する (120分)</p>
第5回	組織の規模、組織文化	<p>【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく (120分)</p> <p>【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する (120分)</p>

第6回	組織とヒト	【事前】 指定された参考文献や資料などを読み、分からないよう専門用語などを調べておく (120分) 【事後】 授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する (120分)
第7回	事例検証	【事前】 指定された参考文献や資料などを読み、分からないよう専門用語などを調べておく (120分) 【事後】 授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する (120分)
第8回	まとめ	【事前】 これまでの授業を振り返り理解する。(120分) 【事後】 まとめの内容を確認し、自身の理解度をチェックする。間違っているものなどがあれば再度復習をする。(120分)

学修の到達目標

到達目標 1	現代企業に求められる「組織づくり」「ヒトづくり」について経営学の視点から考察できるようになる。
--------	---

ルーブリック

評価基準	
到達目標 1	秀 現代企業に求められる「組織づくり」「ヒトづくり」について経営学の視点から、自分の言葉で考察でき、他者に説明することができ、他者が理解できるようになる。また自身の視点で課題を見つけ出し、課題解決に結びつける言動ができるようになる。
	優 現代企業に求められる「組織づくり」について経営学の視点から、自分の言葉で考察でき、他者に説明することができ、他者が理解できるようになる。
	良 現代企業に求められる「組織づくり」について経営学の視点から、自分の言葉で考察でき、他者に説明することができる。
	可 現代企業に求められる「組織づくり」について経営学の視点から、理解できるようになる。
	不可 現代企業に求められる「組織づくり」について経営学の視点から、理解できない。

評価方法と評価項目の関係

評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	50	0	0	0	0	100
到達目標 1	50	50	0	0	0	0	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験：50%
提出物	授業中に毎回実施するレポート：50%

履修に必要な知識・技能など

学生からの意見を求めることもあるので、積極的な授業参加を期待する。
 新聞、ウェブサイトをはじめとする報道や雑誌・書籍を通して社会・経済と医療・歯科医療や保健・福祉に関わる情報に関心を持つことが望まれる。

教科書・ISBN

--

参考書

佐竹隆幸（2014）『「人」財経営のすすめ』神戸新聞総合出版センター。
その他、適宜お示しします。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
心理臨床学 (F12340)	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 必修 こども教育学科 選択必修	—	永島聡
科目担当者	永島聡							

授業の概要	医療、教育、保育、福祉等の現場における専門職を目指す学生にとって必要な心理臨床学の基本に関して、受講者とともに学修する。特にフロイト、エリクソン、フランクルの理論と技法をベースに進行する。さらに具体的にいくつかの現代心理臨床的トピックを取り上げ、受講者の理解を深めていく。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業				(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他()			
教員の実務経験	臨床心理士 / 公認心理師としてのカウンセリングや心理検査の実務経験を踏まえ、具体例を用いつつ、心理学的理論を伝える。							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「『こころ』って何なのか？」私たちは本当にこころを持っているのか？	【事前】 心理学的な文献を 1 つ以上読んでおく (120 分) 【事後】 内容と感想を 400 字程度にまとめる (120 分)
第 2 回	「『私』とは何か？」アイデンティティについて。エリクソンの理論より。	【事前】 配布物等の熟読 (120 分) 【事後】 内容と感想を 400 字程度にまとめる (120 分)
第 3 回	「青年期の課題とは？」青年期におけるアイデンティティ確立とサブカルチャー・カウンターカルチャーの役割。	【事前】 配布物等の熟読 (120 分) 【事後】 内容と感想を 400 字程度にまとめる (120 分)
第 4 回	「人間は本能的欲求を満たしたいのか？力が欲しいのか？」人生の意味とは何か。フランクルの思想より。	【事前】 配布物等の熟読 (120 分) 【事後】 内容と感想を 400 字程度にまとめる (120 分)
第 5 回	「コミュニケーションの障害について」ASD を中心に考える。	【事前】 配布物等の熟読 (120 分) 【事後】 内容と感想を 400 字程度にまとめる (120 分)
第 6 回	「LD とは？ADHD とは？障害とは何なのか？個性とは？能力とは？」発達障害について考える。	【事前】 配布物等の熟読 (120 分) 【事後】 内容と感想を 400 字程度にまとめる (120 分)
第 7 回	「LGBT/SOGI とは？」セクシュアリティの多様性について考える。	【事前】 配布物等の熟読 (120 分) 【事後】 内容と感想を 400 字程度にまとめる (120 分)
第 8 回	「結局、人間のこころとは何なのか？」授業全体についてのまとめ。	【事前】 配布物等の熟読 (120 分) 【事後】 内容と感想を 400 字程度にまとめる (120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	対人援助職としての専門性の基本を身につける
到達目標 2	多面的な思考ができるようになる
到達目標 3	受容性・共感性を理解する
到達目標 4	表現力を豊かにする

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていない。
到達目標 2	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
到達目標 3	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手を感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
到達目標 4	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいても十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 2	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 3	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 4	20	5	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を期末に manaba にて実施。ある具体的な事例等をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。内容を変更する可能性がある。80 点。
提出物	毎回授業後に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。内容を変更する可能性がある。20 点。

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none"> ・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。 ・社会情勢に興味を持ち続ける。 ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
人間関係論 (F12350)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	永島聡
科目担当者	永島聡							

授業の概要	人間関係を保つには、まず相手を知らなければならぬであろうし、そのためには自分自身を知らなければならぬだろう。しかしそもそも相手を知る、自分を知るとはどのようなことなのか？この授業においては、心理学的な他者理解および自己理解について、主にクライアント中心療法や精神分析の観点から、受講者とともに考えてゆく。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他()					
教員の実務経験	臨床心理士 / 公認心理師としてのカウンセリングや心理検査の実務経験を踏まえ、具体例を用いつつ、心理学的理論を伝える。							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	「こころって何なのか？」私たちは本当にこころを持っているのか？	【事前】心理学の文献を1つ以上読んでおく(120分) 【事後】内容と感想を400字程度にまとめる(120分)
第2回	「こころの構造はどうなっているのか？」意識と無意識について。	【事前】配布物等の熟読(120分) 【事後】内容と感想を400字程度にまとめる(120分)
第3回	「自分のこころを表現してみる」芸術作品の意味について。	【事前】配布物等の熟読(120分) 【事後】内容と感想を400字程度にまとめる
第4回	「他者のこころを支えるには？」非指示的であることの大切さについて。	【事前】配布物等の熟読(120分) 【事後】内容と感想を400字程度にまとめる(120分)
第5回	「他者のこころを支えるには？」傾聴することの大切さについて。	【事前】配布物等の熟読(120分) 【事後】内容と感想を400字程度にまとめる(120分)
第6回	「受容することと共感すること」他者を尊重し受け入れることについて。	【事前】配布物等の熟読(120分) 【事後】内容と感想を400字程度にまとめる(120分)
第7回	「受容することと共感すること」他者を共感するとはどのようなことなのか？	【事前】配布物等の熟読(120分) 【事後】内容と感想を400字程度にまとめる(120分)
第8回	「結局、自己や他者を理解できたのか？そもそも理解できるのか？」授業全体のまとめ。	【事前】配布物等の熟読(120分) 【事後】内容と感想を150～200字程度にまとめる(120分)

学修の到達目標	
到達目標1	対人援助職としての専門性の基本を身につける
到達目標2	多面的な思考ができるようになる
到達目標3	受容性・共感性を理解する
到達目標4	表現力を豊かにする

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていない。
到達目標 2	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
到達目標 3	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手を感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
到達目標 4	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいても十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 2	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 3	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 4	20	5	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を期末に manaba にて実施。ある具体的な事例等をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。内容を変更する可能性がある。80 点。
提出物	毎回授業後に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。内容を変更する可能性がある。20 点。

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none"> ・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。 ・社会情勢に興味を持ち続ける。 ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
教育と人間 (F12360)	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	光成研一郎
科目担当者	光成研一郎、関本雅子、伴仲謙欣、足立了平							

授業の概要	教育活動には人間存在の中に潜在的に隠れているものを引き出し、発展させるという目的がある。同様に医療活動にも患者の中に存在するものを引き出し、心身ともに健康な状態に導いていくという目的がある。それゆえに医療の現場で実践を行う上で、教育の理論と方法について学ぶ意義は大きい。本講義では「いのちの大切さを伝える」という具体的事例を通して、教育に関する基礎知識や教育方法について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション —生と死について— (担当者：光成)	【事前】シラバスの熟読 (60分) 【事後】レポート作成 (120分)
第2回	阪神・淡路大震災の教訓 (担当者：光成、ゲストスピーカー)	【事前】阪神・淡路大震災について調べておく (120分) 【事後】レポート作成 (120分)
第3回	災害といのち (担当者：足立)	【事前】災害について調べておく (120分) 【事後】レポート作成 (120分)
第4回	終末医療とホスピスケア (担当者：関本)	【事前】終末医療について調べておく (120分) 【事後】レポート作成 (120分)
第5回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために— 教育内容の検討 グループワーク— (担当者：光成・伴仲)	【事前】教育内容の検討 (120分) 【事後】教育内容の振り返り (120分)
第6回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために— 教育方法の検討 グループワーク— (担当者：光成・伴仲)	【事前】教育方法の検討 (120分) 【事後】教育方法の振り返り (120分)
第7回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために— 教育実践の検討 グループワーク— (担当者：光成・伴仲)	【事前】教育方法の検討 (120分) 【事後】教育方法の振り返り (120分)
第8回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために— 発表と評価— (担当者：光成・伴仲)	【事前】発表準備 (120分) 【事後】これまでの学修内容を振り返る (60分)

学修の到達目標	
到達目標1	教育に関する理論や方法を修得し、それらについて説明することができる。
到達目標2	教育学的見地から「いのち」について議論することができる。
到達目標3	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さを伝えることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	教育に関する理論や方法を修得し、わかりやすく説明することができる。
	優	教育に関する理論や方法を修得し、説明することができる。
	良	教育に関する理論や方法を修得し、伝えることができる。
	可	教育に関する理論や方法を修得している。
	不可	教育に関する理論や方法を修得していない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのち」について他者と議論し、自分と異なる意見にも耳を傾け、共に理解を深め、その内容について共に提案することができる。
	優	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのち」について他者と議論し、自分と異なる意見にも耳を傾け、共に理解を深めることができる。
	良	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのち」について他者と議論することができる。
	可	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができる。
	不可	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができない。
到達目標 3	秀	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者が理解できるようにわかりやすく伝えることができる。
	優	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者が理解できるように伝えることができる。
	良	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現することができる。
	可	教育学的見地から「いのち」について理解している。
	不可	教育学的見地から「いのち」について理解していない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	20	0	0	20	100
到達目標 1	40	20	0	0	0	0	60
到達目標 2	0	0	0	0	0	20	20
到達目標 3	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。(再試験は実施しない)
提出物	第1回～第4回のレポート (各5×4)
成果発表 (口頭・実技)	成果発表において、「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者に伝えることができているかを評価する。
その他	ピア評価および教員評価に基づいて、他者と適切に議論できていたかどうか、傾聴力と対話力の評価を行う。

履修に必要な知識・技能など
ほぼ毎時間、課題を出すので、学修に対して意欲的な学生が受講するようにしてください。また授業の後半は学科混合のグループワークが主となるので、学科や専門性を越えて、他者と協力し、自分の役割や責任を全うできる態度が求められます。

教科書・ISBN

使用しない。適宜紹介する。

参考書

使用しない。適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
災害とまちづくり (F13020)	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	室崎友輔
科目担当者	室崎友輔、森永速男							

授業の概要	近年、地震や豪雨などの自然災害が頻発している中、南海トラフ地震発生 of 切迫性が高まってきている。私たち人間は、自然現象を止めることはできない。しかし防災・減災という視点から、それらによる被害(生命や財産へのダメージ)を少なくすることは可能である。この授業では、阪神・淡路大震災や東日本大震災などから得た教訓から、災害を受け入れる(「知る」・「理解する」・「考える」姿勢)を学び、日々の暮らしのなかで、私たち一人ひとりが高く意識しなければならない「防災」や「減災」、そして「まちづくり」について、様々な角度から学修する。							
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業		() ICT (manaba) 活用の自主学習支援		(レ) ディスカッション、ディベート		(レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション	
教員の実務経験	(レ) 実習、フィールドワーク		() 課題解決型学習(外部協定 有・無)		() 反転授業		() その他()	
	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	ガイダンス、阪神・淡路大震災の被害について	【事前】災害とは何かを調べる(100分) 【事後】本日の授業の整理(120分)
第2回	東日本大震災の被害、豪雨災害被害について	【事前】過去の災害を調べる(100分) 【事後】本日の授業の整理(120分)
第3回	災害の応急対応期、復旧・復興期を知る	【事前】災害からの復旧・復興について調べる(100分) 【事後】本日の授業の整理(120分)
第4回	長田の復興を考える①	【事前】長田の復興について調べる(100分) 【事後】本日の授業の整理(120分)
第5回	長田の復興を考える②(フィールドワーク)	【事前】長田の復興について考える(100分) 【事後】本日の授業の整理(120分)
第6回	災害に強いまちづくりを考える①	【事前】災害に強いまちづくりとは何かを調べる(100分) 【事後】本日の授業の整理(120分)
第7回	災害に強いまちづくりを考える②(グループワーク)	【事前】災害に強いまちづくりとは何かを考える(100分) 【事後】本日の授業の整理(120分)
第8回	災害に強いまちづくりを考える③(発表)	【事前】発表の準備(100分) 【事後】授業内容を振り返り、総括する(120分)

学修の到達目標	
到達目標1	災害を知り、災害を理解している。
到達目標2	災害を考えることができる。
到達目標3	日常的に減災について具体的な取り組みを考えることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	災害について、必要な知識を満足できる水準を超えて理解し身につけている。
	優	災害について、必要な知識を十分満足できる水準まで理解している。
	良	災害について、必要な知識を満足できる水準まで理解している。
	可	災害について、必要最低限の知識は理解している。
	不可	災害について、必要最低限の知識を理解していない。
到達目標 2	秀	災害時における問題点や課題について、満足できる水準を超えて理解し具体的に考えることができる。
	優	災害時における問題点や課題について、十分満足できる水準まで理解し具体的に考えることができる。
	良	災害時における問題点や課題について、満足できる水準まで理解し具体的に考えることができる。
	可	災害時における問題点や課題について、必要最低限理解し考えることができる。
	不可	災害時における問題点や課題について、理解することができない。
到達目標 3	秀	防災・減災の意味を理解し、満足できる水準を超えて具体的な取組みを考えることができる。
	優	防災・減災の意味を理解し、十分満足できる水準まで具体的な取組みを考えることができる。
	良	防災・減災の意味を理解し、満足できる水準まで具体的な取組みを考えることができる。
	可	防災・減災の意味を理解し、必要最低限の具体的な取組みを考えることができる。
	不可	防災・減災の意味を理解することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	45	25	0	0	0	100
到達目標 1	5	15	5	0	0	0	25
到達目標 2	10	15	10	0	0	0	35
到達目標 3	15	15	10	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	防災まちづくりについてレポート試験を実施する
提出物	授業中または授業後に提出課題を課すことがある
成果発表 (口頭・実技)	グループでプレゼンテーションを行う機会を設ける

履修に必要な知識・技能など
“自ら”災害・防災・減災を「知る・理解する・考える」という態度。グループワークでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標	
到達目標 1	多文化共生のための異文化理解について、自分の考えを述べることができる
到達目標 2	多文化共生のために、異文化の多様性への理解を示すことができる

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	他者の意見を踏まえて自分の考えを述べており、その内容にひときわの説得性がある。
	優	他者の意見を踏まえて自分の考えを述べており、その内容に説得性がある。
	良	他者の意見を踏まえて自分の考えを述べている。
	可	他者の意見を踏まえることなく自分の考えを述べている。
	不可	自分の考えを述べるができない。
到達目標 2	秀	異文化の多様性への理解が一通り示されており、その中にひときわの独自性が見いだせる。
	優	異文化の多様性への理解が一通り示されており、その中に独自性が見いだせる。
	良	異文化の多様性への理解が一通り示されている。
	可	異文化の多様性への理解が部分的に示されている。
	不可	異文化の多様性への理解を示すができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	0	40	0	0	0	0	40
到達目標 2	60	0	0	0	0	0	60

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	レポート

履修に必要な知識・技能など
海外に行くことに興味のある人、また、異なる文化を理解することで成長したいと思っている人に履修してもらいたい科目です。

教科書・ISBN
適宜、教材・資料等は配布する。

参考書

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
科学技術論 (F12366)	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	鈴木高史
科目担当者	鈴木高史、濱田道夫、高久圭二							

授業の概要	我々は日進月歩の科学文明の真ただ中にいるが、科学とは何であろうか？また、科学（技術）は今後どのように進歩していくのであろうか。「これから」を知るためには、「これまで」を理解することが不可欠である。そこで本授業ではまずアリストテレスの自然観から科学革命、産業革命に至る科学史を俯瞰する。次に演繹法と帰納法、反証可能性、パラダイムシフトなどの科学哲学の理解を進める。また科学と国家・地域の関係を考察する。さらに現代科学の主要トピックスを様々な観点から光と影の両面から理解する。これらを通して、受講者が科学についての理解を深め、今後の科学（技術）が発展する方向などを自ら考える力を身につけることを本授業の目的とする。							
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業		<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()					
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	イントロダクション、科学の歴史紹介 (担当者：鈴木)	【事前】 科学史における主要な出来事として思いつづものを各自で3つ選択し、それらがいつ頃の出来事であったかを調べる (120分相当) 【事後】 授業内容(科学の歴史紹介)の復習 (120分相当)
第2回	科学史概説・科学革命 (担当者：濱田)	【事前】 授業内容に示した「科学革命」(17世紀)の項目について各自で調べる (120分相当) 【事後】 授業内容(科学史概説・科学革命)の復習 (120分相当)
第3回	科学哲学(学問の方法・科学と宗教の違い) (担当者：濱田)	【事前】 授業内容に示した「科学哲学」について、ヨーロッパ近代における合理主義の形成、自然と人間との分離を軸に各自で調べる (120分相当) 【事後】 授業内容(科学哲学(学問の方法・科学と宗教の違い))の復習 (120分相当)
第4回	社会の中の科学 (担当者：濱田)	【事前】 授業内容に示した科学と社会との関係について、人類の進歩、社会の発展とは何かを念頭に置きながら各自で調べる (120分相当) 【事後】 授業内容(社会の中の科学)の復習 (120分相当)
第5回	現代科学の主要トピックス(工学的観点から)：産業革命からオートメーションへ、交通や通信の発達から経済活動へ、資源の枯渇から公害と地球温暖化問題 (担当者：高久)	【事前】 授業内容に示した「産業革命からオートメーションへ、交通や通信の発達から経済活動へ、資源の枯渇から公害と地球温暖化問題」の項目について各自で調べる (120分相当) 【事後】 授業内容(現代科学の主要トピックス(工学的観点から))の復習 (120分相当)

第 6 回	現代科学の主要トピックス（情報学的観点から）：ロボット技術から AI へ、情報革命から情報戦争へ、コンピューターウイルスからハッカーへ (担当者：)	【事前】授業内容に示した「ロボット技術から AI へ、情報革命から情報戦争へ、コンピューターウイルスからハッカーへ」の項目について各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（現代科学の主要トピックス（情報学的観点から））の復習（120 分相当）
第 7 回	現代科学の主要トピックス（物理学的観点から）：核開発、放射線、核兵器と科学者の社会的責任、マルサスの人口論とローマレポート、核のゴミなど科学技術と未来の人類への責任 (担当者：高久)	【事前】授業内容に示した「核開発、放射線、核兵器と科学者の社会的責任、マルサスの人口論とローマレポート、核のゴミなど科学技術と未来の人類への責任」の項目について各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（現代科学の主要トピックス（物理学的観点から））の復習（120 分相当）
第 8 回	現代科学の主要トピックス（生物学的・医学的観点から）：遺伝子組換え作物、遺伝子治療 (担当者：鈴木)	【事前】授業内容に示した「遺伝子組換え作物、遺伝子治療」の項目について各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（現代科学の主要トピックス（生物学的・医学的観点から））の復習（120 分相当）

学修の到達目標	
到達目標 1	科学の歴史的背景、科学に関連する思想・哲学について理解する。
到達目標 2	様々な資料を自ら探索し、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを自分で考えることができる。
到達目標 3	論理的に正しく、また理解しやすい文章を書くことができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	科学の歴史的背景と科学に関連する思想・哲学について、いずれも非常に高いレベルで理解できている。
	優	科学の歴史的背景と科学に関連する思想・哲学についていずれも高いレベルで理解できている。
	良	科学の歴史的背景と科学に関連する思想・哲学についていずれも理解できている。
	可	科学の歴史的背景、もしくは科学に関連する思想・哲学のいずれかについて理解できている。
	不可	科学の歴史的背景、科学に関連する思想・哲学のいずれも理解できていない。
到達目標 2	秀	様々な資料を自ら探索することができ、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを主体的且つ独創的に考えることができている。
	優	様々な資料を自ら探索することができ、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを主体的に考えることができている。
	良	様々な資料を自ら探索することができ、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを一定程度主体的に考えることができている。
	可	様々な資料を自ら探索することはできるが、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを主体的に考えることはできていない。
	不可	様々な資料を自ら探索すること、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを主体的に考えること、いずれもできていない。
到達目標 3	秀	論理的に正しく、また理解しやすい文章を書く能力を高いレベルで身につけている。
	優	論理的に正しく、また理解しやすい文章を書く能力を身につけている。
	良	論理的に正しく、また理解しやすい文章を書く能力を一定程度、身につけている。
	可	論理的に正しく書く能力、もしくは理解しやすい文章を書く能力のいずれかを身につけている。
	不可	論理的に正しく書く能力、理解しやすい文章を書く能力のいずれも身につけていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	100	0	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 2	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 3	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。

履修に必要な知識・技能など
この授業では難しい数式は基本的に使いません。人間社会における「科学」に興味があれば受講可能です。シラバスの内容は変更になる場合があります。

教科書・ISBN
適宜、教材・資料等は配布する。

参考書
遺伝子医療革命 フランシス・S・コリンズ著 矢野真知子訳 NHK 出版 誤解だらけの遺伝子組み換え作物 小島正美著 エネルギーフォーラム 科学史年表 増補版 小山慶太著 中央公論社 科学とはなにか：新しい科学論、いま必要な三つの視点 佐倉 統著 講談社（ブルーバックス）

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
地域との協働A (F13000)	演習	1	30	1	通年	医療検査学科 選択 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	大城亜水
科目担当者	大城亜水、尾崎優子、紀ノ岡浩美、伴仲謙欣							

授業の概要	この科目は、「1人ひとりが地域社会の一員として、どのように生活し、さまざまな課題にどう向き合い、協力し合ってどう解決し、より暮らしやすく活力のあるまちづくりに取り組むか」をテーマとします。具体的には、初回のガイダンス時に説明する内容を基に社会・地域活動について、座学と実際の体験を通して学びます。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他()					
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	ガイダンス(授業説明) (担当者:大城、伴仲)	【事前】シラバスに目を通し、授業の流れ、学修の到達目標等を把握する(90分) 【事後】今後の授業に向けての抱負について、自分が可能だと思う役割を明確にする(90分)
第2回	大学生の社会・地域活動①(「サービスマナー(仮)」について考える) (担当者:紀ノ岡、尾崎)	【事前】事後学修(第1回)の要約を指定場所に提出(90分) 【事後】授業中に出された課題に取り組む(90分)
第3回	大学生の社会・地域活動②(「神戸常盤大学と地域活動(仮)」をテーマにこれまで本学が取り組んできた活動内容などを紹介) (担当者:大城、伴仲)	【事前】事後学修(第2回)の要約を指定場所に提出(90分) 【事後】授業中に出された課題に取り組む(90分)
第4回 ～ 第13回	神戸常盤大生の社会・地域活動実践(社会・地域活動のニーズ調査、社会・地域活動体験など) (担当者:大城、伴仲)	【事前】希望する活動のアポ取りを行い、日時・場所、活動内容等を指定場所に報告 【事後】活動報告書を指定場所に提出
第14回	神戸常盤大生の社会・地域活動まとめ(社会・地域活動体験の振り返り) (担当者:大城、伴仲)	【事前】各自の活動体験がサービスマナーとどのようなつながるかについて見解を述べ、指定場所に提出(90分) 【事後】ふりかえり(第14回)を指定場所に提出(90分)
第15回	学修の到達目標の確認(学修の振り返りと共有) (担当者:大城、伴仲)	【事前】今まで行った授業・活動内容を振り返っておく(90分) 【事後】最終試験課題のレポートに向けて、事前学修の内容をまとめる(90分)

学修の到達目標	
到達目標1	各活動を通して、自分に課せられた役割を全うし、他者に貢献する。
到達目標2	与えられた課題や報連相を滞ることなく遂行している。
到達目標3	ただ与えられた指示に従うだけでなく、自己の経験を振り返りながら課題の本質を見極めるようになる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。またそれゆえその実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移っていきやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたいのかわからない。
到達目標 2	秀	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	可	他者からの助言や指導のもと、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	不可	心身や生活態度等の自己管理ができない。
到達目標 3	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	40	0	0	0	20	100
到達目標 1	0	0	0	0	0	20	20
到達目標 2	0	40	0	0	0	0	40
到達目標 3	40	0	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。
提出物	予習、授業後のまとめや小レポート、実践活動報告等を評価対象とする。
その他	正課内におけるグループワークや課題について、正課内の学修内容の範囲に留まらず、自発的に課題を発見し、掘り下げて研究するなど主体的・能動的に取り組んでいたかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
履修上の注意として、以下の点に十分留意しながら受講するようにして下さい。 ①本科目は通年科目である。 ②必ず2つの活動(2回ないし2日)に参加すること。(※実践活動は、活動時の社会情勢や準備状況等により大幅に変更となる可能性あり) ③本科目の特質上、時間割外での活動(土日含む)がある。

教科書・ISBN

使用しません。

参考書

随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
コミュニティデザイン (F13030)	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 教育学部 選択	—	室崎友輔
科目担当者	室崎友輔、西修、藤岡健							

授業の概要	“シャッター通り”化した商店街、少子高齢化の影響などで活力を失いつつある地域組織、隣人とも挨拶をしないマンションコミュニティ、現代の地域は、これまでになかった多くの課題を抱えている。そんな今、人と人との繋がりをデザインし、地域の課題を解決していける人材が求められている。本授業では、具体的な事例からコミュニティデザインの基本を学ぶとともに、課題を通してデザインシンキングの方法を学修する。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他()					
教員の実務経験	—							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーションコミュニティデザインとは？ (担当者：室崎)	【事前】シラバスの確認 (30分) 【事後】コミュニティデザインに関する知識の整理 (30分)
第2回	コミュニティデザインの事例～デザイン都市・神戸①～ (担当者：藤岡、室崎) フィールドワークの実践・リサーチシートの作成	【事前】デザイン都市・神戸について下調べ (30分) 【事後】感想文の作成・提出 (30分)
第3回	コミュニティデザインの事例～デザイン都市・神戸②～ (担当者：藤岡、室崎) フィールドワークの実践・リサーチシートの作成	【事前】デザイン都市・神戸について下調べ (30分) 【事後】感想文の作成・提出 (30分)
第4回	コミュニティデザインの実践1 グループワーク① (発表準備) (担当者：室崎)	【事前】コミュニティデザインに関する知識の再確認 (30分) 【事後】中間発表の準備 (30分)
第5回	コミュニティデザインの実践1 グループワーク② (発表準備) (担当者：室崎)	【事前】コミュニティデザインに関する知識の再確認 (30分) 【事後】中間発表の準備 (30分)
第6回	コミュニティデザインの事例～デザイン都市・神戸③～ (担当者：西、室崎) フィールドワークの実践・リサーチシートの作成	【事前】デザイン都市・神戸について下調べ (30分) 【事後】感想文の作成・提出 (30分)
第7回	コミュニティデザインの事例～デザイン都市・神戸④～ (担当者：西、室崎) フィールドワークの実践・リサーチシートの作成	【事前】デザイン都市・神戸について下調べ (30分) 【事後】感想文の作成・提出 (30分)
第8回	コミュニティデザインの実践1 グループワーク① (発表準備) (担当者：室崎)	【事前】コミュニティデザインに関する知識の再確認 (30分) 【事後】中間発表の準備 (30分)
第9回	コミュニティデザインの実践1 グループワーク② (発表準備) (担当者：室崎)	【事前】コミュニティデザインに関する知識の再確認 (30分) 【事後】中間発表の準備 (30分)
第10回	コミュニティデザインの実践2 グループワーク・中間発表① (担当者：室崎)	【事前】中間発表の準備 (30分) 【事後】アイデアシートの作成 (30分)

第 11 回	コミュニティデザインの実践 2 グループワーク・中間発表② (担当者：室崎)	【事前】中間発表の準備 (30 分) 【事後】アイデアシートの作成 (30 分)
第 12 回	コミュニティデザインの実践 3 グループワーク (改善) ① (担当者：室崎)	【事前】プレゼンの準備 (30 分) 【事後】プレゼンの準備 (30 分)
第 13 回	コミュニティデザインの実践 3 グループワーク (改善) ② (担当者：室崎)	【事前】プレゼンの準備 (30 分) 【事後】プレゼンの準備 (30 分)
第 14 回	コミュニティデザインの実践 4- ① 成果発表・レポート課題発表 (担当者：室崎、中田、高松)	【事前】プレゼンの準備・確認 (30 分) 【事後】レポートの作成・提出 (30 分)
第 15 回	コミュニティデザインの実践 4- ② 成果発表・レポート課題発表 (担当者：室崎)	【事前】プレゼンの準備・確認 (30 分) 【事後】レポートの作成・提出 (30 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
到達目標 2	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
到達目標 3	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
到達目標 4	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
到達目標 5	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、解決策をデザインすることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっている。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
到達目標 4	秀	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてさらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。

到達目標 5	秀	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。さらにその解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。
	良	ある程度自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	他者から促されても、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	30	0	0	0	100
到達目標 1	5	5	5	0	0	0	15
到達目標 2	5	5	5	0	0	0	15
到達目標 3	5	5	5	0	0	0	15
到達目標 4	10	5	5	0	0	0	20
到達目標 5	10	5	5	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験はレポート試験とする。課題に対するリサーチ結果と課題解決方法および授業全体の振り返りをレポート。
提出物	事例紹介(2回)の感想文を課す。話を聞いて感じたこと、気づいたことを記載する。グループワークの進行に合わせて、フィールドワークシート・リサーチシート・アイデアシートの作成を課す。
成果発表 (口頭・実技)	ワークショップを通じて考えた内容をプレゼンする機会を設ける。

履修に必要な知識・技能など
ワークショップでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
適宜紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

MEMO

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
全身の健康と口腔科学 (T12000)	講義	1	15	1	後期	必修	—	八木孝和
科目担当者	八木孝和、吉田幸恵							

授業の概要	<p>本講義では「健康とは何か」という命題をもとに、『健康』を科学的にとらえ、健康の維持・増進に関わる課題を学習し、自分なりの『健康観』を考えることを主眼としています。肉体的、精神的な医学上の健康という概念だけでなく、社会的な側面をも包含する『健康』という言葉の持つ多様性を学ぶことで命と人格を尊重し、社会に貢献できる一人の医療人としての基盤を創りましょう。</p> <p>そのために本講義では、歯科衛生士を目指すうえで必要な臨床知識を習得するために下記内容について「できる」ことを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身の「健康観」が説明できる。 2. 生活習慣病等の口腔とのかかわりが強い全身疾患について概説できる。
アクティブ・ラーニングの要素	<p>() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援</p> <p>() ディスカッション、ディベート (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション</p> <p>() 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>(レ) 反転授業 () その他 ()</p>
教員の実務経験	<p><歯科医師>、<歯科衛生士></p> <p>当該科目は、医療現場等において歯科医師並びに歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	私の健康観①概論 －医学における健康の維持・増進とは (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (120分) 【事後】まとめを作成すること (120分)
第2回	私の健康観②－歯科衛生士として健康と向き合うために －栄養摂取の重要性について知る (担当者：吉田)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】レポート作成 (120分)
第3回	歯科衛生士として知っておくべき疾病① －生活習慣病、メタボリックシンドローム (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第4回	歯科衛生士として知っておくべき疾病② －高血圧症 (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第5回	歯科衛生士として知っておくべき疾病③ －糖尿病 (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第6回	歯科衛生士として知っておくべき疾病④ －虚血性心疾患 (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第7回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑤ －脳血管疾患 (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)

第 8 回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑥ －たばこ病（喫煙病） (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第 9 回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑦ －がん (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第 10 回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑧ －統合失調症・うつ病 (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第 11 回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑨ －認知症 (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第 12 回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑩ －高次機能障害 (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第 13 回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑪ －摂食嚥下障害 (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第 14 回	歯科衛生士として知っておくべき疾病⑫ －フレイル（今後の医療の動向） (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)
第 15 回	「健康とは？」まとめ－自分自身の健康観を考える (担当者：八木)	【事前】manaba 上の事前配布資料を読んでおくこと (60分) 【事後】受講後に出される課題内容の小レポートを作成すること (120分)

学修の到達目標

到達目標 1	各専門職の実務遂行に必要な知識を身につけている（専門力）
到達目標 2	各専門職の実務遂行に必要な基礎知識をもとに論理的に考えることができる（論理的思考力）
到達目標 3	学ぶこと・知ることの楽しさと喜びを覚えることができる。（知欲）

ルーブリック

評価基準	
到達目標 1	秀 口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優 口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を高いレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良 口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可 口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可 口腔保健に関する専門基礎領域についての知識を身につけていない。

到達目標 2	秀	口腔保健に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	口腔保健に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	口腔保健に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき一定のレベルであるが論理的に考えることができる
	可	口腔保健に関する専門基礎領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	口腔保健に関する専門基礎領域について論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修できることができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつなげられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて愉しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに愉しさと喜びを覚えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	30	30	0	0	10	100
到達目標 1	10	10	10	0	0	0	30
到達目標 2	10	10	10	0	0	0	30
到達目標 3	10	10	10	0	0	10	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	本講義内で得た知識の確認を評価
提出物	レポートの提出内容（探求心と整理能力）を評価
成果発表 (口頭・実技)	グループ学習における発表を評価
その他	受講態度・積極的な質問

履修に必要な知識・技能など
小グループディスカッションを中心に行うため、欠席するとチームへの影響が大きいことを理解しておくこと。各回の講義内容は事前に配布資料やそのテーマに関する事項について調べておくこと。

教科書・ISBN
授業中に適宜資料を配布する。

参考書
『4 疾病のオーラルマネジメント』足立了平 編集 金芳堂 『知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療－歯科医療につながる医学知識－』小谷順一郎 編 永末書店 『一歩進んだ口腔ケア』足立了平 編集 金芳堂

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
人体の構造と機能 (T12010)	講義	4	60	1	前期	必修	—	八木孝和
科目担当者	八木孝和							

授業の概要	<p>本講義は、歯科臨床に必要な人体の正常な形態、構造、機能、発生を理解すること、また口腔に関する正常な形態、構造、機能、発生を理解することを目的とします。全身の人体解剖学を学ぶことはすべての医学・歯学を学ぶ上で最も重要な基礎となります。近年、口腔を中心に携わる歯科医療においても、全身の健康を担う観点から全身の構造と機能に関する知識を必ず習得しておく必要があります。</p> <p>全身の構造と機能について概要がつかめましたら、2年時に専門となる口腔領域の構造と機能について理解を進めます。2年次には、実際の人体解剖を見てもらうこととなりますので、しっかりと全体把握をするようにしましょう。</p> <p>教科書・参考図書は指定していますが、ある程度を目安として予習しておくことをお勧めします。講義は、知識習得型であるため、授業中の私語は厳禁ですが、分からないことに関しては積極的な質問を期待しています。</p>
アクティブ・ラーニングの要素	<p>() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援</p> <p>() ディスカッション、ディベート (レ) グループワーク () プレゼンテーション</p> <p>() 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>(レ) 反転授業 () その他 ()</p>
教員の実務経験	<p>〈歯科医師〉 当該科目は、医療現場等において歯科医師の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。</p>

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	解剖学総論	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと(60分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題(小レポート、小テスト等)を作成し、指定する期限までに提出すること(期限は厳守)(120分)</p>
第2回	組織学概論	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと(60分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題(小レポート、小テスト等)を作成し、指定する期限までに提出すること(期限は厳守)(120分)</p>
第3回	発生学概論(1)細胞	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと(60分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題(小レポート、小テスト等)を作成し、指定する期限までに提出すること(期限は厳守)(120分)</p>

第 4 回	発生学概論 (2) ヒトの発生	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 5 回	骨格系 (1) 骨の構造	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 6 回	骨格系 (2) 体幹骨	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 7 回	骨格系 (3) 上肢・下肢	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 8 回	筋と運動 (1) 筋の構造	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 9 回	筋と運動 (2) 運動の調節機構	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 10 回	筋と運動 (3) 反射・運動と脳	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 11 回	消化・吸収 (1) 構造	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>

第 12 回	消化・吸収 (2) 機能	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 13 回	循環 (1) 体循環	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 14 回	循環 (2) 心臓	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 15 回	循環 (3) 血管・血圧	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 16 回	循環 (4) 血液	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 17 回	神経系 (1) 概論	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 18 回	神経系 (2) 中枢神経	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 19 回	神経系 (3) 末梢神経	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>

第 20 回	神経系 (4) 自律神経系	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 21 回	神経系 (5) 神経機能	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (1 時間)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (2 時間)</p>
第 22 回	呼吸 (1) 肺の構造	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 23 回	呼吸 (2) 呼吸の調節	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 24 回	感覚 (1) 概論・活動電位	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 25 回	感覚 (2) 特殊感覚	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 26 回	排泄 (1) 構造	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 27 回	排泄 (2) 神経機構	<p>【事前】 テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】 受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>

第 28 回	体温	<p>【事前】テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 29 回	内分泌	<p>【事前】テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>
第 30 回	生殖器	<p>【事前】テキストの指定範囲・manaba 配布物を事前に熟読し、用語や事項を下調べしておくこと (60 分)</p> <p>【事後】受講後に学習したことをノートにまとめること。授業後に示される課題 (小レポート、小テスト等) を作成し、指定する期限までに提出すること (期限は厳守) (120 分)</p>

学修の到達目標	
到達目標 1	人体の構造と機能の基本的な知識を身につけている。
到達目標 2	人体の各構造と機能的な連携について論理的に考えることができる。
到達目標 3	主体的に学ぶこと・知ることの楽しさと喜びを覚えることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	人体解剖学・生理学・発生学に関する専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	人体解剖学・生理学・発生学に関する専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	人体解剖学・生理学・発生学に関する専門領域についての知識を一定レベルで身につけている。
	可	人体解剖学・生理学・発生学に関する専門領域についての知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	人体解剖学・生理学・発生学に関する専門領域についての知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	人体の構造を機能に結び付けて客観的な根拠に基づき非常に高いレベルで論理的に考えることができる。
	優	人体の構造を機能に結び付けて客観的な根拠に基づき高いレベルで論理的に考えることができる。
	良	人体の構造を機能に結び付けて客観的な根拠に基づき一定のレベルで論理的に考えることができる。
	可	人体の構造を機能に結び付けて客観的な根拠に基づき最低限のレベルではあるが論理的に考えることができる。
	不可	人体の構造を機能に結び付けて客観的な根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修ことができ、学習における楽しさと喜びや達成感を得ることができ、更にその経験を踏まえて、新たな学習に繋げられる。
	優	自発的に学修でき、学習における楽しさと喜びや達成感を得ることができる。
	良	ある程度、自発的に学修でき、学習における楽しさと喜びや達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学習することができ、達成感を得ることができる。
	不可	他者から促されても学習する意欲がなく、達成感を得ることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	0	0	10	100
到達目標 1	30	30	0	0	0	0	60
到達目標 2	20	10	0	0	0	10	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	どの程度の知識を得ているのか、理解力は達成しているのかを評価
提出物	まとめノート、課題に対する、意欲・完成度・論理的考察力を評価
その他	受講態度（積極性、オンライン上での参加程度、課題の提出状況）を評価

履修に必要な知識・技能など
<p>歯科医学を学ぶ基本となるため、新しい用語がたくさん出てきます。これから「命」を大切にする職業に就くのだという自覚をもって、チーム医療の基本となる共通の専門用語の理解に努めなければなりません。そのため、本講義では、予習ならびに図などを記載したまとめノートを作成することを必須とします。予習・復習に掲げた時間は、基本的に中学高校での国語力・理科力を有していると思われる学生を想定しています。漢字が分からない、中高で習っているはずの用語の意味が分からないといった学生は、想定時間以上に学習することが望まれます。</p>

教科書・ISBN
9784263426043 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学

参考書
① 『口腔顎顔面解剖ノート』井出吉信 監修 学研書院 ② 歯科衛生士書き込み式学習ノート①：専門基礎科目編 第2版 人体の構造と機能／歯・口腔の構造と機能／疾病の成り立ち及び回復過程の促進 医歯薬出版 ③ 第4版 イラストでわかる歯科医学の基礎 永末書店

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

第 15 回	IV編 1 章 食生活と健康・2 章 食べ物と健康 (担当者：川野)	【事前】教科書の該当範囲の予習 (120 分) 【事後】小テストまたはまとめの作成等 (120 分)
--------	---------------------------------------	---

学修の到達目標	
到達目標 1	人体の構造と機能に関する基本知識を身につけ、生命を維持するために重要な栄養素および代謝について理解する。
到達目標 2	生化学や栄養学で学んだ知識や考え方を口腔の健康と関連付けて、専門職としての役割を考えることができる。
到達目標 3	講義で得た知識を自身の行動や思考に取り入れて、さらなる新しい価値観を創造していくことができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	人体の栄養と代謝に関する知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	人体の栄養と代謝に関する知識を高いレベルで身につけている。
	良	人体の栄養と代謝に関する知識を一定のレベルで身につけている。
	可	人体の栄養と代謝に関する知識を身につけているが十分ではない。
	不可	人体の栄養と代謝に関する知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	生化学や栄養学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するために何が 필요한のか自らを振り返り、努力することができる。
	優	生化学や栄養学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するために努力することができる。
	良	生化学や栄養学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するためにある程度努力することができる。
	可	生化学や栄養学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するために努力することができるが十分ではない。
	不可	生化学や栄養学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するために努力することができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて愉しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに愉しさと喜びを覚えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	0	0	10	100
到達目標 1	40	10	0	0	0	0	50
到達目標 2	10	20	0	0	0	0	30
到達目標 3	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	小テストやまとめなどの提出
その他	受講態度・積極的な発言

履修に必要な知識・技能など

予め教科書に目を通しておくことが望まれる。
自分が必要と思うことは必ずノートに書くこと。
講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する可能性がある。

教科書・ISBN

9784263428191 『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と代謝』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書

『口腔生化学 第6版』 早川太郎 須田立雄 監修 医歯薬出版
『イラストでわかる歯科医学の基礎 (第3版)』 淵端孟 他監修 永末書店

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
微生物学・免疫学 (T12060)	講義	2	30	1	後期	必修	—	山城圭介
科目担当者	山城圭介、川野亜希							

授業の概要	歯科の二大疾患であるう蝕と歯周病は、病原微生物による感染症である。私たちがとりまく病原微生物と、それらに対する生体防御機構をはじめとするヒトの免疫制御機構について解説する。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()
教員の実務経験	〈歯科医師〉、〈歯科衛生士〉 当該科目は、医療現場等において歯科医師並びに歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	微生物と感染症 (担当者：山城)	【事前】シラバスに目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第2回	微生物の病原性：細菌感染症 1 (担当者：山城)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第3回	微生物の病原性：細菌感染症 2 (担当者：山城)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第4回	微生物の病原性：細菌感染症 3 (担当者：山城)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第5回	微生物の病原性：ウイルス感染症 1 (担当者：山城)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第6回	微生物の病原性：ウイルス感染症 2、その他の感染症 (担当者：山城)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第7回	免疫機構：免疫学総論 (担当者：山城)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第8回	免疫機構：自然免疫と獲得免疫 (担当者：川野)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第9回	免疫機構：アレルギー (担当者：山城)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第10回	口腔微生物の種類と生態 (担当者：山城)	【事前】予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)

第 11 回	う蝕と口腔微生物 (担当者：山城)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)
第 12 回	歯周病原細菌 (担当者：山城)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)
第 13 回	歯周病の病原因子と宿主因子 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)
第 14 回	口腔感染症と抗菌薬 (担当者：山城)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)
第 15 回	感染症の予防、消毒滅菌 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	微生物の病原性と生体防御機構に関する知識を身に着ける。
到達目標 2	微生物学・免疫学で身に着けた知識をもとに、歯科医学的観点から疾病の成り立ちを理解する。
到達目標 3	講義で得た知識を積極的に自身の行動や思考に取り入れて、専門職としての役割を見出すことができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	微生物学・免疫学の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	微生物学・免疫学の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	微生物学・免疫学の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	微生物学・免疫学の専門領域についての知識を身につけているが十分でない。
	不可	微生物学・免疫学の専門領域についての知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	微生物学・免疫学の専門領域について十分理解し、歯科疾患の成り立ちを根拠に基づき論理的に考えることができる。
	優	微生物学・免疫学の専門領域について理解し、歯科疾患の成り立ちを根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	微生物学・免疫学の専門領域についてある程度理解し、歯科疾患の成り立ちを根拠に基づき考えることができる。
	可	微生物学・免疫学の専門領域についてある程度理解しているが、歯科疾患の成り立ちを根拠に基づき考えることができない。
	不可	微生物学・免疫学の専門領域について理解しておらず、歯科疾患の成り立ちを根拠に基づき考えることができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を活かして、専門職の役割を考えることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができるが、そこに愉しさと喜びを見出すことができない。
	不可	学修が十分でなく、愉しさと喜びを覚えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	0	0	0	0	30	100
到達目標 1	60	0	0	0	0	0	60
到達目標 2	10	0	0	0	0	10	20
到達目標 3	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
その他	受講態度・積極的な質問

履修に必要な知識・技能など
<p>予め教科書に目を通しておくことが望まれる。私語は厳禁。 自分が必要と思うことは必ずノートに書くこと。 講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する。</p>

教科書・ISBN
9784263428146 「最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書
なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
口腔衛生学 (T12130)	講義	2	30	1	前期	必修	—	山城圭介
科目担当者	山城圭介、川野亜希							

授業の概要	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みを理解する。健康を左右する環境について理解し、地域保健活動のあり方と、他職種と歯科衛生士との関わりについて理解を深める。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク (レ) 反転授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()					
教員の実務経験	〈歯科医師〉、〈歯科衛生士〉 当該科目は、医療現場等において歯科医師並びに歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	I編 健康を左右する環境 (1) (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第2回	I編 健康を左右する環境 (2) (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第3回	II編 歯・口腔の健康と予防 1章 総論 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第4回	II編 2章 口腔清掃 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第5回	II編 3,4章 歯科疾患の疫学・う蝕の予防 (担当者：山城)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第6回	II編 5章 フッ化物によるう蝕予防 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第7回	II編 6章 歯周疾患の予防 (担当者：山城)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第8回	II編 7章 その他の疾患・異常の予防 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第9回	II編 8章 ライフステージごとの口腔保健管理 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)
第10回	III編 健康に関わる地域の役割 1章 地域保健・公衆衛生 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120分)

第 11 回	Ⅲ編 2 章 母子保健 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)
第 12 回	Ⅲ編 3 章 学校保健 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)
第 13 回	Ⅲ編 4,5 章 成人保健・産業保健 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)
第 14 回	Ⅲ編 6,7 章 老人保健・精神保健 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読すること (120 分)
第 15 回	Ⅲ編 8,9 章 災害時の歯科保健・国際保健 (担当者：川野)	【事前】 予め教科書に目を通すこと (120 分) 【事後】 全ての講義ノート教科書の該当部を再読すること (120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	社会歯科学に属する口腔衛生学の基礎知識を身につけ、人間をとりまく自然的・社会的環境要因と健康との関係性を理解する。
到達目標 2	口腔衛生学で身につけた知識をもとに、専門分野との関連性を見出して、専門職としての役割を考えることができる。
到達目標 3	講義で得た知識を自己に取り入れて、疾病予防と健康増進について多面的に考え行動できる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	口腔衛生学の専門領域について知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	口腔衛生学の専門領域について知識を高いレベルで身につけている。
	良	口腔衛生学の専門領域について知識を一定のレベルで身につけている。
	可	口腔衛生学の専門領域について知識を身につけているが十分でない。
	不可	口腔衛生学の専門領域について知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	口腔衛生学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するために何が必要なのか自らを振り返り、努力することができる。
	優	口腔衛生学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するために努力することができる。
	良	口腔衛生学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するためにある程度努力することができる。
	可	口腔衛生学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するために度努力することができるが十分ではない。
	不可	口腔衛生学で学んだ知識を踏まえて、専門性が求められる職業でよりよい自分を実現するために努力することができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	0	0	0	0	30	100
到達目標 1	60	0	0	0	0	0	60
到達目標 2	10	0	0	0	0	10	20
到達目標 3	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
その他	受講態度・積極的な質問

履修に必要な知識・技能など
<p>予め教科書に目を通しておくことが望まれる。 自分が必要と思うことは必ずノートに書くこと。 講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する可能性がある。</p>

教科書・ISBN
9784263428627 『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書
適宜提示

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
歯科衛生士論 I (T13000)	講義	1	15	1	前期	必修	—	吉田幸恵
科目担当者	吉田幸恵、村田良子							

授業の概要	本講義では歯科衛生士と歯科衛生業務について鳥瞰的に理解することを目標とします。 具体的には、自らが目指そうとしている歯科衛生士という職業について、教育課程や業務の歴史の変遷、就業の現状、歯科衛生士に対する社会のニーズ、歯科衛生士の持つべき資質等を学びます。さらに、歯科衛生士が誕生した米国における歯科衛生士事情を学び、日本の歯科衛生士の理解を深めます。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業				(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()			
教員の実務経験	〈歯科衛生士〉 当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。 日本と米国の歯科衛生士免許を有し、現在米国加州で歯科衛生士として業務を行なっている(村田)							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科衛生士法と歯科衛生士業務について (担当者: 吉田)	【事前】日本の歯科衛生士誕生について調べる(90分) 【事後】歯科衛生士法における歯科衛生士の目的と業務について復習する(90分)
第2回	歯科衛生士の業務について (担当者: 吉田)	【事前】歯科衛生士の主たる業務(歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導)について教科書および参考書・資料を読む(90分) 【事後】歯科衛生士業務のうち、業務独占、名称独占について理解する(90分)
第3回	歯科衛生士業務と歯科衛生士教育の歴史について (担当者: 吉田)	【事前】日本における歯科衛生士教育機関の都道府県別の数とそれぞれの教育年数について調べる(90分) 【事後】歯科衛生士業務と歯科衛生士教育課程の変遷をまとめる(90分)
第4回	社会における歯科衛生士の役割1 - 医療場面における役割 - (担当者: 吉田)	【事前】歯科診療所、病院における歯科衛生士の役割を調べる(90分) 【事後】歯科診療所、病院における具体的な歯科衛生士の業務をまとめる(90分)
第5回	社会における歯科衛生士の役割2 - 保健・福祉の場面における役割 - (担当者: 吉田)	【事前】保健所・保健センター、学校、高齢者施設における歯科衛生士の役割を調べる(90分) 【事後】保健所・保健センター、学校、高齢者施設における具体的な歯科衛生士の業務をまとめる(90分)
第6回	アメリカの歯科衛生士教育と業務 (担当者: 村田)	【事前】アメリカにおける歯科衛生士誕生の歴史を調べる(90分) 【事後】アメリカと日本の歯科衛生士業務について比較する(90分)
第7回	日本の歯科衛生士の現状について (担当者: 吉田)	【事前】日本の歯科衛生士の就業者数の10年間の推移を調べる(90分) 【事後】日本歯科衛生士会が実施した歯科衛生士調査を確認する(90分)

第 8 回	歯科衛生士業務の展開に必要な基本項目 (担当者：吉田)	【事前】教科書の第 6 章を読む (60 分) 【事後】授業内容を復習する (120 分)
-------	-----------------------------	--

学修の到達目標	
到達目標 1	歯科衛生士の業務と教育の歴史について説明できる。
到達目標 2	保健、医療、福祉の場面における歯科衛生士の役割を理解できる。
到達目標 3	日本の歯科衛生士の現状を学び課題を考えることができる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	歯科衛生士の業務と教育の歴史について十分な知識を有し的確に説明できる。
	優	歯科衛生士の業務と教育の歴史についての知識を有し概ね説明できる。
	良	歯科衛生士の業務と教育の歴史について知識を有している。
	可	歯科衛生士の業務と教育の歴史についての知識が十分でない。
	不可	歯科衛生士の業務と教育の歴史について知識を有していない。
到達目標 2	秀	保健、医療、福祉の場面における歯科衛生士の役割を十分に理解できる。
	優	保健、医療、福祉の場面における歯科衛生士の役割を理解できる。
	良	保健、医療の場面における歯科衛生士の役割を理解できる。
	可	保健、医療の場面における歯科衛生士の役割を理解できているが不十分である。
	不可	保健、医療の場面における歯科衛生士の役割を理解できていない。
到達目標 3	秀	日本の歯科衛生士の現状を多角的に捉え、広い視野で自ら課題を抽出することができる。
	優	日本の歯科衛生士の現状を捉え、自ら課題を抽出できる。
	良	日本の歯科衛生士の現状を学び、課題を考える事ができる。
	可	日本の歯科衛生士の現状を学び、誘導されて課題を考えることができる。
	不可	日本の歯科衛生士の現状を学ぶだけになっている。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 2	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 3	20	20	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	課題レポート

履修に必要な知識・技能など
目指す専門職の理解に繋がるので、興味を持って意欲的に授業に参加して下さい。

教科書・ISBN
9784263428108 最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書

「デンタルハイジーン」「歯科衛生士」「DH スタイル」等の商業雑誌や学术论文などを授業の進行に合わせて指定します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標	
到達目標 1	歯科衛生士法にある歯科診療補助の意義について理解する。
到達目標 2	歯科診療補助業務を安全に実施するために必要な専門知識を身に付ける。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	歯科衛生士法にある歯科診療補助の意義について十分なレベルで理解しており、専門職業人としての高い倫理観を身に付けている
	優	歯科衛生士法にある歯科診療補助の意義について十分なレベルで理解しており、専門職業人としての倫理観を身に付けている
	良	歯科衛生士法にある歯科診療補助の意義について理解しており、専門職業人として倫理観を身に付けている
	可	歯科衛生士法にある歯科診療補助の意義について理解している
	不可	歯科衛生士法にある歯科診療補助の意義について理解できていない
到達目標 2	秀	歯科診療補助業務を安全に実施するために必要な専門知識を能動的・積極的な姿勢で学習し、十分なレベルで身に付けている
	優	歯科診療補助業務を安全に実施するために必要な専門知識を能動的な姿勢で学習し、十分なレベルで身に付けている
	良	歯科診療補助業務を安全に実施するために必要な専門知識を身に付けており、十分なレベルに達している
	可	歯科診療補助業務を安全に実施するために必要な専門知識を身に付けている
	不可	歯科診療補助業務を安全に実施するために必要な知識が身に付いていない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	10	0	0	0	10	100
到達目標 1	20	5	0	0	0	5	30
到達目標 2	60	5	0	0	0	5	70

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	・授業後のレポート ・自主学习ノート
その他	授業前もしくは授業後に実施する小テスト（実施の時期は授業中に連絡します）

履修に必要な知識・技能など
歯科衛生士の3大業務の一つである歯科診療補助の基本を学習する科目です。歯科診療の補助業務実践の基礎となる科目ですのでしっかりと学習してください。

教科書・ISBN		
9784263428405	最新歯科衛生士教本	歯科診療補助論 第2版
9784263428511	最新歯科衛生士教本	歯科材料
9784263428504	最新歯科衛生士教本	歯科機器

参考書
適宜紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標	
到達目標 1	安全な歯科予防処置や診療補助を行うために、以下の内容について“できる”の習得を目指す。 1. 必要な歯科材料の取り扱い（保存・保管、安全、使用法、後片付け）について説明できる。
到達目標 2	2. 模型用材料、合着・接着材・仮着用材料、印章用材料について種類と基本的性質が説明できる。
到達目標 3	3. 歯冠修復用材料、義歯用材料、インプラント用材料、ワックスについて、種類と基本的性質が説明できる。
到達目標 4	4. 新規の歯科材料や歯科治療法に対しても対応できる知識と態度を身に着ける。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	当該専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	歯科材料に関する専門基礎領域についての知識を身につけているが十分ではない。
到達目標 2	秀	歯科材料に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	歯科材料に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	歯科材料に関する専門基礎領域について客観的な根拠に基づき一定のレベルであるが論理的に考えることができる
	可	歯科材料に関する専門基礎領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	歯科材料に関する専門基礎領域について論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修できることができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	優	さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	良	自発的に学修できることができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	ある程度自発的に学修できることができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	不可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
到達目標 4	秀	新規の歯科材料や歯科治療法に対しても対応できる知識と態度を非常に高いレベルで身につけている。
	優	新規の歯科材料や歯科治療法に対しても対応できる知識と態度を高いレベルで身につけている。
	良	新規の歯科材料や歯科治療法に対しても対応できる知識と態度を一定のレベルで身につけている。
	可	新規の歯科材料や歯科治療法に対しても対応できる知識と態度を身につけているが十分でない。
	不可	新規の歯科材料や歯科治療法に対しても対応できる知識と態度を身につけていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	0	0	10	100
到達目標 1	40	10	0	0	0	0	50
到達目標 2	10	20	0	0	0	0	30
到達目標 3	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	まとめなどのレポートの提出：まとめレポートは出席者のみ点数として評価します。
その他	受講態度・積極的な発言

履修に必要な知識・技能など

私語は厳禁。予め教科書に目を通しておくことが望まれます。私語は厳禁ですが、質問は歓迎します。(自分がわからないことは周囲の人もわかっていないことが多いです。質問をすることで、自分だけでなく全員の理解が深まります。)
臨床内容に直結するため、前回の授業だけでなく、関連の臨床分野も見ておくと後で大変役立ちます。
自分が必要と思うことは必ずノートに書くこと。講義の進行状況・理解度により本シラバスの内容は適宜変更する可能性があります。

教科書・ISBN

9784816013850 『イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第4版』竹澤保政 監修 渡邊美里 編集 永末書店

参考書

『最新歯科衛生士教本 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

『最新歯科衛生士教本 器材学』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
歯科理工学演習 (T13140)	演習	1	30	1	後期	必修	—	森谷徳文
科目担当者	森谷徳文、氏橋貴子、川野亜希							

授業の概要	「歯科理工学」で学修した基礎的理論を実践力として身に付けるため、主要歯科材料である「合着・接着セメント」「アルジネート印象材」「歯科用ワックス」の取り扱いについて基礎的技術力を修得する。医療従事者としての歯科衛生士の役割を理解し、患者対応、共同動作を踏まえた主要歯科材料の取り扱いを学修する。							
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援		() ディスカッション、ディベート		(レ) グループワーク () プレゼンテーション	
教員の実務経験	(レ) 実習、フィールドワーク		() 課題解決型学習(外部協定 有・無)		() 反転授業		() その他 ()	
	〈歯科医師〉、〈歯科衛生士〉 当該科目は、医療現場等において歯科医師並びに歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	導入 (担当者：森谷、氏橋、川野)	【事前】シラバスの確認、「歯科理工学」授業の振り返り(30分) 【事後】授業内容の確認(30分)
第2回	合着・接着セメント、修復材の基礎知識と取り扱い (担当者：氏橋、森谷、川野)	【事前】教本「歯科診療補助論」P222-235、教本「歯科材料」P72-89を読んで、合着・接着セメントを理解しておく 教本「歯科診療補助論」P236-239、教本「歯科材料」P90-95を読んで、成形歯冠修復材について理解しておく(60分) 【事後】実習後レポートを作成し提出する(60分)
第3回	仮着材・仮封材の基礎知識と取り扱い (担当者：氏橋、森谷、川野)	【事前】教本「歯科診療補助論」P240-250、教本「歯科材料」P108-119、125-127を読んで、仮着材・仮封材について理解しておく(60分) 【事後】実習後レポートを作成し提出する(60分)
第4回	アルジネート印象材基礎知識とアルジネート印象材練和(基本操作) (担当者：氏橋、森谷、川野)	【事前】教本「歯科診療補助論」P192-194、197-199、教本「歯科材料」P43-48を読んで、アルジネート印象材について理解しておく(60分) 【事後】実習後レポートを作成し提出する(60分)
第5回	アルジネート印象材練和 寒天印象材、シリコーンゴム印象材の取り扱い (担当者：氏橋、森谷、川野)	【事前】教本「歯科診療補助論」P203-208、教本「歯科材料」P108-119、48-53を読んで、寒天印象材、シリコーンゴム印象材について理解しておく(60分) 【事後】実習後レポートを作成し提出する(60分)
第6回	印象採得(マネキン実習) 歯科用石膏の基礎知識と取り扱い (担当者：氏橋、森谷、川野)	【事前】教本「歯科診療補助論」P195-202を読んで、印象採得の手順について理解しておく 教本「歯科診療補助論」P214-221、教本「歯科材料」P59-71を読んで、歯科用石膏について理解しておく(60分) 【事後】実習後レポートを作成し提出する(60分)

第7回	印象採得（相互実習） 歯科用ワックスの取り扱い (担当者：氏橋、森谷、川野)	【事前】教本「歯科診療補助論」P195-202を読んで、印象採得の手順、嘔吐反射に対する対応について理解しておく 教本「歯科診療補助論」P251-253、教本「歯科材料」P128-134を読んで、歯科用ワックスの取り扱いについて理解しておく（60分） 【事後】実習後レポートを作成し提出する（60分）
第8回	科目別評価・まとめ (担当者：氏橋、森谷、川野)	【事前】これまでに学修した主要歯科材料の取り扱いについて復習する（60分） 【事後】演習・講義内容の復習（60分）

学修の到達目標	
到達目標1	主要歯科材料の取り扱いについて、基礎的な知識・技術を身につけている
到達目標2	主要歯科材料の取り扱いについて、学ぶこと・知ることの楽しさと喜びを覚えることができる
到達目標3	演習で得た学びや多様な考え方を自己の行動や思考と関連させ、新しい価値観を創造していくことができる

ルーブリック		
評価基準		
到達目標1	秀	主要歯科材料の取り扱いに関する知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	主要歯科材料の取り扱いに関する知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。
	良	主要歯科材料の取り扱いに関する知識・技術を身につけていて、少なくとも一方について十分なレベルを身につけている。
	可	主要歯科材料の取り扱いに関する知識・技術を身につけている。
	不可	主要歯科材料の取り扱いに関する知識・技術を身につけていない。
到達目標2	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらに、矛盾点や問題点に気づき、その問題を解決するために多角的に解決の糸口を見つけることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他社からの指摘により楽しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識修得に楽しさを見出すことができない。
到達目標3	秀	演習で得た学びや多様な考え方について、自身の行動や思考を客観的に検証し、さらなる新しい価値観を創造し、望ましい行動につなげることができる。
	優	演習で得た学びや多様な考え方について、自身の行動や思考を客観的に検証し、望ましい行動につなげることができる。
	良	演習で得た学びや多様な考え方について、ある程度自身の行動や思考を客観的に検証し、次につなげることができる。
	可	演習で得た学びや多様な考え方について、他者からの助言のもと、次につなげることができる。
	不可	演習で得た学びや多様な考え方について、次につなげることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	10	20	0	0	0	100
到達目標1	70	0	10	0	0	0	80
到達目標2	0	10	0	0	0	0	10
到達目標3	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	演習で修得した知識や技術に対するレポートや提出状況
成果発表 (口頭・実技)	授業中に行う口頭試問、実技試験

履修に必要な知識・技能など
「歯科理工学」をよく復習しておいてください。

教科書・ISBN
9784263428405 『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
9784263428511 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
9784816013850 『第4版 イラストと写真でわかる 歯科材料の基礎』永末書店

参考書

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

学修の到達目標	
到達目標 1	歯科診療の補助を実践するために必要な基本的な知識と技術を身に付けている
到達目標 2	歯科診療における歯科衛生士が果たすべき役割について理解して、専門職としての責任ある行動がとれる

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	歯科診療の補助を実践するために必要な基本的な知識と技術を非常に高いレベルで身に付けている。
	優	歯科診療の補助を実践するために必要な基本的な知識と技術を高いレベルで身に付けている。
	良	歯科診療の補助を実践するために必要な基本的な知識と技術を一定のレベルで身に付けている。
	可	歯科診療の補助を実践するために必要な基本的な知識と技術を概ね身に付けている。
	不可	歯科診療の補助を実践するために必要な基本的な知識と技術を身に付けていない。
到達目標 2	秀	歯科診療における歯科衛生士が果たすべき役割について十分に理解して、非常に高いレベルで専門職としての責任ある行動がとれる
	優	歯科診療における歯科衛生士が果たすべき役割について十分に理解して、高いレベルで専門職としての責任ある行動がとれる
	良	歯科診療における歯科衛生士が果たすべき役割について理解して、一定のレベルで専門職としての責任ある行動がとれる
	可	歯科診療における歯科衛生士が果たすべき役割について理解して、概ね専門職としての責任ある行動がとれる
	不可	歯科診療における歯科衛生士が果たすべき役割について理解しておらず、専門職としての責任ある行動がとれない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	85	15	0	0	0	0	100
到達目標 1	85	0	0	0	0	0	85
到達目標 2	0	15	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	・授業後のレポート (10点) ・自主学習ノート (5点)

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士の3大業務の一つである歯科診療の補助の基本を学習する科目です。今後の実習の基盤となるのでしっかりと学習してください。 ・医療従事者としてふさわしい態度と身だしなみで受講してください。 ・体調管理には十分留意して、欠席することなく受講できるようにしましょう。

教科書・ISBN
9784263428405 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版
9784263428511 最新歯科衛生士教本 歯科材料
9784263428504 最新歯科衛生士教本 歯科機器

参考書
随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
歯科予防処置論 (T13300)	講義	1	15	1	後期	必修	—	高橋由希子
科目担当者	高橋由希子、破魔幸枝							

授業の概要	<p>歯科予防処置は歯科衛生士業務の根源となる科目であり、対象者を全人的にとらえることが重要である。</p> <p>歯周疾患の病因・病態を歯科衛生の観点でとらえ、宿主・病因・環境の相互作用を理論的に学習する。歯科衛生過程を展開するために必要な探究力とアセスメント能力を高め、実践できる理論を学習する。</p>							
アクティブ・ラーニングの要素	<p>(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援</p> <p>(レ) ディスカッション、ディベート () グループワーク () プレゼンテーション</p> <p>() 実習、フィールドワーク (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・無)</p> <p>() 反転授業 () その他 ()</p>							
教員の実務経験	<p>〈歯科衛生士〉</p> <p>当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。</p>							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科予防処置の法的位置づけ (担当者：高橋)	<p>【事前】シラバス「歯科予防処置論」を読み、学習内容を確認する(30分)</p> <p>【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の概要の問題を行い提出する(90分)</p>
第2回	歯・口腔の健康状態の把握1(歯式を含む) (担当者：破魔)	<p>【事前】う蝕治療における歯科衛生士の役割とう蝕の予防のレベルを表にまとめる(60分)</p> <p>【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯・口腔の健康状態の問題を行い提出する(60分)</p>
第3回	歯・口腔の健康状態の把握2 (担当者：破魔)	<p>【事前】「プラーク」と「歯石」の違いについて教科書で確認する(60分)</p> <p>【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯・口腔の健康状態の問題を行い提出する(60分)</p>
第4回	プラークコントロール (担当者：高橋)	<p>【事前】プラークコントロールの意味を考察する(60分)</p> <p>【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」う蝕予防、歯周病予防とプラークコントロールの問題を行い提出する(60分)</p>
第5回	う蝕に対する歯科衛生アセスメント (担当者：破魔)	<p>【事前】う蝕活動性試験について熟読する(60分)</p> <p>【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論のう蝕予防処置の基礎知識及び評価と計画の問題を行い提出する(60分)</p>
第6回	フッ化物応用によるう蝕予防 (担当者：破魔)	<p>【事前】フッ化物洗口法、歯磨剤の応用、フッ化物歯面塗布法を熟読する(60分)</p> <p>【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論のう蝕予防処置のフッ化物歯面塗布の問題を行い提出する(60分)</p>

第7回	小窩裂溝填塞法 (担当者：破魔)	【事前】小窩裂溝とは何か、予防的填塞とは何かについて熟読する(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論のう蝕予防処置の小窩裂溝填塞の問題を行い提出する(60分)
第8回	う蝕予防法におけるメンテナンス (担当者：破魔)	【事前】う蝕予防・歯周病予防の観察ポイントについて考える(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論のう蝕予防処置のフッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤およびメンテナンスの問題を行い提出する(60分)
第9回	歯周疾患予防の基礎知識 (担当者：高橋)	【事前】歯周治療における歯科衛生士の役割と歯周病の予防のレベルを表にまとめる(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯周病予防処置の基礎知識の問題を行い提出する(60分)
第10回	歯周治療の進め方 (担当者：高橋)	【事前】歯周病の病因について考察する(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯周病予防処置の歯・歯周組織の検査の問題を行い提出する(60分)
第11回	歯周治療の流れ・歯周組織検査 (担当者：高橋)	【事前】教科書の歯周治療の流れを熟読する(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯周病予防処置の歯・歯周組織の検査の問題を行い提出する(60分)
第12回	歯周基本治療について (担当者：高橋)	【事前】歯周基本治療内容について列挙する(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯周病予防処置の歯・歯周組織の検査及び計画の問題を行い提出する(60分)
第13回	スケーリング・ルートプレーニング (担当者：高橋)	【事前】スケーリング、ルートプレーニングとは何か考察する(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯周病予防処置のスケーリング・ルートプレーニングの問題を行い提出する(60分)
第14回	歯面清掃・歯面研磨・PMTC (担当者：破魔)	【事前】歯面清掃・歯面研磨とは何か考察する(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯周病予防処置の歯面清掃・研磨の問題を行い提出する(60分) シャープニングの動画視聴を行う(30分)
第15回	メンテナンスとサポータティブペリオドンタルセラピー (担当者：高橋)	【事前】メンテナンス、サポータティブペリオドンタルセラピーの用語の意味、および内容を事前に学習する(60分) 【事後】「年度別歯科衛生士国家試験問題集」歯科予防処置論の歯周病予防処置のメンテナンスの問題を行い提出する(60分)

学修の到達目標

到達目標1	歯科予防処置の基礎的な知識を身につけている。
到達目標2	口腔組織の健康像を理解する。
到達目標3	う蝕のメカニズムとう蝕予防法を説明できる。
到達目標4	フッ化物の効果と応用、安全性について説明できる。
到達目標5	歯科衛生士が行う歯周疾患予防を理解する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	必要な歯科予防処置の知識を確実に身につけている。
	優	必要な歯科予防処置の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	必要な歯科予防処置の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	必要な歯科予防処置の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	必要な歯科予防処置の知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	健康な口腔組織の必要性や知識習得に楽しさを覚えることができる。
	優	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により楽しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に楽しさを見出すことができない。
到達目標 3	秀	う蝕のメカニズムとう蝕予防の種類を論理的に考えることができる。
	優	客観的な根拠に基づき、う蝕のメカニズムとう蝕予防の種類を十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき、う蝕のメカニズムとう蝕予防の種類論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くても、う蝕のメカニズムとう蝕予防の種類をある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 4	秀	講義で得た情報を整理・分析した上で、フッ化物の効果を説明できる。
	優	講義で得た情報を整理・分析した上で、さらに自発的な情報収集を行い、フッ化物の効果を理解することができる。
	良	講義で得た情報を整理・分析し、フッ化物の効果を理解することができる。
	可	講義で得た情報を整理・分析しているが、十分ではなく、フッ化物の効果の理解度が低い。
	不可	講義で得た情報が十分に整理・分析されていない。
到達目標 5	秀	歯周病の原因を理解した上で、歯科衛生士の役割を理解することができる。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	35	15	0	0	50	0	100
到達目標 1	10	5	0	0	10	0	25
到達目標 2	10	5	0	0	10	0	25
到達目標 3	5	0	0	0	10	0	15
到達目標 4	5	5	0	0	10	0	20
到達目標 5	5	0	0	0	10	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施する。 試験は教科書と事後学習資料から出題し、講義過程において知識が修得できているかを確認する。
提出物	必要に応じて小テストを行う。

ポートフォリオ	講義終了後に、指示する課題に対しレポート提出を行う。 主体的・能動的に取り組んだ内容については、加点の評価対象となる。
---------	--

履修に必要な知識・技能など
口腔疾患予防のための基本的な知識を習得する科目であり、3年まで継続する演習の基礎となる。 事前に教科書と講義資料を読み、講義後は復習問題を行う。また、知識の確認のための小テストを予定している。

教科書・ISBN
9784263428634 「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
9784263428399 「最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
9784263422410 「歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版」医歯薬出版
9784263428627 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」全国歯科衛生士教育協議 監修 医歯薬出版
9784263420928 「徹底分析 年度別歯科衛生士国家試験問題集 2022年版」歯科衛生士国試問題研究会編集 医歯薬出版

参考書
「最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
歯科予防処置演習 I (T13310)	演習	1	30	1	後期	必修	—	破魔幸枝
科目担当者	破魔幸枝、水村容子、川野亜希							

授業の概要	歯科衛生士としての歯科予防処置の知識を踏まえ、口腔疾患予防における歯科衛生士の果たす役割を学修する。歯科予防処置の基礎的な知識と技術を修得し、相互実習においては患者への対応法の修得を互いに学び合う姿勢で学修を深めていく。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援		(レ) グループワーク () プレゼンテーション			
	(レ) ディスカッション、ディベート		(レ) 課題解決型学習(外部協定 有・ 無)				() その他 ()	
	(レ) 実習、フィールドワーク							
	(レ) 反転授業							
教員の実務経験	〈歯科衛生士〉 当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 予防的歯石除去に必要な器具の基礎知識 (担当者:破魔) デンタルシミュレーション(マネキン)実習の操作 (担当者:破魔・水村・川野)	【事前】シラバスを読み、授業の概要、授業内容、学修の目標を理解する(30分) 【事後】歯科予防処置に必要な器具・デンタルシミュレーション(マネキン)について理解してレポート提出する(90分)
第2回	デンタルシミュレーション(マネキン)実習 (担当者:破魔・水村・川野) ポジショニング・器具の操作方法	【事前】「口腔内の付着物・沈着物」「歯科衛生介入のための歯科予防処置・スクレーピング」を熟読する(60分) 【事後】ポジショニング・器具の操作方法について理解してレポート提出する(60分)
第3回	口腔内診査マネキン実習 (担当者:破魔・水村・川野)	【事前】「口腔内の付着物・沈着物」「患者への配慮」について熟読する(60分) 【事後】口腔内診査マネキン実習で修得した技術について考察してレポート提出する(60分)
第4回	口腔内診査相互実習(術者) (担当者:破魔・水村・川野)	【事前】口腔内診査の術式について理解する(60分) 【事後】口腔内診査の術式(術者の観点)について考察してレポート提出する(60分)
第5回	口腔内診査相互実習(患者) (担当者:破魔・水村・川野)	【事前】口腔内診査の術式、患者への配慮について理解する(60分) 【事後】口腔内診査の術式(患者の観点)、患者への配慮について考察してレポート提出する(60分)
第6回	フッ化洗口法・フッ化物歯面塗布法マネキン実習 (担当者:破魔・水村・川野)	【事前】「フッ化物の応用」を熟読する(60分) 【事後】フッ化物洗口法、フッ化物歯面塗布法、フッ化物配合歯磨剤を理解してレポート提出する(60分)
第7回	フッ化物歯面塗布法相互実習 (担当者:破魔・水村・川野)	【事前】フッ化物歯面塗布法の術式を理解する(60分) 【事後】フッ化物歯面塗布法の術式について考察してレポート提出する(60分)

第 8 回	う蝕活動性試験 実習 (担当者：破魔・水村・川野)	<p>【事前】「う蝕活動性試験」を熟読し、評価方法の種類と特徴を理解する (60 分)</p> <p>【事後】う蝕活動性試験の評価結果に基づく予防について考察してレポート提出する (60 分)</p>
-------	------------------------------	--

学修の到達目標	
到達目標 1	必要な歯科予防処置の基礎的な知識を身につけている
到達目標 2	歯科予防処置の技術を継続的に学修し、積極的に行動する
到達目標 3	う蝕のリスク評価の実践に必要な情報を収集・整理・分析して活用することができる
到達目標 4	歯・歯肉・口腔の診査結果に対して、自己の思考を振り返り、模索することができる
到達目標 5	フッ化物局所応用の術式に対して、正しい知識や技術をもって実施することができる

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	必要な歯科予防処置の知識を確実に身につけている。
	優	必要な歯科予防処置の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	必要な歯科予防処置の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	必要な歯科予防処置の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	必要な歯科予防処置の知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者の助言や何らかの外発的条件付けのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力を示すことがない。
到達目標 3	秀	自発的に情報を収集、整理、分析・活用でき、社会へ発信できるレベルのものである。
	優	自発的に情報を収集、整理、分析・活用でき、他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集、整理、分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば、ある程度自発的に情報を収集、整理、分析できる。
	不可	情報を収集、整理、分析できない。
到達目標 4	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、客観的に検証し、さらなる思考を導き出すことができる
	優	自発的に自分の判断に疑問を持ち、客観的に検証し、さらなる思考を導き出すことができる。
	良	ある程度自発的に自分の判断に疑問を持ち、客観的に検証し、課題について取り組むことができる。
	可	他者からの助言があれば、自分の判断に疑問を持ち、客観的に検証し、課題をみつけることができる。
	不可	自分の判断に疑問を持つことができず、課題をみつけることもできない。
到達目標 5	秀	フッ化物歯面塗布法について自らの正しい多くの知識をもって術式を行うことができ、患者へ安全な対応を常に行い、他者へフッ化物の効果の説明することができる。
	優	フッ化物歯面塗布法について自らの正しい知識をもって術式を行うことができ、患者へ安全な対応を行い、他者へフッ化物の効果の説明することができる。
	良	フッ化物歯面塗布法についてある程度の正しい知識をもって術式を行うことができ、他者へフッ化物の効果の説明することができる。
	可	フッ化物歯面塗布法について正しい知識を理解しており、他者からの協力があれば術式を行うことができる。
	不可	フッ化物歯面塗布法について正しい知識を理解しておらず、フッ化物の効果の説明することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	10	20	0	10	0	100
到達目標 1	20	0	0	0	5	0	25
到達目標 2	20	0	0	0	5	0	25
到達目標 3	10	5	5	0	0	0	20
到達目標 4	0	5	5	0	0	0	10
到達目標 5	10	0	10	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	試験内容は教科書・配布資料から出題し、講義過程において知識が修得できているかを評価する。
提出物	事後レポート提出により、学修成果を評価する。
成果発表 (口頭・実技)	自己の口腔内情報におけるリスク評価についてのレポート提出、フッ化物歯面塗布法の術式の実施評価により学修成果を評価する。
ポートフォリオ	歯科予防処置の知識・技術に対するポートフォリオの作成・提出により評価する。

履修に必要な知識・技能など
<p>歯科予防処置論で学修した歯科衛生士に必要な知識を技術の修得とともに実践する演習です。技術の修得は、積み重ねと振り返りが重要となりますので体調管理に注意して受講するようにして下さい。また、自己の口腔に関心を持ち、歯科予防処置に関連する社会の情勢に興味を持つように心掛けてください。</p>

教科書・ISBN
9784263428634 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
9784263422410 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版』中垣晴男 加藤一夫 石飛國子 高坂利美 編著 医歯薬出版
9784263428399 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
9784263428627 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

参考書

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
口腔健康支援総論 (T13400)	講義	1	15	1	前期	必修	—	福田昌代
科目担当者	福田昌代							

授業の概要	口腔健康支援総論では、歯科衛生士の主要業務である歯科保健指導の基礎として、歯科保健指導の定義、健康と予防の概念、健康教育と歯科保健指導、保健行動の理論などに関する知識を修得し、歯科保健指導を実践する際の要となる基本的な考え方を学修する。また、医療人になるべく人材として、自分自身の健康管理力の醸成と健康観の育成を図る。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業		(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有・無) () その他 ()					
教員の実務経験	〈歯科衛生士〉 当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション・歯科保健指導の定義・予防の概念	【事前】教本の「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」の総論を熟読する。シラバスを読んでおく。(60分) 【事後】授業の内容を振り返る。QOLについて調べておく。(120分)
第2回	QOLを考える KJ法とは	【事前】教本の「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」の総論を熟読する。QOLについて調べる。(60分) 【事後】授業資料の振り返りをする。(120分)
第3回	健康の概念①(グループワーク)	【事前】健康について自身の考えをまとめる。(120分) 【事後】グループ発表の準備(180分)
第4回	健康の概念②(発表・解説)	【事前】グループ発表の準備(180分) 【事後】他者の発表についての感想と発表を聞いた内容を反映して自身の健康観についてまとめる。(120分)
第5回	行動変容①(理論)	【事前】教本の「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」の4章を熟読する。(60分) 【事後】授業の内容を振り返る。(120分)
第6回	行動変容②(実践)	【事前】行動変容について復習する。(90分) 【事後】授業の内容を振り返る。(120分)
第7回	健康教育と歯科保健指導	【事前】教本の「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」p5-8までを熟読する。(60分) 【事後】授業の内容を振り返る。(120分)
第8回	口腔の健康の意義について・授業のまとめ	【事前】前期の授業を踏まえて、口腔の健康の意義について考察する。(120分) 【事後】定期試験に向けてまとめ学修をする。(180分)

学修の到達目標	
到達目標 1	1. 健康の概念・予防の概念について述べることができる。
到達目標 2	2. 保健、医療、福祉分野の QOL について述べるができる。
到達目標 3	3. 各種保健行動理論を説明できる。
到達目標 4	4. グループで協調し、グループワークに能動的に参加することができる。
到達目標 5	5. 自身の健康管理力を実践できる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	健康の概念・予防の概念について深く理解することができており、それを他者に説明し、理解させることができるレベルで学修できている。
	優	健康の概念・予防の概念について十分理解し、具体的に述べるができる。
	良	健康の概念・予防の概念について述べるができる。
	可	健康の概念・予防の概念について、最低限度述べるができる。
	不可	健康の概念・予防の概念について述べるができない。
到達目標 2	秀	保健、医療、福祉分野の QOL について深く理解することができており、それを他者に説明し、理解させることができるレベルで学修できている。
	優	保健、医療、福祉分野の QOL について十分理解し、具体的に述べるができる。
	良	保健、医療、福祉分野の QOL について述べるができる。
	可	保健、医療、福祉分野の QOL について最低限度述べるができる。
	不可	保健、医療、福祉分野の QOL について述べるができない。
到達目標 3	秀	各種行動理論について深く理解することができており、それを他者に説明し、理解させることができるレベルで学修できている。
	優	各種行動理論について十分理解し、他者に説明することができる。
	良	各種行動理論について、理解し、自分自身で説明することができる。
	可	各種行動理論について、最低限度説明することができる。
	不可	各種行動理論について説明できない。
到達目標 4	秀	グループワークにおいて自分自身の思いや意見を他者に伝えることができ、グループの中心となって積極的にまとめることができる。
	優	グループワークにおいて自分自身の思いや意見を他者に伝えることができ、グループ内の他者の意見をまとめることができる。
	良	グループワークにおいて自分自身の思いや意見を他者に伝えワークに積極的である。
	可	グループワークにおいて自分自身の思いや意見を他者に伝えることができるが、積極性は低い。
	不可	グループワークにおいて自分自身の思いや意見を他者に伝えるができない。
到達目標 5	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	10	10	10	0	10	100
到達目標 1	30	5	0	0	0	0	35
到達目標 2	20	5	0	0	0	0	25
到達目標 3	10	0	0	0	0	0	10
到達目標 4	0	0	10	10	0	0	20
到達目標 5	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験（持ち込み不可）
提出物	提出期日を過ぎると減点になるが、未提出はさらに減点となるので、提出期日を過ぎても提出すること
成果発表 (口頭・実技)	グループで協力した発表であること。また目的・結果・考察を明確にすること
作品	グループ毎の発表の成果物
その他	授業態度、積極性、忘れ物など

履修に必要な知識・技能など
<ul style="list-style-type: none"> ・課題学習には図書館を活用すること。 ・レポート等は教科書および参考図書を熟読し、理解して整理し、自分の言葉で書くこと。 ・グループワークを行うので、積極的に関わること。 ・欠席しないように体調管理を行うこと。

教科書・ISBN
9784263428634 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

参考書
『医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎』 松本千明 著 医歯薬出版
『医療・保健スタッフのための健康行動理論 実践編』 松本千明 著 医歯薬出版
『保健医療における コミュニケーション・行動科学』 高江洲 義矩 著 医歯薬出版
『ヘルスプロモーションのすすめ』 島内憲夫 垣内出版株式会社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
口腔健康支援各論 (T13410)	講義	2	30	1	後期	必修	—	福田昌代
科目担当者	福田昌代							

授業の概要	口腔健康支援各論は、前期の口腔健康支援総論を受け、歯科衛生士が行う個別歯科保健指導の基礎として、自己の口腔健康管理方法を修得する。具体的には、情報収集・行動把握（生活・食生活）・口腔観察・口腔清掃状態の評価法・各種口腔清掃用具の使用法・各種口腔清掃法等についての知識を学修する。また、2年生の患者となり、患者体験を通じて歯科衛生士の興味や手技への関心につなげる。この学びを通じて、口腔の疾患は、細菌感染症であることを理解し、歯科衛生士は口腔の健康を通して全身の健康の保持増進に寄与できる職業であることへの気づきの学修とする。							
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業				(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有・ 無) () その他 ()			
教員の実務経験	〈歯科衛生士〉 当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務(臨床)経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。							

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション・歯科保健指導とは何か	【事前】シラバスを読んでおく(30分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り(120分)
第2回	口腔の基礎知識(正常な口腔像)	【事前】第2回配布ノートの事前学修(90分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り(120分)
第3回	口腔内観察①(口腔の異常像:歯・歯肉)	【事前】第3回配布ノートの事前学修(90分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り(120分)
第4回	口腔内観察②(付着物・沈着物)	【事前】第4回配布ノートの事前学修(90分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り(120分)
第5回	口腔内観察①(自己の口腔内観察)プラーク染色法	【事前】第5回配布ノートの事前学修(90分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り・自己の口腔内観察の続き(180分)
第6回	なぜ歯口清掃をするのか(自分の歯口清掃方法の確認)	【事前】第6回配布ノートの事前学修と自分の歯口清掃法の記録(180分) 【事後】授業の振り返りと継続した歯口清掃(180分)
第7回	小テスト①・指数①(OHI・OHI-S)	【事前】小テストの準備学修と第7回配布資料の事前学修(180分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り(120分)
第8回	指数②(プラーク指数:PCR・歯周疾患指数)	【事前】第8回配布ノート事前学修(90分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り(120分)
第9回	指数③(指数に関する練習問題)	【事前】第7・8回の資料の見直しと第9回配布ノートの事前学修(180分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り(120分)
第10回	患者体験・自身の口腔内の状態を知る	【事前】第10回の授業資料の事前学修(60分) 【事後】授業・配布資料の振り返り・自己の口腔内の状態の考察(120分)
第11回	口腔清掃法①(歯ブラシ)	【事前】第11回配布ノートの事前学修(90分) 【事後】授業・配布ノートの振り返り(120分)

第 12 回	口腔清掃法②（ブラッシング法）	【事前】第 12 回配布ノートの事前学修（90 分） 【事後】授業・配布ノートの振り返り（120 分）
第 13 回	口腔清掃法③（補助的清掃用具）	【事前】第 13 回配布ノートの事前学修（90 分） 【事後】授業・配布ノートの振り返り（120 分）
第 14 回	口腔清掃法④（洗口剤等）自己の口腔清掃法の検討	【事前】第 14 回配布ノートの事前学修（90 分） 【事後】小テストに向けて第 8 回～ 14 回までの配布ノートの見直し、自己の口腔清掃法のまとめ（180 分）
第 15 回	小テスト②・グループワーク（自己の口腔清掃法の確立）まとめ	【事前】小テストの準備学修と第 15 回配布ノートの事前学修（120 分） 【事後】全体の振り返り、定期試験にむけてのまとめ（180 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	1. 口腔疾患の原因について説明できる。
到達目標 2	2. 口腔清掃の意義を説明できる。
到達目標 3	3. 各種口腔清掃法を具体的に述べることができる。
到達目標 4	4. 口腔清掃の評価方法を解釈できる。
到達目標 5	5. 自己の口腔健康管理実践できる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	口腔疾患の原因について十分に理解し、他者に対して具体的に説明し、理解させることができるレベルに学修できている。
	優	口腔疾患の原因について十分に理解し、他者に対して具体的に説明することができる。
	良	口腔疾患の原因について説明することができる。
	可	口腔疾患の原因について最低限度説明することができる。
	不可	口腔疾患の原因を説明できない。
到達目標 2	秀	口腔清掃の意義について十分に理解・実践し、具体的な方法について他者に説明し、理解させることができるレベルで学修できている。
	優	口腔清掃の意義について十分に理解・実践し、その方法等について他者に説明することができる。
	良	口腔清掃の意義について理解し、説明することができる。
	可	口腔清掃の意義について最低限度説明することができる。
	不可	口腔清掃の意義について説明できない。
到達目標 3	秀	各種口腔清掃法について十分に理解し、必要な方法を実践することができる。また、具体的な方法について他者に説明し、理解させることができるレベルで学修できている。
	優	各種口腔清掃法について十分に理解し、必要な方法を実践することができる。また、その方法等について他者に説明することができる。
	良	各種口腔清掃法について理解し、必要な方法を実践することができる。
	可	各種口腔清掃法について最低限度述べるることができる。
	不可	各種口腔清掃法について述べることができていない。
到達目標 4	秀	口腔清掃の評価方法を十分に理解し、解釈できており、すべての方法について具体的に他者に説明し、理解させることができるレベルで学修できている。
	優	口腔清掃の評価方法を十分に理解し、解釈できており、その方法等について他者に説明することができる。
	良	口腔清掃の評価方法について、解釈できている。
	可	口腔清掃の評価方法について最低限度解釈できている。
	不可	口腔清掃の評価方法について解釈できていない。

到達目標 5	秀	授業で学んだことをふまえて、自己の口腔内を観察し分析した上で、効果的に清掃する方法について十分考察し、実践できる。
	優	授業で学んだことをふまえて、自己の口腔内を観察し、効果的に清掃する方法について考察し、実践できる。
	良	授業で学んだことをふまえて、自己の口腔内を観察し、効果的に清掃する方法について考察することができる。
	可	授業で学んだことをふまえて、自己の口腔内を観察し、口腔清掃する方法についてある程度考察することができる。
	不可	自己の口腔内を観察や口腔清掃する方法について実践できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	10	0	0	0	20	100
到達目標 1	20	5	0	0	0	5	30
到達目標 2	20	0	0	0	0	5	25
到達目標 3	20	0	0	0	0	5	25
到達目標 4	10	0	0	0	0	5	15
到達目標 5	0	5	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15回の授業後に、授業の成果確認のため筆記試験を実施する。試験は教科書と配布ノートから出題し、授業の過程において知識が修得できているかを確認する。
提出物	第14回目の授業終了後または定期試験後に配布ノートを提出してもらい、そのノートの記載内容がどれだけ充実したものになっているかを評価する。また、第15回目終了時に自己の口腔清掃法についてのレポートを提出してもらい、レポートの記述内容をもって評価する。各回授業後にレポートを提出した場合はそれも評価の対象とする。
その他	第7回目と第15回目に小テストを実施し、その結果をもって評価する。

履修に必要な知識・技能など
<p>初回の授業時に授業に使用するノートを配布する。</p> <p>毎回の授業前には必ずその回の内容に関するページを読んでおくこと。配布ノートは知識習得のためのツールとなりうるものであるため、授業の説明で教員が提示した内容を書き込むだけでなく教科書や口頭での説明などを詳細に記載し充実したノートに作り上げていく必要がある。また、知識を技術に繋げていくことができるように、自己の口腔内の観察を行い自己の口腔清掃法を考察することができることを目標に、毎日の歯磨き習慣に興味を持ち日々を過ごすこと。第8回目と第15回目に小テストを行い、知識の確認を行う。</p> <p>この科目は、歯科衛生士の業務にかかわる重要な科目であり、次に続く実践科目の基礎となるものであるため、体調を整え講義には必ず出席をすること。</p>

教科書・ISBN
9784263428634 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
9784762416811 『オーラルヘルスケア事典』松田裕子編著 学建書院

参考書
『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『改訂歯ブラシ事典』松田裕子編著 学建書院
『最新歯科衛生士教本 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目 責任者名
学びの基礎 (T13800)	講義	1	15	1	前期	必修	—	吉田幸恵
科目担当者	吉田幸恵、福田昌代、八木孝和、高橋由希子、山城圭介、江崎ひろみ、森谷徳文、上原弘美、澤田美佐緒、破魔幸枝、中村美紀、室崎友輔、宮澤絢子、浅枝麻夢可、水村容子、氏橋貴子、川野亜希、伴仲謙欣							

授業の概要	本講義は学科教員全員が担当し、中盤では小グループ（学生 6 名程度）に分かれて授業を行う。グループワークや入学前課題の発表等を通じて大学での学び方や学生生活の過ごし方などを知る。また、本学科の教育理念である「いのちに対する温かく豊かな感性と高い倫理観」を養う第一歩として、市民救急救命士の講習を受講する。授業後半は病院や関連施設における医療・福祉専門職者の働く姿をグループワークを通じて学修し、専門職者や目指す歯科衛生士の役割、将来の歯科衛生士として目指すべきあり方に対する理解を深める。	
アクティブ・ラーニングの要素	<input type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ICT (manaba) 活用の自主学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 課題解決型学習(外部協定 有・無) <input type="checkbox"/> その他()
教員の実務経験	本講義は、長年、歯科臨床ならびに歯学教育に携わってきた、歯科医師・歯科衛生士ならびに看護師、防災プランナー、キャリアコンサルタント、教育学など多彩な資格と経歴を有する講師で構成されており、それぞれの実務経験を活かして、学生の今後の大学生活の支援と助言を行っている。	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	全体ガイダンス オリエンテーション(含図書館利用について)、グループワーク時の担当チューター紹介、キャリアガイダンス(歯科衛生士の働き方について)	【事前】 高校までのキャリアパスポート内容を確認し、説明できるようにしておくこと。学生便覧の内容および履修科目について確認しておくこと。(60分) 【事後】 図書館の活用方法などを配布された資料などを基に確認すること。 ガイダンス後の課題レポートを作成し、期限内に提出すること。(120分)
第 2 回	市民救命救急士講習	【事前】 事前に WEB 講習会を視聴しておくこと。(120分) 【事後】 受講後のレポートを作成すること(90分)
第 3 回	チューター制によるグループワーク(1) 自己紹介と主体的に学習するための大学生活の過ごし方 (担当者:チューター担当教員*)	【事前】 高校までのキャリアパスポートを準備し、自己紹介に活用できるように準備すること。また、社会の一員として、歯科衛生士として働くために、どのような大学生活を送るべきかを考え、一週間の過ごし方を書き出すこと。(60分) 【事後】 受講後に課題レポートを作成すること。(120分)
第 4 回	チューター制によるグループワーク(2) 入学前課題プレゼンテーション (担当者:チューター担当教員*)	【事前】 入学前課題を確認し、すべての内容を説明できるようにすること。(90分) 【事後】 受講時の指摘事項を確認し、発表形式(パワーポイントや紙)にまとめる準備をすること。(90分)
第 5 回	チューター制によるグループワーク(3) 入学前課題プレゼンテーション (担当者:チューター担当教員*)	【事前】 入学前課題を発表形式(パワーポイント・模造紙等)にまとめること。(120分) 【事後】 受講時の指摘事項を確認し、発表物を指定期限内に提出すること。(60分)

第 6 回	チューター制によるグループワーク (4) 歯科衛生士としての病院等での働き方と地域での働き方について話し合う (担当者：チューター担当教員*)	【事前】 病院や医療と福祉について事前に調べてくること。(60分) 【事後】 多職種連携について理解し、歯科衛生士の役割について考え、ノートにまとめること。(120分)
第 7 回	チューター制によるグループワーク (5) 歯科衛生士に必要なスキルについて話し合う (担当者：チューター担当教員*)	【事前】 これまでの授業を通して、歯科衛生士に求められるスキルについて調べておくこと。(60分) 【事後】 manaba 上でグループワークを行い、発表用のスライドを作成すること。(120分)
第 8 回	全体によるグループワーク グループプレゼンテーション「歯科衛生士に必要なスキルについて」	【事前】 manaba 上でグループワークを行い、発表用のスライドを完成させること。(90分) 【事後】 歯科衛生士に必要なスキルについてのレポートを指定期限内に提出すること。(120分)

学修の到達目標	
到達目標 1	グループワークに能動的に参加できる。
到達目標 2	専門職（歯科衛生士を含む）の役割が理解できる。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができる。その際、文字や話し言葉、表現方法については、他者が理解できるように配慮する能力がある。
	優	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができる。その際、文字や話し言葉、表現方法は適切であり、他者が理解しやすい。
	良	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を、文字や話し言葉、態度等の表現方法で他者に伝えることができる。
	可	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を何らかの方法で他者に伝えることができる。
	不可	グループワークや入学前課題の発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができない。
到達目標 2	秀	自己学習やグループワークで得た歯科医療情報を整理・分析した上で、さらに自発的な情報収集を行い、専門職の役割を理解し、目指す歯科衛生士について言及できる。
	優	自己学習やグループワークで得た歯科医療情報を整理・分析した上で、さらに自発的な情報収集を行い、専門職の役割を理解することができる。
	良	自己学習やグループワークで得た歯科医療情報を整理・分析し、専門職の役割を理解することができる。
	可	自己学習やグループワークで得た歯科医療情報を整理・分析しているが、専門職の役割に対する理解度が低い。
	不可	自己学習やグループワークで得た歯科医療情報が十分に整理・分析されていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	20	0	0	20	100
到達目標 1	40	0	10	0	0	10	60
到達目標 2	0	20	10	0	0	10	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	レポート提出内容（論理性、積極性、理解度等）
成果発表 （口頭・実技）	入学前課題と第8回のグループワークの口頭発表
その他	グループワークへの参加姿勢・提出物の提出状況

履修に必要な知識・技能など
1. 高校と大学での学び方や過ごし方の違いを考えてきて下さい。 2. グループワークに積極的に参加して下さい。 3. 高校まで使用してきたキャリアパスポートを準備しておくこと。

教科書・ISBN
授業中に適宜資料を配布する。

参考書
① 神戸常盤大学 HP（ホームページ）：シラバス検索： https://portalsys.kobe-tokiwa.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx ② 図書館 HP： https://libweb.kobe-tokiwa.ac.jp/ ③ 公益社団法人日本歯科衛生士会 HP「歯科衛生士の仕事とは」： https://www.jdha.or.jp/aboutdh/

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

ルーブリック		
評価基準		
到達目標 1	秀	歯科衛生士の役割を十分なレベルで理解し、それをさらに深いものにするための努力を怠らない。
	優	歯科衛生士の役割を十分なレベルで理解している。
	良	歯科衛生士の役割を概ね理解している。
	可	歯科衛生士の役割は助言により理解している。
	不可	歯科衛生士の役割を理解していない。
到達目標 2	秀	歯科衛生士としての未来像を十分なレベルで明確にし、それを今後への学修へと動機づけることができる。
	優	歯科衛生士としての未来像を概ね明確にし、それを今後への学修へと動機づけることができる。
	良	歯科衛生士としての未来像を助言により明確にし、それを今後への学修へと動機づけることができる。
	可	歯科衛生士としての未来像を助言によりある程度明確にし、それを今後への学修へと動機づけることができる。
	不可	歯科衛生士としての未来像を明確にできず、今後への学修へと動機づけることもできない。
到達目標 3	秀	歯科衛生士が働く場を知り、そこで働く他職種と深く交流し、その職種について十分なレベルで理解できる。
	優	歯科衛生士が働く場を知り、そこで働く他職種について十分なレベルで理解できる。
	良	歯科衛生士が働く場を知り、そこで働く他職種について概ね理解できる。
	可	歯科衛生士が働く場を知り、そこで働く他職種について助言により理解できる。
	不可	歯科衛生士が働く場での他職種について理解できない。
到達目標 4	秀	大学関連施設の役割・機能を深く理解し、自ら率先して地域貢献を行うことができる。
	優	大学関連施設の役割・機能を深く理解し、助言があれば地域貢献を行うことができる。
	良	大学関連施設の役割・機能を概ね理解し、地域貢献についても概ね理解している。
	可	大学関連施設の役割・機能をある程度理解し、地域貢献についてもある程度理解している。
	不可	大学関連施設の役割・機能、または地域貢献について理解していない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	20	0	0	30	50	100
到達目標 1	0	10	0	0	10	20	40
到達目標 2	0	10	0	0	10	20	40
到達目標 3	0	0	0	0	5	5	10
到達目標 4	0	0	0	0	5	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	実習前後にレポートを作成し、提出する。
ポートフォリオ	実習に関わるレポート、自己学習等を掲示する様式で提出する。
その他	実習に対する姿勢（積極性・リーダーシップ性 等）や自己管理能力を評価する。

履修に必要な知識・技能など
歯科衛生士としての未来像を明確にすることは、大学4年間の学習意欲に繋がると思います。積極的に実習に臨んでください。

教科書・ISBN

参考書

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。